志木市の文化財　第70集

志木市遺跡群23

西原大塚遺跡第180地点

西原大塚遺跡第182地点

西原大塚遺跡第183地点

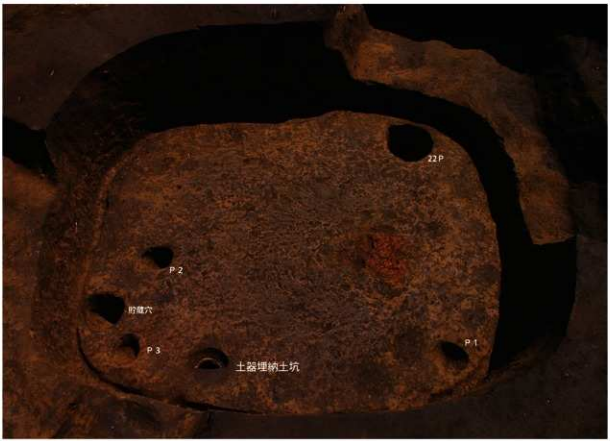
西原大塚遺跡第184地点

2018

埼玉県志木市教育委員会

志木市の文化財　第70集　志木市遺跡群　23

埼玉県志木市教育委員会



576号住居跡

埋納土器出土状態

志木市の文化財　第70集

志木市遺跡群23

西原大塚遺跡第180地点

西原大塚遺跡第182地点

西原大塚遺跡第183地点

西原大塚遺跡第184地点

2018

埼玉県志木市教育委員会

は じ め に

志 木 市 教 育 委 員 会
教育政策部長　土岐　隆一

ここに刊行する『志木市遺跡群 23』は、平成 24 年度に国庫補助事業として、教育委員会が発掘調査を実施した成果をまとめたものです。

今回報告する遺跡は、西原大塚遺跡第 180・182・183・184 地点の 4 地点で、平成 24 年度は西原大塚遺跡内で個人住宅建設に伴う発掘調査が多かったと言えます。

これは、平成 20 年度に西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査が完了し、その後、新設道路が完備し、生活道路としての機能が安定してきたことを示すものと思われます。

さて、今回の西原大塚遺跡の調査成果を以下にまとめてみることにします。

まず、第 180 地点の調査では、縄文時代前期の住居跡 1 軒と弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡 12 軒が、調査面積約 150㎡という比較的に狭小な範囲で集中して発見されました。

次に第 182 地点では、縄文時代中期の住居跡 1 軒と弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡 4 軒、そして第 183・184 地点では弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡 1 軒と 2 軒が発見されました。

このことから、今回報告する西原大塚遺跡の調査では、弥生時代末～古墳時代前期の住居跡が多く発見されたと言えるでしょう。西原大塚遺跡では、この時代の住居跡が現時点で約 600 軒と、非常に多く発見されています。この軒数ですが、おそらく埼玉県内でもトップクラスに入るものと思われます。さらに当時の村を治めていたと考えられる首長クラスの墓「方形周溝墓」が 35 基発見されていることを考えると、当時は強力な統治体制があり、人々は安定した生活を営んでいた様子を容易に想像することができます。

このように、今回の調査においても本市の歴史を知る上で欠くことのできない貴重な資料を得ることができました。この成果が郷土史研究をはじめ、多くの人々に幅広く活用されることを切に願っております。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり、格別のご理解とご協力を頂いた事業主体者や土地所有者、そして深いご理解とご協力を賜りました地元の多くの方々並びに関係者に対し、心から感謝申し上げる次第です。

例　言

1．本書は、埼玉県志木市に所在する遺跡群のうち、平成24年度に発掘調査を実施した西原大塚遺跡第180・182・183・184地点の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．発掘作業・整理作業・報告書刊行作業は、志木市教育委員会が主体となり、国庫及び県費の補助金の交付を受け実施した。

3．本書の作成において、編集は大久保　聡が行った。執筆は、下記以外を大久保が行った。
　尾形　則敏　　第１章

4．遺物の実測は、下記整理作業参加者が行った。遺構・遺物のデジタルトレースは深井恵子・青木　修が行った。遺物の写真撮影は青木が行った。

5．表土剥ぎ及び埋戻し作業については、株式会社大塚屋商店に委託した。

6．石器の計測・図化については、有限会社アルケーリサーチに委託した。

7．本報告に係る出土品及び記録図面・写真等は、志木市立埋蔵文化財保管センターに一括して保管している。

8．調査組織（平成29年度）

調査主体者	志木市教育委員会
教育長	尾崎健市（～平成29年10月）
教育政策部長	土岐隆一
生涯学習課長	小日向啓和
生涯学習課主幹	佐野由美子
生涯学習課主査	浅見千穂
〃	尾形則敏
〃	武井香代子
生涯学習課主任	松永真知子
〃	徳留彰紀
〃	大久保　聡
志木市文化財保護審議会	井上國夫（会長）
〃	高橋　豊（委員）
〃	上野守嘉（委員）
〃	深瀬　克（委員）
〃	新田泰男（委員）（平成29年５月～）

9．発掘作業及び整理作業参加者

〈西原大塚遺跡第180地点〉

○発掘作業

調査担当者	尾形則敏・徳留彰紀・大久保　聡
調査員	深井恵子・青木　修
調査補助員	鈴木浩子・星野恵美子

協　　力　　員　　江口三千子・大橋康広・林　ゆき子・松浦恵子・村田浩美
重機オペレータ　　田中三二（株式会社大塚屋商店）
○整理作業
調　　査　　員　　深井恵子・青木　　修
調査補助員　　星野恵美子・鈴木浩子
作　　業　　員　　青木栄一・池野谷有紀・江口三千子・大橋康広・小林　　律・高田美智子・
二階堂美知子・林　ゆき子・一二三英文・増田千春・松浦恵子・
村田浩美・山口優子

〈西原大塚遺跡第182地点〉
○発掘調査
調査担当者　　尾形則敏・德留彰紀・大久保　聡
調　　査　　員　　深井恵子
調査補助員　　鈴木浩子
協　　力　　員　　青木栄一・江口三千子・大橋康広・小林　　律・高木英利・林　ゆき子・
一二三英文・松浦恵子・村田浩美
重機オペレータ　　田中三二（株式会社大塚屋商店）
○整理作業
調　　査　　員　　深井恵子・青木　　修
調査補助員　　鈴木浩子・星野恵美子
作　　業　　員　　江口三千子・大橋康広・高田美智子・二階堂美知子・林　ゆき子
一二三英文・松浦恵子・村田浩美・山口優子

〈西原大塚遺跡第183地点〉
○発掘調査
調査担当者　　尾形則敏・德留彰紀・大久保　聡
調　　査　　員　　深井恵子
協　　力　　員　　青木栄一・林　ゆき子
重機オペレータ　　田中三二（株式会社大塚屋商店）
○整理作業
調　　査　　員　　深井恵子・青木　　修
調査補助員　　星野恵美子
作　　業　　員　　池野谷有紀・大橋康広・一二三英文・山口優子

〈西原大塚遺跡第184地点〉
○発掘調査
調査担当者　　尾形則敏・德留彰紀・大久保　聡
調　　査　　員　　深井恵子
協　　力　　員　　小林　　律・高木英利・林　ゆき子
重機オペレータ　　田中三二（株式会社大塚屋商店）

○整理作業

調　査　員　深井恵子・青木　修

調査補助員　星野恵美子

作　業　員　池野谷有紀・林　ゆき子・一二三英文・村田浩美・山口優子

11. 発掘作業・整理作業・報告書刊行作業には、以下の諸機関・諸氏のご教示・ご援助を賜った。記して感謝する次第である（敬称略）。

埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課・（公財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団・朝霞市教育委員会・朝霞市博物館・新座市教育委員会・和光市教育委員会・富士見市教育委員会・富士見市立水子貝塚資料館・富士見市立難波田城資料館

五十嵐　睦・江原　順・加藤秀之・川畑隼人・隈本健介・小出輝雄・斉藤　純

齋藤欣延・斯波　治・鈴木一郎・照林敏郎・中岡貴裕・野沢　均・早坂廣人

堀　善之・前田秀則・松本富雄・宮田圭祐・柳井章宏・山本　龍・山田尚友

山本典幸・和田晋治・渡辺邦仁

12. 本報告に係る文化財保護法に基づく各種届出等及び指示通知については、下記の通りである。

〈西原大塚遺跡第180地点〉

○周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）

平成24年7月12日付け　教生文第5－326号

○埋蔵物の文化財認定について（通知）

平成27年2月20日付け　教生文第7－298号

〈西原大塚遺跡第182地点〉

○周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）

平成24年9月21日付け　教生文第5－623号

○埋蔵物の文化財認定について（通知）

平成25年3月18日付け　教生文第7－195号

〈西原大塚遺跡第183地点〉

○周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）

平成24年11月28日付け　教生文第5－991号

○埋蔵物の文化財認定について（通知）

平成25年3月18日付け　教生文第7－191号

〈西原大塚遺跡第184地点〉

○周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）

平成24年12月3日付け　教生文第5－1008号

○埋蔵物の文化財認定について（通知）

平成25年3月18日付け　教生文第7－192号

凡　例

1．本報告書で使用した地図は以下のとおりである。

第１図　　1：10,000「志木市全図」アジア航測株式会社調製

第２図　　1：2,500　ゼンリン電子住宅地図　デジタウン「埼玉県志木市」平成15年８月発行
株式会社ゼンリン

2．挿図版の縮尺は、それぞれに明記した。

3．遺構挿図版中の水糸レベルは、海抜標高を示す。また、同一遺構の水糸レベルは統一して示した。

4．ピット・掘り込み内の数値は、床面もしくは確認面からの深さを示し、単位はcmである。また、同一遺構内にあるピットでも、おそらく後世のピットと思われるものには、数値を省略した。

5．遺構挿図版中のドットは遺物出土位置を示すが、遺物が密集する場合は個体別にドットマークを換えて表示した。番号は遺物挿図版中の遺物番号と一致する。

6．遺構挿図版中のスクリーントーンについては、各挿図版内にその内容を示したが、遺物挿図版中のスクリーントーンは、土器の赤彩範囲を示す。

7．土器一覧表「法量」項中にある表記については、以下のとおりである。また、現存値は［　］、推定値は（　）を付した。

高：器高　　口：口径　　底：底径　　径：胴部最大径　　厚：器厚

8．土器・土製品一覧で使用した色調は、『新版　標準土色帖　1999年版』農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修を参考にした。

9．遺構の略記号は、以下のとおりである。

Ｊ＝縄文時代の住居跡　　Ｄ＝土坑　　Ｙ＝弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡

Ｐ＝ピット

目　次

巻頭図版／はじめに
例　言／凡　例／目　次／挿図目次／表 目 次／図版目次
第１章　平成24年度の調査成果 …… 1
　第１節　市域の地形と遺跡 …… 1
　第２節　調査に至る経緯 …… 9
第２章　西原大塚遺跡第180地点の調査 …… 11
　第１節　遺跡の概要 …… 11
　第２節　縄文時代の遺構・遺物 …… 15
　第３節　弥生時代後期～古墳時代前期の遺構・遺物 …… 21
　第４節　その他の時代の遺構 …… 64
　第５節　遺構外出土遺物 …… 66
第３章　西原大塚遺跡第182地点の調査 …… 71
　第１節　遺跡の概要 …… 71
　第２節　検出された遺構・遺物 …… 73
第４章　西原大塚遺跡第183・184地点の調査 …… 90
　第１節　遺跡の概要 …… 90
　第２節　検出された遺構・遺物 …… 92
第５章　調査のまとめ …… 97

［付編］自然科学分析
　Ⅰ　西原大塚遺跡から出土した炭化種実 …… 103

図　版
報告書抄録

挿図目次

第１図　市域の地形と調査地点―平成24年度―（1／20,000）…… 6
第２図　西原大塚遺跡の調査地点（1／5,000）…… 12
第３図　確認調査時の遺構分布図（1／150）…… 13
第４図　遺構分布図（1／150）…… 13
第５図　183号住居跡（1／60）…… 16
第６図　183号住居跡出土遺物（1／3）…… 16
第７図　土坑（1／60）…… 19
第８図　土坑出土遺物（1／3）…… 19
第９図　ピット（1／60）・出土遺物（1／3）…… 21
第10図　53号住居跡（1／60）…… 22
第11図　53号住居跡出土遺物（1／4・1／3・4／5）…… 23
第12図　55号住居跡（1／60・1／100）…… 26
第13図　55号住居跡出土遺物（1／3）…… 27
第14図　56号住居跡（1／60・1／100）…… 28
第15図　56号住居跡出土遺物（1／4・1／3）…… 28
第16図　570号住居跡（1／60・1／100）…… 30・31
第17図　570号住居跡遺物出土状態１（1／60）…… 32
第18図　570号住居跡遺物出土状態２（1／60）…… 33
第19図　570号住居跡出土遺物１（1／4）…… 34
第20図　570号住居跡出土遺物２（1／3）…… 35
第21図　570号住居跡出土遺物３（1／3）…… 36
第22図　570号住居跡出土遺物４（1／3）…… 37
第23図　571号住居跡（1／60・1／100）…… 44
第24図　571号住居跡出土遺物（1／4・1／3）…… 45
第25図　572号住居跡出土遺物（1／3）…… 47
第26図　573号住居跡（1／60）・出土遺物（1／3）…… 48
第27図　574号住居跡（1／60）…… 49
第28図　574号住居跡出土遺物（1／4・1／3）…… 49
第29図　575号住居跡（1／60）…… 51
第30図　575号住居跡出土遺物（1／4・1／3）…… 52
第31図　576号住居跡・土器埋納土坑（1／60・1／30）…… 55
第32図　576号住居跡出土遺物（1／4・1／3）…… 56
第33図　577号住居跡（1／60・1／100）…… 59
第34図　577号住居跡出土遺物（1／3）…… 59
第35図　578号住居跡（1／60・1／100）…… 60
第36図　578号住居跡出土遺物（1／3）…… 60

第37図　土坑（1／60）…… 62
第38図　694号土坑出土遺物（1／4）…… 62
第39図　ピット（1／60）…… 63
第40図　7号ピット出土遺物（1／3）…… 63
第41図　ピット（1／60）…… 64
第42図　遺構外出土遺物1（2／3・1／3）…… 67
第43図　遺構外出土遺物2（1／3）…… 68
第44図　確認調査時の遺構分布図（1／150）…… 72
第45図　遺構分布図（1／150）…… 72
第46図　20号住居跡・炉跡（1／60・1／30）…… 74
第47図　20号住居跡出土遺物（1／4・1／3・2／3）…… 75
第48図　109号住居跡（1／60）…… 77
第49図　109号住居跡出土遺物（1／4・1／3）…… 78
第50図　303号住居跡（1／60）…… 80
第51図　591号住居跡（1／60）…… 81
第52図　591号住居跡出土遺物（1／4・1／3）…… 82
第53図　592号住居跡（1／60）…… 83
第54図　遺構外出土遺物1（1／3）…… 84
第55図　遺構外出土遺物2（1／3）…… 86
第56図　遺構外出土遺物3（1／3・1／4）…… 87
第57図　確認調査時の遺構分布図（1／150）…… 91
第58図　遺構分布図（1／150）…… 91
第59図　317号住居跡（1／60）…… 92
第60図　318号住居跡（1／60）…… 93
第61図　318号住居跡出土遺物（1／4・1／3）…… 94
第62図　590号住居跡（1／60）…… 96
第63図　遺構外出土遺物（1／3）…… 96

表 目 次

第１表　志木市埋蔵文化財包蔵地一覧 …… 1
第２表　平成24年度調査地点一覧（１） …… 7
　　平成24年度調査地点一覧（２） …… 8
第３表　西原大塚遺跡第180地点の発掘調査工程表 …… 14
第４表　183号住居跡出土土器一覧 …… 17
第５表　土坑出土土器一覧 …… 19
第６表　ピット出土土器一覧 …… 21
第７表　53号住居跡出土土器一覧（１） …… 24
　　53号住居跡出土土器一覧（２） …… 25
第８表　53号住居跡出土石製品一覧 …… 25
第９表　55号住居跡出土土器一覧 …… 27
第10表　56号住居跡出土土器一覧 …… 29
第11表　570号住居跡出土土器一覧（１） …… 37
　　570号住居跡出土土器一覧（２） …… 38
　　570号住居跡出土土器一覧（３） …… 39
　　570号住居跡出土土器一覧（４） …… 40
　　570号住居跡出土土器一覧（５） …… 41
　　570号住居跡出土土器一覧（６） …… 42
　　570号住居跡出土土器一覧（７） …… 43
第12表　570号住居跡出土土製品一覧 …… 43
第13表　571号住居跡出土土器一覧（１） …… 46
　　571号住居跡出土土器一覧（２） …… 47
第14表　572号住居跡出土土器一覧 …… 47
第15表　573号住居跡出土土器一覧 …… 48
第16表　574号住居跡出土土器一覧 …… 50
第17表　575号住居跡出土土器一覧（１） …… 53
　　575号住居跡出土土器一覧（２） …… 54
第18表　576号住居跡出土土器一覧 …… 57
第19表　577号住居跡出土土器一覧 …… 59
第20表　578号住居跡出土土器一覧 …… 61
第21表　694号土坑出土土器一覧 …… 62
第22表　7号ピット出土土器一覧 …… 63
第23表　ピット一覧 …… 65
第24表　遺構外出土石器一覧 …… 69
第25表　遺構外出土土器一覧（１） …… 69
　　遺構外出土土器一覧（２） …… 70

第26表　遺構外出土土製品一覧 …… 70
第27表　西原大塚遺跡第182地点の発掘調査工程表 …… 73
第28表　20号住居跡出土土器一覧 …… 76
第29表　20号住居跡出土石器一覧 …… 76
第30表　109号住居跡出土土器一覧 …… 79
第31表　591号住居跡出土土器一覧 …… 82
第32表　遺構外出土石器一覧 …… 85
第33表　遺構外出土土器一覧（1） …… 87
　　遺構外出土土器一覧（2） …… 88
　　遺構外出土土器一覧（3） …… 89
第34表　遺構外出土土製品一覧 …… 89
第35表　318号住居跡出土土器一覧 …… 95
第36表　遺構外出土石器一覧 …… 96
第37表　遺構外出土土器一覧 …… 96
第38表　西原大塚遺跡から出土した炭化種実 …… 103

図版目次

図版1　西原大塚遺跡第180地点
　1．調査前風景　2．表土剥ぎ風景　3．遺構確認状況　4．表土剥ぎ（反転）風景
　5．遺構確認状況（反転後）　6．調査風景　7．183号住居跡　8．696号土坑
図版2　西原大塚遺跡第180地点
　1．700号土坑　2．53号住居跡　3・4．55号住居跡　5．55号住居跡Ｐ１
　6．55号住居跡Ｐ２　7．55号住居跡炉跡　8．55号住居跡掘り方
図版3　西原大塚遺跡第180地点
　1．56号住居跡　2．56号住居跡掘り方　3．570号住居跡　4．570号住居跡遺物出土状態
　5．570号住居跡Ｐ１　6．570号住居跡Ｐ２　7．570号住居跡Ｐ３　8．570号住居跡Ｐ４
図版4　西原大塚遺跡第180地点
　1．570号住居跡炉跡Ａ　2．570号住居跡旧床面　3．570号住居跡炉跡Ｂ
　4．570号住居跡掘り方　5．571号住居跡　6．571号住居跡Ｐ１　7．571号住居跡Ｐ２
　8．571号住居跡掘り方
図版5　西原大塚遺跡第180地点
　1．572号住居跡　2．573号住居跡　3．574号住居跡　4．574号住居跡遺物出土状態
　5．574号住居跡炉跡　6．575号住居跡　7・8．575号住居跡遺物出土状態
図版6　西原大塚遺跡第180地点
　1．575号住居跡Ｐ１　2．575号住居跡貯蔵穴　3．575号住居跡掘り方　4．576号住居跡
　5．576号住居跡Ｐ１　6．576号住居跡Ｐ２　7．576号住居跡Ｐ３　8．576号住居跡貯蔵穴

図版７　西原大塚遺跡第180地点

１．576号住居跡炉跡　２．576号住居跡赤色砂利層及び土器埋納土坑　３．576号住居跡

４．576号住居跡埋納土器出土状態　５．土器埋納土坑調査風景

６．576号住居跡埋納土器出土状態　７．土器埋納土坑調査風景

８．576号住居跡埋納土器出土状態

図版８　西原大塚遺跡第180地点

１．土器埋納土坑調査風景　２．576号住居跡土器埋納土坑掘り方　３．577号住居跡

４．577号住居跡掘り方　５．578号住居跡　６．578号住居跡貯蔵穴

７．578号住居跡掘り方　８．694号土坑

図版９　西原大塚遺跡第180地点

１．183号住居跡出土遺物　２．土坑・ピット出土遺物　３．53号住居跡出土遺物

図版10　西原大塚遺跡第180地点

１．55号住居跡出土遺物　２．56号住居跡出土遺物　３．570号住居跡出土遺物１

図版11　西原大塚遺跡第180地点

570号住居跡出土遺物２

図版12　西原大塚遺跡第180地点

１．570号住居跡出土遺物３　２．571号住居跡出土遺物　３．572号住居跡出土遺物

４．573号住居跡出土遺物

図版13　西原大塚遺跡第180地点

１．574号住居跡出土遺物　２．575号住居跡出土遺物　３．576号住居跡出土遺物１

図版14　西原大塚遺跡第180地点

１．576号住居跡出土遺物２　２．577号住居跡出土遺物　３．578号住居跡出土遺物

４．694号土坑出土遺物　５．７号ピット出土遺物

図版15　西原大塚遺跡第180地点

遺構外出土遺物

図版16　西原大塚遺跡第182地点

１．調査前風景　２．表土剥ぎ風景　３．1区遺構確認状況　４．2区遺構確認状況

５．3区遺構確認状況　６．20号住居跡　７．20号住居跡Ｐ６・７　８．20号住居跡Ｐ８

図版17　西原大塚遺跡第182地点

１・２．20号住居跡炉体土器　３・４．109号住居跡遺物出土状態

５．109号住居跡遺物出土状態（区画整理第17地点）　６．109号住居跡

７．109号住居跡Ｐ１　８．109号住居跡炉跡

図版18　西原大塚遺跡第182地点

１．303号住居跡　２・３．591号住居跡遺物出土状態　４．591号住居跡

５．591号住居跡Ｐ１　６．591号住居跡貯蔵穴　７．591号住居跡炉跡　８．592号住居跡

図版19　西原大塚遺跡第182地点

１．20号住居跡出土遺物　２．109号住居跡出土遺物

図版20　西原大塚遺跡第182地点

1．591号住居跡出土遺物　　2．遺構外出土遺物１

図版21　西原大塚遺跡第182点

遺構外出土遺物２

図版22　西原大塚遺跡第183・184地点

1．調査前風景　2．表土剥ぎ及び調査区整備風景　3．遺構確認状況（第183地点）

4．遺構確認状況（第184地点1区）　5．遺構確認状況（第184地点2区）

6．317号住居跡　7．317号住居跡炉跡　8．318号住居跡炉跡

図版23　西原大塚遺跡第183・184地点

1．590号住居跡　2．590号住居跡Ｐ１　3．埋戻し作業風景　4．埋戻し後風景

5．318号住居跡出土遺物　6．遺構外出土遺物（第184地点）

図版24　自然科学分析

西原大塚遺跡第180地点から出土した炭化種実

第１章　平成24年度の調査成果

第１節　市域の地形と遺跡

（１）地理的環境と遺跡分布

志木市は、埼玉県の南西部に位置し、市域はおおよそ南北4.71㎞、東西4.73㎞の広がりをもち、面積は9.05㎢（註１）、人口約７万５千人の自然と文化の調和する都市である。

地理的景観を眺めて見ると、市域東部の宗岡地区は、荒川（旧入間川）の形成した沖積低地が拡がり、市域西部の本町・柏町・幸町地区は、古多摩川によって形成された武蔵野台地の上にある。また、市内には東部に荒川、中央に古くは舟運で利用された新河岸川、そして西部から中央に新河岸川と合流する柳瀬川の３本の川が流れている。

こうした自然環境の中で、市内遺跡の大部分は、柳瀬川・新河岸川右岸流域の台地縁辺部に帯状に分布している。遺跡は柳瀬川上流から順に、西原大塚遺跡（７）、新邸遺跡（８）、中道遺跡（５）、城山遺跡（３）、中野遺跡（２）、市場裏遺跡（15）、田子山遺跡（10）、富士前遺跡（11）、大原遺跡（16）と名付けられている。また、荒川・新河岸川が形成した沖積低地でも、馬場遺跡（12）、宿遺跡（14）、

No.	遺跡名	遺跡の規模	地　目	遺跡の種類	遺跡の時代	主な遺構	主な遺物
2	中　野	65,780㎡	畑・宅地	集落跡	旧石器、縄（早～晩）、弥（後）、古（前～後）、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、井戸跡、溝跡等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器等
3	城　山	81,310㎡	畑・宅地	城館跡・集落跡	旧石器、縄（草創～晩）、弥（後）、古（前～後）、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、土坑墓、地下室、井戸跡、溝跡、柏城跡関連、鋳造関連等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、土師質土器、古銭、鋳造関連遺物等
5	中　道	52,980㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄（早～後）、弥（後）、古（前～後）、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、土坑墓、地下式坑、溝跡、道路状遺構等	石器、縄文土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭、人骨等
6	塚の山古墳	800㎡	林	古墳?	古　墳?	古　墳?	なし
7	西原大塚	164,455㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄（前～晩）、弥（後）、古（前・後）、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、井戸跡、溝跡等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭等
8	新　邸	20,080㎡	畑・宅地	貝塚・集落跡・墓跡	縄（早～中）、古（前・後）、中・近世、近代	貝塚、住居跡、土坑、方形周溝墓、井戸跡、溝跡、段切状遺構、ピット群等	石器、貝、縄文・弥生土器、土師器、陶磁器、古銭等
9	城山貝塚	900㎡	林	貝　塚	縄（前）	斜面貝塚	石器、縄文土器、貝
10	田子山	74,030㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	縄（草創～晩）、弥（後）、古（後）、奈・平、中・近世、近代	住居跡、土坑、方形・円形周溝墓、ローム採掘遺構、溝跡等	縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、炭化種子等
11	富士前	14,168㎡	宅　地	集落跡	縄文、弥（後）～古（前）、平安、近世以降	住居跡、土坑?、溝跡?	弥生土器、土師器
12	馬　場	2,800㎡	畑	集落跡	古（前）	住居跡?	土師器
13	関根兵庫館跡	4,900㎡	グランド	館跡	中世	不明	なし
14	宿	7,700㎡	田	館跡	中世	溝跡・井桁状構築物	木・石製品
15	市場裏	13,800㎡	宅　地	集落跡・墓跡	弥（後）～古（前）、中以降	住居跡・方形周溝墓・土坑	弥生土器、土師器、土師質土器
16	大　原	1,700㎡	宅　地	不明	近世以降?	溝跡	なし
合　計		505,403㎡					

平成30年1月31日現在

第１表　志木市埋蔵文化財包蔵地一覧

関根兵庫館跡（13）のように自然堤防上に存在する遺跡も明らかにされつつあり、将来的には新たな遺跡が相次いで発見される可能性がある。なお、現在市内の遺跡総数は、前述した12遺跡に塚の山古墳（６）、城山貝塚（９）を加えた14遺跡である（第１図）。

（２）歴史的環境

次に市内の遺跡を時代順に概観してみることにする。

１．旧石器時代

旧石器時代の遺跡は、柳瀬川右岸の中野・城山・中道・西原大塚遺跡で確認されている。

中道遺跡では、昭和62（1987）年の富士見・大原線（現ユリノキ通り）の工事に伴う発掘調査により、立川ローム層のⅣ層上部・Ⅵ層・Ⅶ層で文化層が確認されており、礫群、石器集中地点が検出されている。これにより、黒曜石製のスクレイパーやナイフ形石器、安山岩や凝灰岩の石核や剥片などが発見されている。

西原大塚遺跡では、西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査により、石器集中地点が検出されている。石器集中地点は、平成６（1994）年度には２ヶ所、平成７年（1995）度には１ヶ所が検出され、ナイフ形石器・剥片などが発見されている。

平成11～14（1999～2002）年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点からも立川ローム層の第Ⅳ層下部から、黒曜石・頁岩の石核・剥片が約60点出土している。

また、城山遺跡では、平成13（2001）年に発掘調査が実施された第42地点から、立川ローム層の第Ⅳ層上部と第Ⅶ層の２ヶ所で石器集中地点が検出され、黒曜石・安山岩・チャート・頁岩などの抉入石器・剥片など32点が出土している。平成20・21年に発掘調査が実施された第62地点（道路・駐車場部分）でも１ヶ所の石器集中地点が検出され、ナイフ形石器・剥片が出土している。

平成23（2011）年に発掘調査が実施された第71地点では、石器集中地点２ヶ所、礫群９基が検出され、特に礫群については、城山遺跡では初の発見例につながった。

最新では、平成27（2016）年に発掘調査された中野遺跡第91㋐地点からは、礫群１基が検出された。

２．縄文時代

縄文時代では、西原大塚遺跡を中心に中期後葉の遺跡が集中し、城山貝塚の周辺の城山遺跡からは、前期末葉（諸磯式期）の住居跡や土器がやや多く検出される傾向にある。

ここでは、時代の推移に従って説明することにする。まず、草創期では、平成４（1992）年に発掘調査が実施された城山遺跡第16地点から爪形文系土器１点、平成６（1994）年に発掘調査が実施された城山第21地点から多縄文系土器３点、第22地点から爪形文系土器１点、平成10（1998）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第51地点から有茎尖頭器１点が出土している。

早期では、遺構の検出例はまだ少ないが、住居跡として、平成18（2006）年に発掘調査が実施された中道遺跡第65地点で検出された早期末葉（条痕文系）の10号住居跡１軒が最古のものと言える。土器としては、田子山遺跡で撚糸文・沈線文・条痕文系土器が出土しているが、御嶽神社を中心とする東側でやや多く出土する傾向がある。最新資料では、平成23（2011）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第121地点のローム上層の遺物包含層から撚糸文系土器・石器がまとまって出土している。また、城山・中野・田子山遺跡からは、条痕文系土器が炉穴に伴い出土している。

前期では、西原大塚・新邸遺跡で住居跡（黒浜式期）、城山遺跡では住居跡（諸磯式期）が検出されている。そのうち、新邸遺跡のものは貝層をもつ住居跡である。また、平成２年度に市指定文化財に認定された城山貝塚も縄文海進期にあたるこの頃の時代に形成された斜面貝塚と考えられる。

中期になると遺跡が最も増加する。特に、中期中葉から後葉の勝坂式～加曽利Ｅ式期にはその傾向が強くなり、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で住居跡を中心に土坑が検出されている。特に西原大塚遺跡では、現時点で180軒以上の住居跡が環状に配置していることが判明しつつある。中期末葉からは遺跡が減少し、現在のところ西原大塚遺跡から敷石をもつ住居跡１軒が確認されているが、平成27（2016）年に発掘調査された中道遺跡第76地点からは、加曽利ＥⅣ式の両耳壷を出土する住居跡１軒が検出された。

後期では、西原大塚遺跡から堀之内式期の住居跡１軒と加曽利Ｂ式期の住居跡１軒、遺物集中地点１ヶ所、平成25（2013）年度に発掘調査が実施された中野遺跡第85地点からは、称名寺式期の市内初の柄鏡形住居（敷石住居）１軒が検出されている。また、その他の遺構としては、平成６（1994）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点で、土坑１基が検出され、称名寺式期の土器が出土している。最新資料として、平成26（2015）年に発掘調査された西原大塚遺跡第204地点や平成27・28（2016・2017）年に発掘調査された中野遺跡第91地点から、包含層出土遺物として、縄文時代後期（称名寺式～堀之内式期）の遺物が比較的まとまって出土している。

晩期では、中野・田子山遺跡から安行ⅢＣ式・千網式の土器片が少量発見されるにとどまり、以降市内では弥生時代後期まで空白の時代となる。

３．弥生時代～古墳時代前期

弥生時代では、現時点において、前・中期の遺跡は検出されていないが、後期末葉から古墳時代前期と考えられる遺跡が数多く検出されている。中でも、平成６（1994）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点の21号住居跡は後期中葉に比定される可能性があり、その住居跡からは、多数の土器をはじめ、大量の炭化種子（イネ・アワ・ダイズなど）、炭化材が出土し、当時の食糧事情を考える上で重要である。富士前遺跡では、『志木市史』にも掲載されているが、不時の発見に伴い、籠目痕をもつ壷形土器をはじめとした多くの土器が発見されている。

西原大塚遺跡では後期末葉から古墳時代前期にかけての住居跡が約600軒確認されており、市内最大の集落跡であることが判明している。特に、122号住居跡からは全国的にも稀な「イヌ」を象ったと思われる動物形土製品が出土している。平成24（2012）年に発掘調査が実施された第179地点からは、遺存状態は良好ではないが、市内初の銅釧が出土している。

昭和62（1987）年以降、西原大塚・田子山・市場裏遺跡の３遺跡において、方形周溝墓が検出されてきたが、最新では、平成15（2003）年に発掘調査が実施された新邸遺跡第８地点と平成18（2006）年に実施された中道遺跡第65地点でも、それぞれ１基が確認されている。これにより当時の墓域が、集落と単位的なまとまりをもって存在することが明らかになってきたと言えるであろう。

市内で最も多く方形周溝墓が検出されている西原大塚遺跡では、10号方形周溝墓の溝底から一括出土した中に畿内系の庄内式の長脚高坏が出土していることに注目される。また、平成11（1999）年に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第45地点では、一辺20mを超える市内最大規模の17号方形周溝墓が発見され、この方形周溝墓の溝からは、珍しい鳥形土製品をはじめ、畿内系の有段口縁壷、吉ヶ谷式

系の壷、在地系の壷などと大きく畿内・比企地域・在地の３要素の特徴を示す壷が出土している。こうした地域に関わる被葬者の人物像が浮き彫りにされたことで、当地域の弥生時代後期から古墳時代前期の歴史を紐解く手がかりになったことは重要である。

最新資料として、平成27（2016）年に発掘調査された中野遺跡第91地点から、市内最古と考えられる弥生時代後期の久ヶ原式土器を出土する住居跡が発見されている。

なお、以上のうち、西原大塚遺跡122号住居跡出土の動物形土製品１点と西原大塚遺跡17号方形周溝墓から出土した、鳥形土製品１点と壷形土器４点の計５点は、考古資料として、平成25年３月１日付けで、市指定文化財に指定されている。

４．古墳時代中・後期

古墳時代でも前期末葉から中期になると、遺跡が減少する傾向にある。その中で、西原大塚遺跡に隣接する新邸遺跡で検出されている第２地点の１号住居跡と平成15（2003）年に発掘調査が実施された第８地点の２～８号住居跡は、古墳時代前期でも比較的に新しい段階に比定される可能性がある。このことから、新邸遺跡で検出された住居跡は、隣接する西原大塚遺跡から継続して広がった集落跡ではないかと推測される。

中期の遺跡では、中道・城山・中野遺跡から住居跡が発見されている。その中でも、平成７（1995）年に発掘調査が実施された中道遺跡第37地点19号住居跡は、５世紀中葉に比定され、カマドをもつ住居跡としては市内最古のものである。

５世紀末葉になると、遺跡が増加傾向にあり、特に６世紀後半から７世紀後半にかけては、縄文中期を越えるほどの爆発的な増加をみる。こうした集落跡は現在、中道・城山・中野遺跡に比較的に古い５世紀代の住居跡が確認されていることから、柏町地区を中心に存在した集落が、６世紀後半以降、周辺の地域に拡散するという動きを読み取ることができる。

なお、新邸遺跡では第８地点で初めて古墳時代後期（７世紀中葉）の住居跡が１軒検出されている。この住居跡は、3×3.5mの小型の長方形を呈するもので、焼失住居であり、床面上からは土器・炭化材の他ベンガラ塊が出土している。

現在、５世紀後半から７世紀後半にかけての時期に比定できる住居跡の軒数は、最も多い城山遺跡で約230軒、次いで中野遺跡で約55軒、中道遺跡と田子山遺跡で16軒ずつ、新邸遺跡で１軒を数える。

また住居跡以外では、平成５（1993）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第24地点から、６世紀後半以降のものと考えられる4.1×4.7mの不整円形で２ヶ所にブリッジをもつ小型の円形周溝墓が１基確認されている。さらに、平成14（2002）年に発掘調査された田子山遺跡第81地点を契機に御嶽神社を取り囲むように外周で推定約33mの巨大な溝跡の存在が明らかになり、現時点では古墳の周溝ではないかと考えられ、今後この一帯での古墳の発見に期待されている。

５．奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺跡は、古墳時代後期以降に拡散した集落内で確認される傾向にあり、現在のところ、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で検出されている。中でも城山・田子山遺跡はこの時代を代表とする遺跡として挙げることができる。城山遺跡では、平成８（1996）年に発掘調査が実施された第35地点の128号住居跡から、印面に「冨」１文字が書かれた完形品の銅印が出土しているが、

これは県内でも稀少な例として貴重な資料であろう。この住居跡からはその他、須恵器坏や猿投産の緑釉陶器の小破片１点、布目瓦の小破片２点などが出土している。平成20・21（2008・2009）年の城山遺跡第62地点の調査では、平安時代の241号住居跡から皇朝十二銭の一つである富壽神寶が２枚とその近くからは鉄鎌１点と土錘１点が出土しており、祭祀行為が行われたと考えられる貴重な例として、県内でも重要な発見につながっている。

田子山遺跡では、平成５（1993）年に発掘調査が実施された第24地点からは、住居跡の他、掘立柱建築遺構・溝跡そして100基を越える土坑群が検出されている。平成６（1994）年に発掘調査が実施された第31地点の44号住居跡からは、腰帯の一部である銅製の丸鞆が出土している。さらにカマド右横の床面上からは、東金子窯跡群（入間市）の製品と南比企窯跡群（鳩山町）の製品という生産地の異なる須恵器坏が共伴して出土したことにより、土器編年の基本資料として貴重であると言える。

なお、以上のうち、城山遺跡128号住居跡出土の銅印ほか９点の遺物と城山遺跡第241号住居跡出土の富壽神寶ほか２点の遺物は、考古資料として、平成25年3月１日付けで、市指定文化財に指定されている。

６．中・近世

中・近世の遺跡は、「柏の城」を有する城山遺跡と千手堂関連である新邸・中道遺跡、そして関根兵庫館跡・宿道跡が代表される遺跡と言える。城山遺跡では、数次にわたる発掘調査により、『紹村旧記』（註２）にある「柏之城落城後の屋敷割の図」に相当する堀跡などが多数発見されている。近年では、『廻国雑記』（註３）に登場する「大石信濃守館」が「柏の城」に相当し、「大塚十玉坊」についても市内の「大塚」に由来があるという説が有力と言えるであろう（神山　1988・2002）。

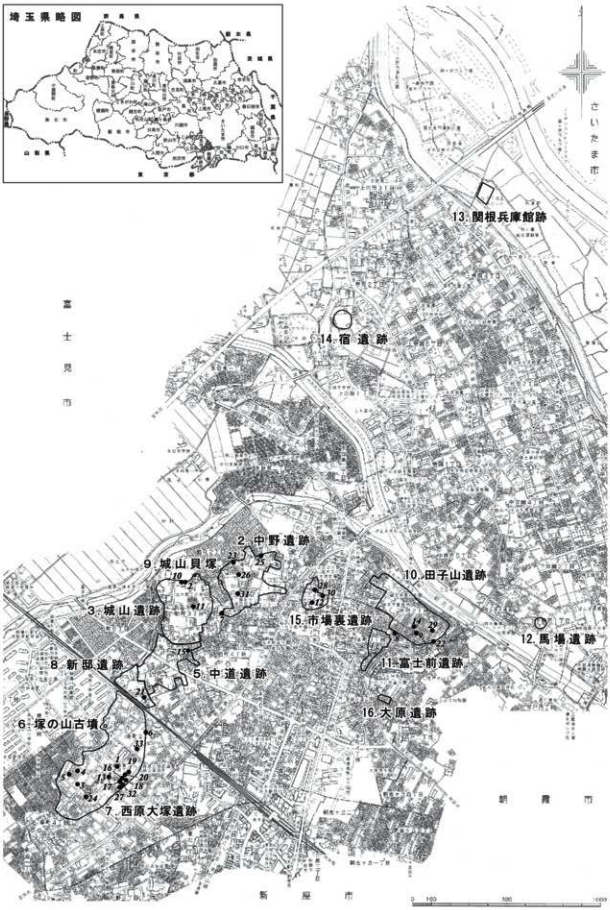
また、平成７（1995）年に発掘調査が実施された第29地点の127号土坑からは、馬の骨が検出されている。この土坑からは、板碑と土師質土器の他、炭化種子（イネ・オオムギ・コムギなど）も出土しており、イネの塊状のものは「おにぎり」あるいは「ちまき」のようなものであるという分析結果が報告されている。

さらに、平成８（1996）年度に発掘調査が実施された第35地点から、鋳造関連の遺構が検出されている。130号土坑については鋳造遺構、134号土坑については溶解炉に該当し、遺物としては、大量の鉄滓（スラッグ）、鋳型、三叉状土製品、砥石などが出土している。最新資料では、平成28（2016）年に発掘調査された第89地点の調査により、第35地点の鋳造関連の捨て場が明らかになった。この調査により、鍋本体の大型鋳型、鍋の耳部分の小型鋳型、三叉状・四叉状土製品・トリベ・砥石などの道具類や鉄滓（スラッグ）などの大量の遺物が斜面に流れ込むように出土した。

平成13（2001）年度の第42地点からは、多くの土坑・地下室・井戸跡が検出される中、234号土坑から、鉄鍋の完形品が出土したことは特筆すべきである。この鉄鍋は、土坑の坑底面に伏せてある状況で出土しており、「鍋被り葬」と呼ばれる風習が志木市でも実在していた可能性が高い。

戦国期の資料としては、平成６（1994）年度に発掘調査が実施された第21地点から、当市では初めて、鎧の札である鉄製品１点と鉄鏃１点が出土している。出土した遺構は、19世紀前半の86号土坑であるため混入品となるが、「柏の城」に関連する資料として大変重要な資料に加わったと言える。

平成11～14（1999～2002）年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点からは、頭を北に向け横臥屈葬された人骨を出土した67号土坑が検出されている。その他、ピット列・土坑・溝跡な



第１図　市域の地形と調査地点―平成24年度―（1/20,000）

番号	調査地点	所　在　地	調査原因	面積（㎡）	確認調査日	発掘期間	備　考
1	西原大塚遺跡第174⑤地点	幸町3丁目7204-4	個人住宅建設	153.93	H.23.6.13～6.14	H.24.9.10～10.22	
2	城山遺跡第76地点	柏町3丁目2609・2610の一部	防災用トイレ設置	55.00	H.24.1.27	4.26～5.24	
3	西原大塚遺跡第179地点	幸町3丁目7415～7417	集合住宅建設	2,445.98	H.24.3.7～3.14	6.18～9.21	発掘調査面積　1,381.52㎡／盛土保存適用　1,064.46㎡
4	西原大塚遺跡（区画整理第121地点）	幸町3丁目7390、7391	集合住宅建設	(627.09)	－	－	すでに区画整理事業（121）に伴い発掘調査は完了済み
5	西原大塚遺跡第180地点	幸町3丁目7383の一部	個人住宅建設	235.28	4.11	6.4～8.1	発掘調査面積　156.00㎡
6	西原大塚遺跡第181地点	幸町2丁目6146-3・4	個人住宅建設	217.00	5.28	－	慎重工事
7	中野遺跡第77地点	柏町3丁目2593-7	分譲住宅建設	100.00	5.29	－	慎重工事
8	田子山遺跡第124地点	本町3丁目1827-6	分譲住宅建設	82.69	6.4	－	遺跡外
9	田子山遺跡第125地点	本町3丁目1816-11の一部	分譲住宅建設	79.42	5.15	－	盛土保存適用
10	城山遺跡第77地点	柏町3丁目2609・2610の一部	配水管の試験掘り及び切回し	9.60	－	－	工事立会
11	城山遺跡第78地点	柏町3丁目2618-7	個人住宅建設	103.28	6.7	－	盛土保存適用
12	市場裏遺跡第19地点	本町1丁目2514	個人住宅建設	300.82	7.10	－	盛土保存適用
13	西原大塚遺跡第182地点	幸町3丁目7209	個人住宅建設	185.47	7.13	10.3～10.30	発掘調査面積　52.76㎡／盛土保存適用　52.20㎡／既調査面積　80.81㎡
14	田子山遺跡第126地点	本町2丁目1733-5	個人住宅建設	171.00	8.6・7	－	盛土保存適用
15	中道遺跡第72地点	柏町5丁目2950-52	分譲住宅建設	198.34	8.6	－	盛土保存適用
16	西原大塚遺跡第183地点	幸町3丁目7172-2、7173-1	個人住宅建設	100.02	8.20	9.24～10.3	
17	西原大塚遺跡第184地点	幸町3丁目7173-2	個人住宅建設	100.00	8.20	9.24～10.3	
18	西原大塚遺跡第185地点	幸町3丁目7171-5	個人住宅建設	149.00	8.22	－	慎重工事
19	西原大塚遺跡第186地点	幸町3丁目7171-2	個人住宅建設	100.03	9.25	－	盛土保存適用
20	西原大塚遺跡第187地点	幸町3丁目7171-3	個人住宅建設	100.06	9.25	－	盛土保存適用
21	新部遺跡第12地点	柏町5丁目2932-1、2933-1	分譲住宅建設	621.82	10.15～17	－	盛土保存適用
22	田子山遺跡第127地点	本町2丁目1676-11・53、1749-3・4の各一部	擁壁設置	84.96	－	－	工事立会
23	中野遺跡第78地点	柏町1丁目1493-1、1494-1の一部	分譲住宅及び道路建設	351.11	10.25・26	H25.1.10～2.7	発掘調査面積　111.37㎡／盛土保存適用　239.74㎡
24	西原大塚遺跡第188地点	幸町3丁目7490	車庫建設	31.51	11.9	－	慎重工事
25	中野遺跡第79地点	柏町1丁目1485-35	個人住宅建設	55.56	－	－	慎重工事

第２表　平成24年度調査地点一覧（１）

番号	調査地点	所　在　地	調査原因	面積（㎡）	確認調査日	発掘期間	備　　考
26	中野遺跡第80地点	柏町1丁目21-25番地先	電力埋設トラフ撤去工事	120.00	－	－	工事立会
27	西原大塚遺跡第189地点	幸町3丁目7173-4	個人住宅建設	149.10	12.7	－	盛土保存適用
28	市場裏遺跡第20地点	本町1丁目1570-26	個人住宅建設	70.01	12.2	－	盛土保存適用
29	田子山遺跡第128地点	本町2丁目1742-7・11	分譲住宅建設	148.13	H25.1.11	－	盛土保存適用
30	市場裏遺跡第21地点	本町1丁目2509-1	個人住宅建設	68.21	1.21	H25.2.13～3.2	発掘調査面積　68.21㎡
31	中野遺跡第81地点	柏町1丁目20番地先	ガス管敷設工事	43.56	－	－	工事立会 (Na81①)
		柏町1丁目22番地先		16.30	－	－	工事立会 (Na81②)
32	西原大塚遺跡第190地点	幸町3丁目7172-1の一部、7172-3、7173-3	個人住宅建設	188.37	3.13	－	慎重工事
33	西原大塚遺跡第191地点	幸町2丁目6152～6155	保育所建設	1,582.91	3.25・26	－	慎重工事
合　　計				7,791.38			

第２表　平成24年度調査地点一覧（２）

どが検出されていることから、この一帯が『館村旧記』に記載がある「村中の墓場」関連に相当する施設ではないかと考えられる。

中道遺跡では、昭和62（1987）年の第２地点から人骨を伴う地下式坑、掘立柱建築遺構が検出され、平成７（1995）年の中道遺跡第37地点からは、人骨と古銭５枚を出土した土坑墓１基と13世紀に比定される青磁盤１点を出土した道路状遺構１条が検出されている。

新邸遺跡では、昭和60（1985）年の第１地点から段切状遺構の平場から多数の土坑・地下式坑が検出され、平成15（2003）年の新邸遺跡第８地点からは、人骨と六文銭を伴う火葬墓２基が検出されている。おそらく、この新邸遺跡から中道遺跡一帯は、『館村旧記』に記載がある「大塚千手堂」であり、古くは天台宗の「七堂大伽藍」を誇る「松林山観音寺大受院（しょうりんざんかんのんじだいじゅいん）」関連遺構と考えられる。その後、平成25（2013）年には、第74地点の発掘調査が実施され、段切状遺構の平場から多数のピットや溝跡などが検出され、上記を裏付ける追加資料となった。

７．近代以降

近代以降の遺跡では、平成５（1993）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点から、敷島神社境内に存在する富士塚の築造（明治２～５年）に関連するローム採掘遺構が検出されている。この遺構の坑底面からは、鋤・鍬などの無数の工具痕が観察され、採掘作業がかなり組織的な単位で行われていたこともわかり、地域研究の重要な資料と言える。

平成15（2003）年の新邸遺跡第８地点からは、野火止用水跡が検出され、市内初の発掘調査例となった。用水路の基盤面からは水付きの銹着面が確認され、底面からは大量の陶磁器が出土した。

第２節　調査に至る経緯

志木市は、都心から25km圏内に位置し、東武東上線志木－池袋駅間を急行で20分という交通の便に恵まれ、都心近郊のベッドタウンとして発展してきた。近年の都市化に伴い、各種の開発行為も増大してきたが、とりわけ住宅建設の占める割合が高く開発による遺跡破壊が進行する状況にある。また、遺跡の集中する本町・柏町・幸町地区は都市化の最も進展する地域になっていることも遺跡破壊の事態を一層大きくしていると言える。

こうした状況の中、志木市教育委員会では文化財行政を進めていくために、埋蔵文化財を保護・保存していくことが重要な課題となっている。しかしながら、開発により遺跡の現状保存が困難な状況であり、記録保存という処置によって対処しているのが現状である。

ここで、志木市における発掘調査の経過を振り返ってみると、まず、1973（昭和48）年に西原大塚遺跡において発掘調査が実施されたのが最初の調査であろう。そして以後、1982（昭和57）年までは、志木市史編さん事業に伴う学術的な発掘調査が実施されていた。1983（昭和58）年には、志木市において遺跡調査会が組織され、1985（昭和60）年には当市にとって最大規模の調査となった城山遺跡第１地点の調査が実施された。この調査は、市内における発掘調査体制の本格的組織化の契機となり、以降志木市の埋蔵文化財保護を推進する上で大きな転換となったと言える。

そうした中、当市における開発行為、特に住宅建設については小規模のものが多いことから、こうした小規模の開発にも対応する必要があった。しかし、小規模な開発の当事者は個人で、その個人が専用に使用する住宅の建設についての記録保存の実施については、費用の負担など記録保存を進める上で困難な点が多かった。そのため、1987（昭和62）年以降、国・県よりの補助金の交付を受け、志木市教育委員会を主体とした発掘調査を実施することになったのである。さらに、民間・公共事業を問わず確認調査については、すべて公費で対応し、開発事業者の負担軽減と埋蔵文化財包蔵地の詳細な分布状況の把握を積極的に進めている。特に、発掘調査件数及び面積が、1987（昭和62）年以降急激に増加しているのは、こうした理由によるものと考えられる。

最近では、昭和40年前後の人口増加が始まった頃に建設された個人住宅の建て替えも多くなってきており、平成２年度以来、個人住宅建設に伴う調査件数が増加してきている。また、平成８年度は全体の調査件数及び面積が激減しているが、教育委員会で行った発掘調査の件数は逆に過去最高の９件にのぼり増加したという現象が生じた。これは、平成７年度に調査対象区域の見直しを行ったことが影響したものと考えられる。その見直しの内容は、今まで「遺跡の存在する可能性が高い地域」でも発見が全く無かった地域を過去の調査成果により割り出し、その地域については「将来遺跡が発見される可能性がある地域」に変更したというものである。なお、平成９年度より、遺跡の現状保存を目的とするため、遺跡の盛土保存を適用するに至っている。

平成10年度以降は、西原大塚遺跡内における個人住宅建設を中心とした各種開発が著しい増大を見せている。これは、平成５年度以降、西原大塚遺跡内では土地区画整理事業が開始され、これに伴い発掘調査が実施されているが、工事の完了後に周辺地域の開発が始まったためと考えられる。今後は、この地域の開発については、市内の他地域よりも増大することが予想されるため、埋蔵文化財保存事業についても充分留意しなくてはならないであろう。

なお、教育委員会は、平成15年１月、今までに集積された調査データに基づいて、遺跡の存否及び範囲について大々的に修正を行った。これにより、市場遺跡・氷川前遺跡の２遺跡の削除と中野・城山・中道・西原大塚・新邸・田子山・富士前・市場裏遺跡の８遺跡の一部範囲が縮小され、市内遺跡総数は14遺跡に変更されることになった。同時にこれは、手続き上に係る事務量の削減と確認調査に使用する重機のコスト削減を目的とし、効率的な事業の運営を図ったものであった。

平成20年度以降は、今まで実施してきた「遺跡調査会方式」を廃止し、新規事業から「市直営方式」の導入を開始した。つまり、志木市では、個人及び民間による各種開発に伴う発掘調査（個人住宅建設を除く）については、今まで志木市遺跡調査会を発足させ、実施してきたが、職員の派遣や手続法などによる問題点を考慮し、平成20年度以降の新規事業からは、市直営による受託事業として実施することになった。

最後に本報告で掲載する平成24年度の調査内訳について以下にまとめることにする。

平成24年度は、全保存事業対象の件数は33件、そのうち確認調査件数24件、発掘調査件数９件、盛土保存適用件数18件、工事立会件数27件であった。工事内容の内訳件数は、個人専用住宅建設17件、分譲住宅建設６件、分譲住宅及び道路建設２件、集合住宅建設１件、車庫建設１件、保育園建設１件、防災用トイレ設置１件、擁壁設置１件、電力埋設トラフ撤去工事１件、ガス管敷設工事１件、配水管の試験掘り及び切回し１件である。

[註]

註１　平成26年度「全国都道府県市区町村別面積調」により、9.06㎢から9.05㎢に変更された。

註２　『館村旧記』は、館村（現在の志木市柏町・幸町・館）の名主宮原仲右衛門仲恒が、享保12～14（1727～1729）年にかけて執筆したものである。

註３　『廻回雑記』は、左大臣近衛房嗣の子で、京都聖護院門跡をつとめた道興准后が、文明18年（1486）６月から10ヶ月間、北陸路から関東各地をめぐり、駿河甲斐にも足をのばし、奥州松島までの旅を紀行文にまとめたものである。

[引用文献]

神山健吉　1988「『廻回雑記』に現れる　大石信濃守の館と十玉坊の所在についての一考察」『郷土志木』第７号
2002「道興をめぐる二つの謬説を糾す」『郷土志木』第31号

第２章　西原大塚遺跡第180地点の調査

第１節　遺跡の概要

（１）立地と環境

西原大塚遺跡は、志木市幸町２～４丁目に広がる遺跡で、東武東上線志木駅の西方約１㎞に位置している。遺跡の大きさは、北東－南西方向に約700m、北西－南東方向に約150mの広がりをもち、遺跡面積164,455㎡を測る市内最大規模の遺跡である。

この遺跡では、平成５年度以降に西原特定土地区画整理事業に伴う、道路部分の発掘調査が本格的に実施され、平成18年度に完了している。しかし、近年では、その後の道路の完成に伴い、個人住宅・住宅建設などを中心とした小・中規模開発が急増している。これにより、本遺跡の調査件数は、平成30年１月現在で、215地点にのぼり、市内最多の調査件数になっている。

本遺跡は、1983（昭和48）年に第１回目の発掘調査が実施され、以後の調査から、旧石器時代、縄文時代早～晩期、弥生時代後期、古墳時代前・後期、奈良・平安時代、中・近世の複合遺跡であることが判明している。

（２）発掘調査の経過

確認調査は、平成24年４月11日に実施した。調査区内の南北方向に３本、東西方向に１本のトレンチを設定し、バックホーを使用し表土を剝ぎ、同時に遺構確認作業を行った。その結果、縄文時代の住居跡１軒、弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡５軒を確認した（第３図）。そのため、ただちに依頼者に調査の結果を報告し、保存対策について検討を依頼したが、今回の開発計画では、宅地部分で地盤の表層改良を行う計画であり、駐車場部分も掘削が深く及ぶため、保護層を確保することは難しく、盛土保存は不可能であるという回答を得た。そのため、平成24年６月４日から発掘調査を実施することに決定した。

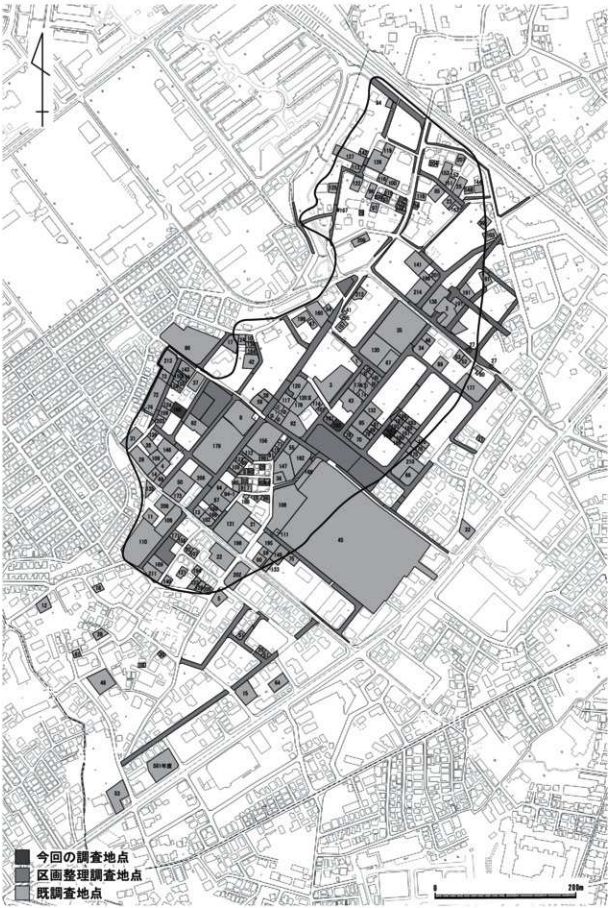
以下、発掘調査の大まかな経過を説明することにし、各遺構の精査経過については、第３表の発掘調査工程表に示した。

６月４日　今回は調査区内に残土置場を確保する都合上、調査工程を前半（南側）、後半（北側）とした。重機により前半調査区の表土剝ぎ作業を開始する。

６月８日　人員導入による発掘作業を開始する。調査前の準備として、器材をトラックに積載し、現地に搬入する。その後、調査区の整備と細部の遺構確認作業を行った結果、調査区内には弥生時代後期～古墳時代の住居跡が複数軒、重複していることが判明した。住居跡同士の切り合いを確認するためベルトを設定し、精査を開始する。

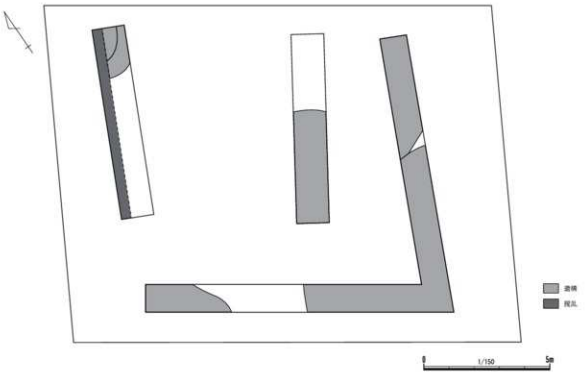
６月上旬　ベルト脇にサブトレンチを設定し掘り下げ、また撹乱を除去し、住居跡の切り合いの把握に努めた。弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡３軒（570～572Y）を確認し、各住居跡に覆土観察用のベルトを適宜設定し、精査を行った。

６月中旬　570Y で床面検出後、炉跡 A を検出した。炉跡 A、柱穴を半截し、断面図および平面図で記録した。570Y の柱穴を精査した際、柱穴底面に段差があり、住居の建て替えの可能

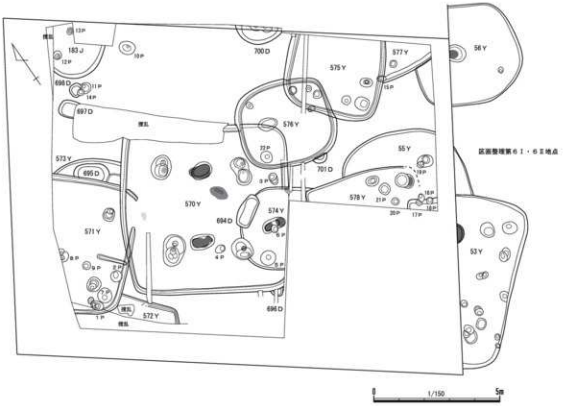


第２図 西原大塚遺跡の調査地点　(1／5000)

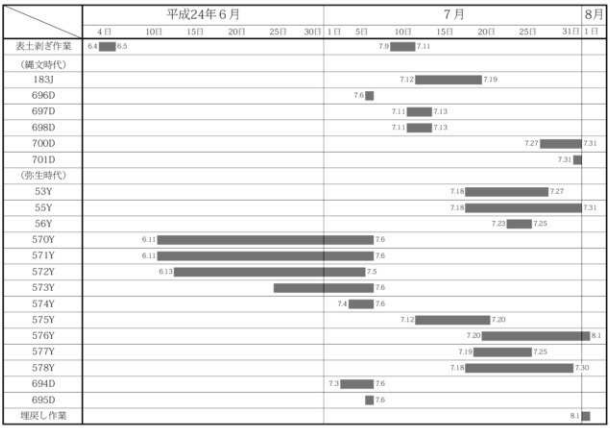
平成30年01月31日現在



第３図　確認調査時の遺構分布図（１／150）



第４図　遺構分布図（１／150）



第３表　西原大塚遺跡第180地点の発掘調査工程表

性を想定した。570Y 全景の写真撮影を行う。571Y では床面を検出した。北側の壁面がなだらかに傾斜しており、別住居が重複している可能性があった。

６月下旬　570Y の平面図を作成し、掘り方の精査を行う。貼床掘削の際、下から旧貼床、炉跡 B を検出した。旧貼床、炉跡 B を写真、平面図で記録し、掘り方断面の記録を行った。571Y の北側で床面に段差が生じ、段差下に571Y の壁溝が廻ることから、別遺構が切り合うことが判明した。これを573Y とし、検出されていた赤色砂利層は573Y 内に伴うものとした。

７月上旬　570Y の掘り方を写真撮影し、エレベーション、平面図で記録し、570Y の精査を終了した。571～573Y の実測・写真撮影で全ての記録を行い、精査を終了する。570Y の下から574Y を検出し、精査を開始する。炉跡付近から壷形土器が出土し、遺物出土状況を写真撮影、平面図で記録した。住居跡を完掘し、実測・写真撮影を行い、574Y の精査終了。縄文時代の土坑（696D）、弥生時代後期～古墳時代前期の土坑（694D・695D）の精査を行い、実測・写真撮影で記録し、終了した。前半調査区の調査を完了する。

７月９日　前半調査区の埋め戻しおよび後半調査区の表土剥ぎを開始する。

７月中旬　後半調査区の人員導入。調査区の整備を行い、調査区北側から遺構確認作業を行った結果、縄文時代の住居跡（183J）、土坑（698・699D）を検出し、精査を開始した。調査区北東側では、弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡が複数軒、重複して検出された。住居跡が重複する箇所にベルトを設定し、575Y から精査を開始した。183J は断面図を作成

後、完掘全景の写真撮影・実測で記録し、精査を終了した。698・699Dも半截後、断面記録を取り、写真撮影・実測で記録し精査を終了。575Yの完掘写真撮影・実測を行い、掘り方精査に入る。577・578Yの精査を開始する。

７月下旬　576・53・55Yの精査を開始する。575Yの掘り方を写真撮影・実測で記録し、575Yの精査を終了する。576Yの精査を開始する。577Yの写真撮影・実測後、56Yの精査を開始し、写真撮影・実測で記録したのち、56Yの精査を終了した。53・55・578Yは、切り合いを確認しつつ、精査を実施した。調査区壁でセクションを記録し、平面実測・写真撮影を行い、精査を終了した。576Yでは赤色砂利層を精査中、土器埋納土坑を検出した。土器埋納土坑の精査は平面上端を記録後、箱掘りを実施し、断面・土器微細図を記録した。土器内の覆土を回収し、土器の取り上げを行った。

器材の片付けを行い、搬出作業を行う。

８月１日　576Yの土器埋納土坑の平面図を実測、炉跡の赤化範囲を記録し、すべての調査を完了する。後半調査区の埋め戻しを開始し、本日で作業を完了する。

第２節　縄文時代の遺構・遺物

（１）概　要

縄文時代の遺構については、住居跡１軒（183Ｊ）・土坑５基（696～698・700・701Ｄ）・ピット６本（９～14Ｐ）が検出された。

183Ｊの時期は、出土土器から前期中葉の黒浜式期であり、この時期の住居跡は市内でも検出例は少なく、本遺跡で過去に２軒検出されているのみで、本住居跡を含め３軒に限られる。土坑・ピットは、出土土器が乏しく詳細時期の比定には至らなかったが、覆土の観察から縄文時代のものと扱った。

（２）住居跡

183号住居跡

遺　構（第５図）

［位　置］調査区北端部。

［検出状況］12・13Ｐと重複する。住居北端は調査区外にある。

［構　造］**平面形**：楕円形か。**規模**：長軸不明／短軸不明／遺構確認面からの深さ20～38㎝。**壁**：70°程の角度で急斜に立ち上がる。**主軸方位**：不明。**壁溝**：確認できなかった。**床面**：直床で、住居中央からやや東寄りで僅かに硬化した面を確認できた。**炉**：確認できなかった。**柱穴**：本住居に伴うものは検出されなかった。

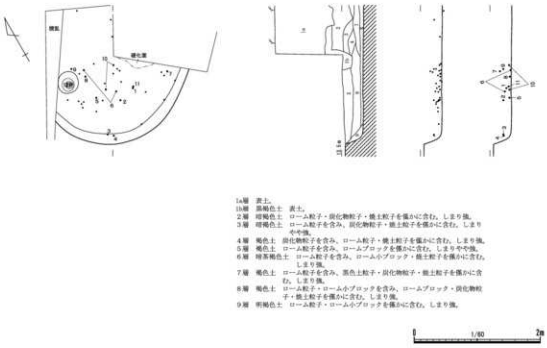
［覆　土］８層に分層された。

［遺　物］壁際を除いた床面及び覆土から土器の破片が出土した。

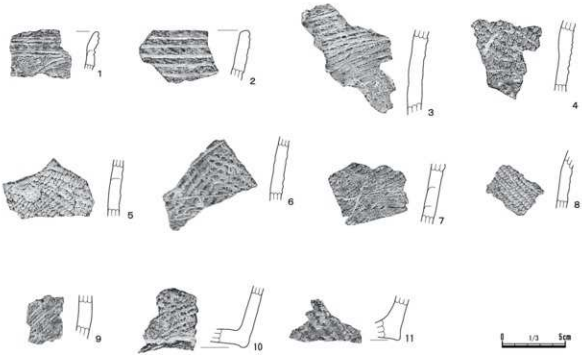
［時　期］縄文時代前期中葉（黒浜式期）。

遺　物（第６図、図版９－１、第４表）

１～11は黒浜式土器である。



第５図　183号住居跡（１／60）



第６図　183号住居跡出土遺物（１／3）

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式	出土位置
第６図１ 図版9-1-1	深鉢	口縁部 破片	厚 0.7	口縁部が僅かに外傾	口縁部直下に半截竹管状工具による横方向の平行沈線文を２列、斜位の押引文を施文／内面に横方向の磨き調整	にぶい褐／砂粒を中量、繊維多量	前期中葉 黒浜式	南側の覆土中層
第６図２ 図版9-1-2	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	僅かに外傾	地文は RL 無節斜縄文？／地文施文後、半截竹管状工具による平行沈線文／内面に横方向のナデ調整／口唇部は面取りされ平坦	橙／砂粒中量、小礫少量、繊維多量	前期中葉 黒浜式	南側の覆土中層
第６図３ 図版9-1-3	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	若干外反する	胴部中位に RL 無節縄文か？／胴部上位に平行沈線文を密に施す／内面に横方向のナデ調整	橙／砂粒中量、小礫少、繊維多量	前期中葉 黒浜式	南壁際の覆土中層
第６図４ 図版9-1-4	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	ほぼ直立／一部肥厚	地文に RL 単節斜縄文／内面に横方向のナデ調整	橙／砂粒中量、小礫少量、繊維多量	前期中葉 黒浜式	南壁際の覆土中層
第６図５ 図版9-1-5	深鉢	胴部 破片	厚 0.7	波状口縁／僅かに外傾	地文に LR 単節斜縄文／内面に横方向のナデ調整／口唇部は面取り	灰黄褐／砂粒・繊維多量	前期中葉 黒浜式	中央やや南側の床面上
第６図６ 図版9-1-6	深鉢	胴部 破片	厚 0.7	僅かに外傾	RL 単節斜縄文を縦・横位に施文し羽状縄文／縄文施文後、横・斜位に沈線文／内面に横方向のナデ調整	橙／砂粒中量、小礫少量、繊維多量	前期中葉 黒浜式	中央やや南側の床面直上
第６図７ 図版9-1-7	深鉢	胴部 破片	厚 0.9	僅かに外傾	地文に Lr 無節斜縄文／内面に縦方向のナデ調整	橙／砂粒中量、繊維多量	前期中葉 黒浜式	南西壁際の覆土上層
第６図８ 図版9-1-8	深鉢	胴部 破片	厚 0.8	僅かに外傾／僅かに外側に屈曲	地文に LR 単節斜縄文／内面に横方向の磨き調整	明赤褐／砂粒・小礫少量、繊維多量	前期中葉 黒浜式	中央西側の床面上
第６図９ 図版9-1-9	深鉢	胴部 破片	厚 1.1	僅かに外傾	地文に Lr 無節斜縄文／内面に縦方向の磨き調整	橙／砂粒中量、繊維やや多量	前期中葉 黒浜式	中央やや南側の覆土中層
第６図10 図版9-1-10	深鉢	底部～胴部 破片	厚 0.9	上げ底／底部からやや外傾して立ち上がる	地文に LR 単節斜縄文／内面に横方向の磨き調整	にぶい橙／砂粒・小礫中量、繊維多量	前期中葉 黒浜式	中央付近の床面上
第６図11 図版9-1-11	深鉢	底部～胴部 破片	厚 1.1	上げ底／底部からやや外傾して立ち上がる	地文に RL 単節斜縄文／内面に横方向のナデ調整	橙／砂粒少量、繊維多量	前期中葉 黒浜式	南側の床面上

第４表　183号住居跡出土土器一覧

（３）土坑

696号土坑

遺　構（第７図）

［位　置］調査区南端部。

［検出状況］570Ｙによって遺構北半を壊されている。南北方向に畝の攪乱を受けている。

［構　造］**平面形**：楕円形か。**断面形**：皿状で坑底は平坦。壁面は約50°で立ち上がる。**規模**：長軸・短軸不明／深さ７㎝。**長軸方位**：Ｎ－40°－Ｅ。

［覆　土］１層のみであった。

［遺　物］出土しなかった。

［時　期］570Ｙに切られており、覆土の観察から縄文時代の所産と考えられる。

697号土坑

遺　構（第７図）

［位　置］調査区北側。

［検出状況］遺構東側を攪乱によって壊されている。

［構　　造］**平面形**：隅丸方形と考えられる。**断面形**：皿状で坑底は平坦。壁面は約55～65°で立ち上がる。**規模**：長軸は不明／短軸0.69m／深さ16cm。**長軸方位**：N－29°－W。

［覆　　土］２層に分層できた。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から縄文時代の所産と考えられる。

698号土坑

遺　　構（第７図）

［位　　置］調査区北側。

［検出状況］遺構東側を11・14Pによって壊されている。

［構　　造］**平面形**：隅丸方形。**断面形**：皿状で坑底は丸みを帯びる。壁面は約55°前後で立ち上がる。**規模**：長軸0.51m／短軸0.51m／深さ19cm。**長軸方位**：N－４°－E。

［覆　　土］２層に分層できた。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から縄文時代の所産と考えられる。

700号土坑

遺　　構（第７図）

［位　　置］調査区北東壁際。

［検出状況］遺構北半は調査区外である。

［構　　造］**平面形**：円形か。**断面形**：坑底は凸凹を呈する。壁面は底面からやや反り気味に立ち上がり、壁面角度は約25～35°、開口部付近で約76°である。**規模**：長軸・短軸不明／深さ51cm。**長軸方位**：N－45°－W。

［覆　　土］８層に分層できた。

［遺　　物］土器小破片が出土した。

［時　　期］縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅠ式期）。

遺　　物（第８図１～４、図版９－２－１～４、第５表）

１は阿玉台式、２は勝坂式、３、４は加曽利ＥⅠ式土器である。

701号土坑

遺　　構（第４図）

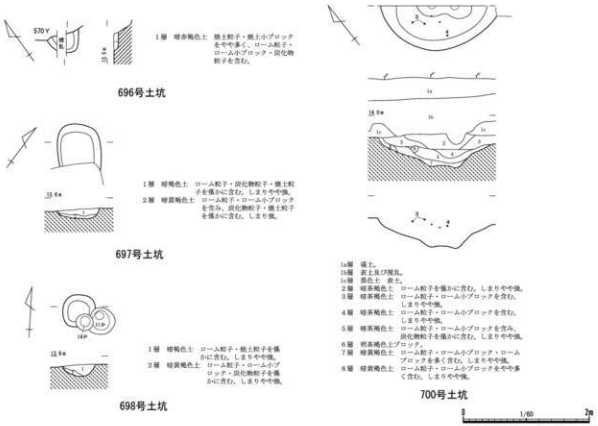
［位　　置］調査区中央から西に寄る。

［検出状況］576Yに北半部を壊される。

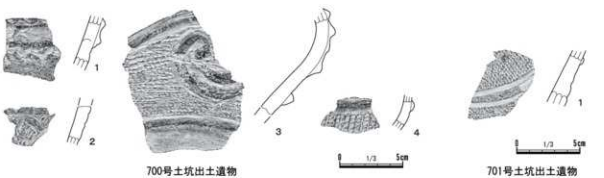
［構　　造］**平面形**：円形か。**断面形**：皿状で坑底は丸みを帯びる。**規模**：長軸は不明／短軸0.62m／深さ20cm。**長軸方位**：N－5°－E。

［覆　　土］単層であった。１層：ローム粒子を含み、ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む暗茶褐色土。

［遺　　物］土器小破片が出土した。



第７図　土坑(1／60)



第８図　土坑出土遺物(1／3)

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文　様・特　徴	胎　土	時　期 型　式	出土遺構 出土位置
第8図1 図版9-2-1	深鉢	胴部 破片	厚1.0	やや外傾	楕円形隆帯／隆帯脇に鋸歯状沈線／ヒダ状圧痕／内面に横方向のナデ調整	褐／砂粒・小礫中量、雲母多量	縄文中期中葉 阿玉台式	700D 覆土
第8図2 図版9-2-2	深鉢	胴部 破片	厚1.0	僅かに外傾	沈線による区画文／区画内に連続爪形文列	にぶい橙／砂粒中量	縄文中期中葉 勝坂式	700D 覆土
第8図3 図版9-2-3	深鉢	口縁部～頸部 破片	厚1.0	キャリパー形	口縁部地文に撚糸L を横位施文／隆帯による横S字文／口縁部文様帯を上下に隆帯で区画／頸部無文／内面に横方向のナデ調整	橙／砂粒・小礫中量、繊維多量	縄文中期後葉 加曽利ＥⅠ式	700D 覆土上層
第8図4 図版9-2-4	深鉢	口縁部 破片	厚0.8	膨らみを持つ	地文に撚糸L を縦位施文／隆帯区画／内面に横方向の磨き調整	浅黄橙／砂粒少量、小礫中量	縄文中期後葉 加曽利ＥⅠ式	700D 覆土上層
第8図1 図版9-2-1	深鉢	胴部 破片	厚1.3	若干外反する	地文に撚糸L を斜位施文／２本単位の弧線文／沈線間は磨り消し	にぶい橙／砂粒・小礫少量	縄文中期後葉 連弧文系	701D 覆土

第５表　土坑出土土器一覧

［時　　期］縄文時代中期後葉。

遺　　物（第８図１、図版９－２－１、第５表）

１は連弧文系土器である。

（４）ピット

今回の調査では、ピットが22本検出されているが、時期を特定することが困難であった。そのうちの６本（９～14Ｐ）は、出土遺物や覆土の観察から、縄文時代の所産として取り扱った。遺物については９・12号ピットで出土している。ここでは、詳細な記録を行った10号ピット、遺物が出土した９・12号ピットを提示する。なお、各ピットの属性は第23表に示した。

９号ピット

遺　　構（第４図）

［位　　置］調査区西端部。

［検出状況］571Ｙの床面下から検出した。

［構　　造］**平面形**：円形。**規模**：長軸32㎝／短軸32㎝／深さ21㎝。

［覆　　土］単層であった。１層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む明茶褐色土。しまり強い。

［遺　　物］黒浜式土器の小破片が１点出土したが、図示できるものではなかった。

［時　　期］縄文時代前期中葉（黒浜式期）。

10号ピット

遺　　構（第９図）

［位　　置］調査区北側。

［構　　造］**平面形**：楕円形。**規模**：長軸64㎝／短軸52㎝／深さ27㎝。

［覆　　土］７層に分層された。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から縄文時代と考えられる。

［そ の 他］底面に柱根が確認された。周辺の11～14Ｐでも底面に柱根が確認されている。

12号ピット

遺　　構（第４図）

［位　　置］調査区北端部。

［検出状況］183Ｙの覆土中から検出した。

［構　　造］**平面形**：円形。**規模**：長軸34㎝／短軸33㎝／深さ24㎝。

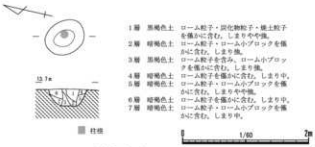
［覆　　土］３層に分層された。しまりのある暗褐色土を基調とする。

［遺　　物］黒浜式土器の破片が１点出土した。

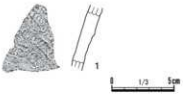
［時　　期］縄文時代前期中葉（黒浜式期）。

遺　　物（第９図１、図版９－２－１、第６表）

１は黒浜式土器である。外面に無節Ｌｒを軸縄とし０段ｒを逆巻きした付加条の原体を施文している。



10号ピット



12号ピット出土遺物

第９図　ピット（１／60）・出土遺物（1／3）

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式	出土遺構 出土位置
第9図１ 図版9-2-1	深鉢	胴部 破片	厚 0.8	やや外傾	無節Lrを軸に０段rを逆巻きで付加条／内面に横方向のナデ調整	にぶい赤褐／砂粒中量、礫雑多量	前期中葉 黒浜式	12P 覆土

第６表　ピット出土土器一覧

第３節　弥生時代後期～古墳時代前期の遺構・遺物

（１）概　要

弥生時代後期～古墳時代前期の遺構は、住居跡12軒（53・55・56・570～578Ｙ）・土坑２基（645・646Ｄ）・ピット４本（５・７・18・22Ｐ）が検出された。特に、住居跡は調査区全域から密集して検出され、切り合い関係も複雑な状況であった。特筆すべきは、576Ｙから出土した土器埋納土坑である。これについては、住居北東コーナーの貯蔵穴の北側に壷形土器（第32図３）がほぼ完形品で床下に埋められていたものであり、中内では初の検出例である。祭壇状遺構と思われる赤色砂利層のすぐ近くからの出土ということもあり、祭祀的で特別な意味をもつものと考えられる。

なお、本調査区の東側道路は、過去に西原地区特定区画整理事業（以下、区画整理）に伴う発掘調査を実施した西原大塚遺跡第６Ⅰ・６Ⅱ地点として調査されており、その際に弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡３軒（53・55・56Ｙ）が検出されている。これらの住居跡は、本地点でもその西側部分が検出されたため、本報告で統合し、遺構・遺物について改めて掲載することとした。

（２）住居跡

53号住居跡

遺　構（第10図）

［位　置］ 調査区南端部（区画整理第６Ⅰ・６Ⅱ地点と同一住居）。

［検出状況］ 55・578Ｙを切る。東半部は区画整理第６Ⅰ・６Ⅱ地点で検出され、西半部は調査区外に広がると考えられる。

［構　造］ **平面形**：隅丸長方形。**規模**：長軸6.85m／短軸4.75m／遺構確認面からの深さ55～58㎝。**壁**：70°前後の角度で立ち上がる。**主軸方位**：Ｎ－36－Ｅ。**壁溝**：確認できなかった。**床面**：全体的に軟弱である。**炉**：北東壁寄りに位置し、西半分は検出されていない。不明×80㎝の地床炉で、深さ10

㎝の掘り込みをもつ。貯蔵穴：検出されなかった。**柱穴**：Ｐ１・Ｐ２が主柱穴と思われる。Ｐ１は東コーナー付近に位置し、60×50㎝の楕円形で、深さ68㎝を測る。Ｐ２は南コーナー付近に位置し、３本の重複形を呈し、75×50㎝を測る。深さは北側のピッから76・72・59㎝。**赤色砂利層**：確認できなかった。**入口施設**：確認できなかった。

［覆　　土］６層に分層される。暗茶褐色土を主体とし、水平気味に堆積する。下層ではブロック状の堆積土（７層）やロームブロックを含む覆土となっている。

［遺　　物］器台・坩・高坏・壷・甕形土器の破片を中心とした土器と石製の勾玉１点が出土した。

［時　　期］古墳時代前期。

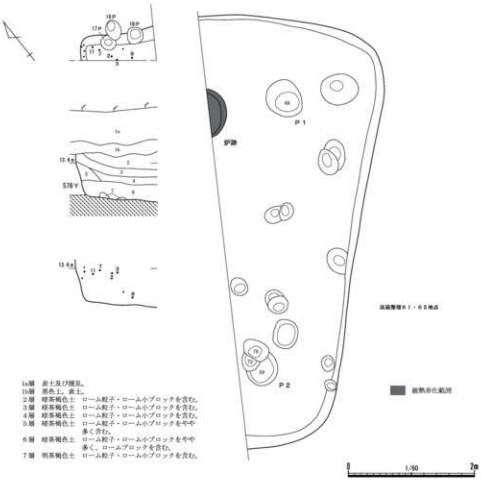
遺　　物（第11図、図版９－３、第７・８表）

［土　　器］（第11図１～24、図版９－３－１～24、第７表）

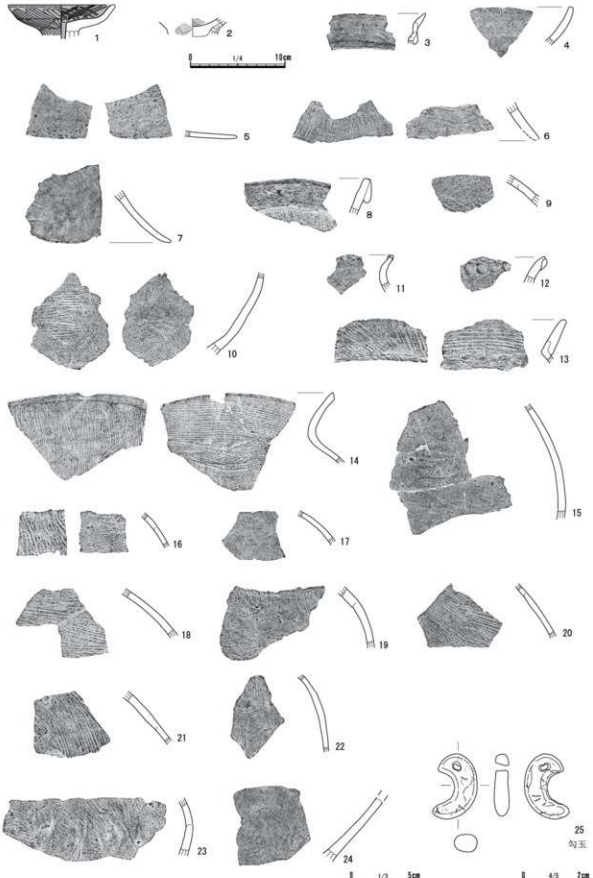
１は器台形土器、３は坩形土器、４～７は高坏形土器、８～10は壷形土器、2・11～24は甕形土器である。

［石 製 品］（第11図25、図版９－３－25、第８表）

25は蛇紋岩製の勾玉である。器体上部に穿孔される。穿孔は２箇所から重複するように開けられている。区画整理第６Ⅰ・６Ⅱ地点調査時に覆土中から出土したものである。



第10図　53号住居跡（1／60）



第11図　53号住居跡出土遺物(1／4・1／3・4／5)

挿図番号 図版番号	器種	法量 (cm)	特　徴	色　調	胎　土	調　整	出土位置	遺存度
第11図1 図版9-3-1	器台	高 [2.7] 口8.5	受け部：皿状を呈し、途中屈曲し口縁部が外傾／受け部孔径8.7㎝で、上から下へ穿孔される／内外面に赤彩	胎土はにぶい赤褐色を基調	砂粒・細礫・白色粒子を含む	内面：斜方向の細かいヘラ磨き調整／外面：縦方向のヘラ磨き調整	区画整理第６Ⅰ・６Ⅱ地点	受け部
第11図2 図版9-3-2	甕	厚0.9	台付甕	胎土は赤褐色を基調	砂粒・細礫・白色粒子・橙色粒子を少量含む	内外面：ハケ目調整	第180地点 北隅層上上層	胴部～脚台部破片
第11図3 図版9-3-3	坩	厚0.7	口縁部：僅かに内湾気味に外傾／胴部に段をもつ	胎土はにぶい赤褐色を基調	砂粒・細礫・白色粒子・橙色粒子を少量含む	内外面：横方向のヘラ磨き調整	第180地点 北隅層上上層	口縁部～胴部破片
第11図4 図版9-3-4	高坏	厚0.5	口唇に RL 単節斜縄文／口縁部に上から LR、RL、LR 単節斜縄文を施し羽状構成／RL の段に円形赤彩文／縄文以下に赤彩／内面に赤彩	胎土は黄橙色を基調	細礫・白色粒子・橙褐色粒子を少量含む	内面：ヘラナデ	区画整理第６Ⅰ・６Ⅱ地点	口縁部～胴部破片
第11図5 図版9-3-5	高坏	厚0.3	扁平な裾部	胎土は黄橙色を基調	砂粒・白色粒子・橙色粒子を少量含む	底面：横方向のハケ目調整／表面：ヘラ磨き調整	区画整理第６Ⅰ・６Ⅱ地点	裾部破片
第11図6 図版9-3-6	高坏	厚0.6	裾部にかけて僅かに外反する	胎土はにぶい橙色基調	砂粒・細礫・白色粒子を少量含む	内面：横方向のハケ目調整／外面：縦方向のハケ目調整、裾部に横ナデ	区画整理第６Ⅰ・６Ⅱ地点	脚台部破片
第11図7 図版9-3-7	高坏	厚0.5	裾部にかけて外反する／外面赤彩	胎土はにぶい赤褐色を基調	砂粒・白色粒子を少量含む／橙色粒子をやや多量に含む	内面：横方向のハケ目調整／外面：縦方向のヘラ磨き調整	第180地点 北隅層上上層	脚台部破片
第11図8 図版9-3-8	壺	厚0.6	複合口縁／ハケ目調整後、複合部貼り付け／口縁部無文	胎土はにぶい橙色を基調	砂粒・白色粒子・橙色粒子を少量含む	内面：横方向のヘラ磨き調整／外面：縦方向のハケ目調整	区画整理第６Ⅰ・６Ⅱ地点	口縁部破片
第11図9 図版9-3-9	壺	厚0.6	RL 単節斜縄文の下部に２段の自縄結節文を施文／S 字状結節文以下に赤彩	胎土は橙色を基調	砂粒・細礫・橙色粒子を少量含む	内面：横方向のヘラナデ	第180地点 北隅層上下層	胴部破片
第11図10 図版9-3-10	壺	厚0.6	胴部がやや膨らみを呈する／下部にやや厚みあり	胎土は赤褐色を基調	砂粒・細礫・赤色粒子を少量含む／白色粒子をやや多量に含む	内面：横方向のハケ目調整／外面：横方向の粗いハケ目調整後、部分的にヘラ磨き調整	区画整理第６Ⅰ・６Ⅱ地点	胴部破片
第11図11 図版9-3-11	甕	厚0.5	頸部が屈曲／口唇部にハケ状工具により平坦面を作り、刻み目が施される	胎土は灰白色を基調	砂粒・細礫を少量含む／白色粒子を多量に含む	内面：横ナデ調整／外面：横方向のハケ目調整・横ナデ	第180地点 北隅層上下層	口縁部破片
第11図12 図版9-3-12	甕	厚0.6	僅かに外湾／口唇部外面に指でつまみ出した突起がまわる／口唇部内面に指頭圧痕あり	胎土はにぶい黄橙色を基調	砂粒・白色粒子・橙色粒子を少量含む	内面：横ハケ目調整／外面：ハケ目調整	第180地点 覆土	口縁部破片
第11図13 図版9-3-13	甕	厚0.5	頸部が「く」字状に屈曲／口縁部は複合口縁／口縁部貼り付け跡が残る	胎土は黄橙色を基調	砂粒・細礫をやや多く含む／雲母を少量含む	内面：横ハケ目調整／外面：縦ハケ目調整・口唇部外面にハケ目調整後、横ナデ	区画整理第６Ⅰ・６Ⅱ地点	口縁部破片
第11図14 図版9-3-14	甕	厚0.3	頸部が屈曲／口唇部上・外面がハケ状工具によって調取りされる	胎土はにぶい黄褐色を基調	砂粒を含む／赤褐色粒子・雲母を少量含む	内面：粗い横ハケ目調整・胴部以下はヘラナデ／外面：横ハケ目調整	区画整理第６Ⅰ・６Ⅱ地点	口縁～胴部上位破片
第11図15 図版9-3-15	甕	厚0.5	やや膨らみを呈する胴部	胎土は橙色を基調	細礫・白色粒子を微量含む	内面：ヘラ削り調整／外面：縦ハケ目調整	区画整理第６Ⅰ・６Ⅱ地点	胴部破片
第11図16 図版9-3-16	甕	厚0.3	やや内湾する胴部	胎土はにぶい褐色を基調	砂粒・細礫・赤色粒子を少量含む	内面：横方向のハケ目調整／外面：粗い縦ハケ目調整	区画整理第６Ⅰ・６Ⅱ地点	胴部破片
第11図17 図版9-3-17	甕	厚0.4	やや内湾する胴部	胎土はにぶい褐色を基調	砂粒・細礫・赤色粒子を少量含む	内面：横ハケ目調整／外面：縦に細かいハケ目調整	区画整理第６Ⅰ・６Ⅱ地点	胴部破片

第７表　53号住居跡出土土器一覧（１）

挿図番号 図版番号	器種	法量 (cm)	特　徴	色　調	胎　土	調　整	出土位置	遺存度
第11図18 図版9-3-18	甕	厚0.5	やや内湾する胴部	胎土はにぶい橙色を基調	細礫を少量含む／砂粒・橙色粒子を含む	内面：横ヘラナデ／外面：横ハケ目調整	区画整理第６Ⅰ・６Ⅱ地点	胴部破片
第11図19 図版9-3-19	甕	厚0.5	膨らみを呈する胴部	胎土は橙色を基調	砂粒・細礫・白色粒子・赤褐色粒子を含む	内面：ヘラナデ／外面：胴部上半は縦ハケ目調整、下半は横ハケ目調整	区画整理第６Ⅰ・６Ⅱ地点	胴部破片
第11図20 図版9-3-20	甕	厚0.3	やや内湾する胴部	胎土はにぶい赤褐色を基調	砂粒を少量含む／白色粒子・橙色粒子を含む	内面：横ナデ／外面：横ハケ目調整	区画整理第６Ⅰ・６Ⅱ地点	胴部破片
第11図21 図版9-3-21	甕	厚0.5	やや内湾する胴部	胎土は赤褐色を基調	砂粒を含む／赤色粒子をややを量に含む	内面：横ナデ／外面：横ハケ目調整	区画整理第６Ⅰ・６Ⅱ地点	胴部破片
第11図22 図版9-3-22	甕	厚0.5	やや内湾する胴部	胎土は灰色を基調	砂粒・細礫を少量含む／橙色粒子を含む	内面：横ナデ／外面：縦ハケ目調整	第180地点覆土	底部破片
第11図23 図版9-3-23	甕	厚0.4	膨らみを呈する胴部	胎土はにぶい橙色を基調	砂粒・白色粒子・橙色粒子を含む	内面：横ケズリ調整／外面：粗いハケ目調整	区画整理第６Ⅰ・６Ⅱ地点	胴部破片
第11図24 図版9-3-24	甕	厚0.7	外傾して立ち上がる	胎土は赤褐色を基調	砂粒・橙色粒子を少量含む	内面：ヘラナデ／外面：縦ハケ目調整	区画整理第６Ⅰ・６Ⅱ地点	胴部破片

第７表　53号住居跡出土土器一覧（２）

挿図番号 図版番号	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特　徴	出土位置
第11図25 図版9-3-25	勾玉	蛇紋岩	21.5	15.2	5.7	2.2	完形／Ｃ字形／器体上部に穿孔／やや位置をずらして２方所に穿孔／最大孔径2.5mm／全面に研磨される／部分的に整形時の擦痕が残る	区画整理第６Ⅰ・６Ⅱ地点

第８表　53号住居跡出土石製品一覧

55号住居跡

遺　構（第12図）

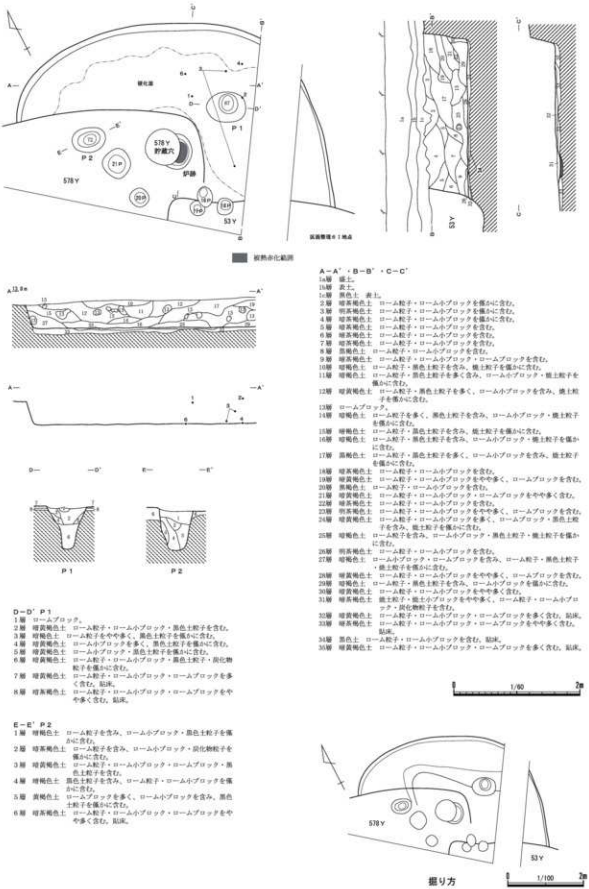
［位　置］調査区南東隅（区画整理第６Ⅰ・６Ⅱ地点と同一住居）。

［検出状況］53Ｙ・578Ｙに切られ、北半部のみの検出である。東壁の一部は区画整理第６Ⅰ・６Ⅱ地点で検出されている。

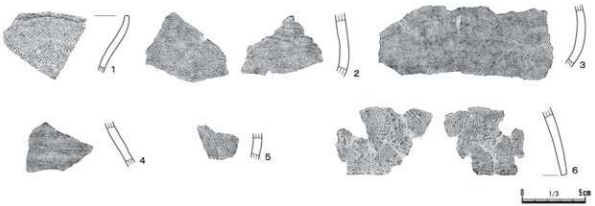
［構　造］**平面形**：隅丸方形か。**規模**：南北軸不明／東西軸4.60m／遺構確認面からの深さ36～44㎝。**壁**：70°程の角度で立ち上がっている。**主軸方位**：不明。**壁溝**：確認できなかった。**床面**：検出できた範囲では、壁際を除き硬化した面が確認できた。**炉**：北壁から1.75m程離れて位置する。北西側は578Ｙの貯蔵穴に壊されている。不明×55㎝の楕円形を呈する地床炉。掘り込みは5㎝であり、４㎝程の厚さで被熱赤化していた。**貯蔵穴**：確認できなかった。**柱穴**：本住居に伴うものはＰ１とＰ２の２本であり、Ｐ２は578Ｙの貼床下からの検出である。Ｐ１は63×47㎝の楕円形で深さ67㎝、Ｐ２は53×40㎝の楕円形で深さ72㎝。**入口施設**：確認できなかった。**掘り方**：壁際は幅52～80㎝、深さ４～10㎝で溝状に掘り廻らされ、中央部は９㎝程掘り下がっていた。

［覆　土］30層に分層できた。全体的にロームブロックが入り込み、層境が安定しない。

［遺　物］壷・甕形土器が僅かに出土した。



第12図　55号住居跡（１／60・１／100）



第13図　55号住居跡出土遺物(1／3)

挿図番号 図版番号	器種	法量 (cm)	特　　徴	色　調	胎　土	調　　整	出土位置	遺存度
第13図1 図版10-1-1	壺	厚0.4	口唇に RL 単節斜縄文／口縁部に上から LR, RL, RL, LR, RL, LR 単節斜縄文を施し羽状構成／頸部から口縁部にかけてやや内湾しながら立ち上がる	胎土は浅黄橙色を基調	砂粒・白色粒子を少量含む	内面：横方向の細かいヘラ磨き調整	第180地点 北側の覆土上層	口縁部破片
第13図2 図版10-1-2	壺	厚0.7	やや膨らみを呈する胴部／外面に煤付着	胎土は明灰褐色を基調	砂粒・細礫・白色粒子を少量含む	内面：横ナデ／外面：ヘラ磨き調整	第180地点 北東側覆土上層	胴部破片
第13図3 図版10-1-3	壺	厚0.6	膨らみを呈する胴部／外面は赤彩	胎土は浅黄橙色を基調	砂粒・白色粒子を少量含む／橙色粒子を含む	内面：横ナデ／外面：横ヘラ磨き調整	第180地点 東側覆土上～下層	胴部破片
第13図4 図版10-1-4	甕	厚0.5	外面に煤付着	胎土は明灰褐色を基調	細礫・白色粒子・橙褐色粒子を含む	内外面：横方向に細かいハケ目調整	第180地点 北東隅床面直上	胴部破片
第13図5 図版10-1-5	甕	厚0.6		胎土はにぶい黄橙色を基調	砂粒・白色粒子・橙色粒子を少量含む	内面：ヘラナデ／外面：ハケ目調整	第180地点 覆土	胴部破片
第13図6 図版10-1-6	甕	厚0.5	台付甕／僅かに内湾しながら立ち上がる	胎土はにぶい赤褐色を基調	砂粒を少量含む／灰白色粒子を多量に含む	内面：横方向のハケ目調整／外面：ハケ目調整	第180地点 北側床面直上	脚台部破片

第９表　55号住居跡出土土器一覧

［時　　期］弥生時代後期後葉～古墳時代初頭。

遺　　物（第13図、図版10－１、第９表）

１～３は壺形土器、４～６は甕形土器である。

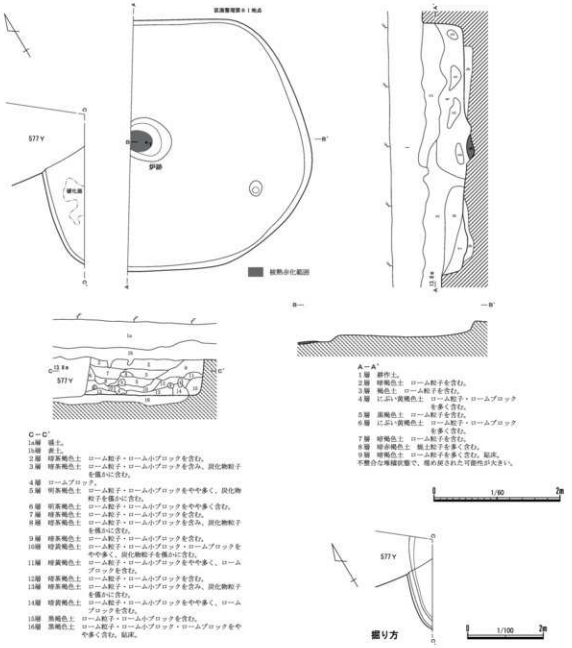
56号住居跡

遺　　構（第14図）

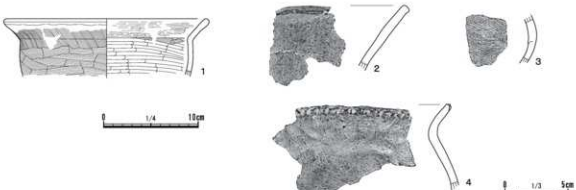
［位　　置］調査区東隅（区画整理第６Ⅰ・６Ⅱ地点と同一住居）。

［検出状況］577Y に切られる。大半は区画整理第６Ⅰ・６Ⅱ地点で調査済みであり、本地点では西壁の一部のみの検出である。

［構　　造］**平面形**：隅丸方形。**規模**：長軸4.20m／短軸4.06m／遺構確認面からの深さ20～25㎝。



第14図　56号住居跡（１／60・１／100）



第15図　56号住居跡出土遺物（1／4・1／3）

挿図番号 図版番号	器種	法量 (cm)	特　徴	色調	胎土	調　整	出土位置	遺存度
第15図1 図版10-2-1	高坏	高 [6.1] 口 (21.8)	鉢の可能性もあり／既調査報告では壷で扱われていた土器／頸部が屈曲／口唇部が面取りされる／内外面赤彩の可能性あり	胎土は橙色を基調	砂粒・細礫・白ぶい褐色粒子・橙色粒子を少量含む	内面：胴部に横ヘラ磨き調整、口縁部にハケ目調整後、ヘラナデ／外面：胴部に横ハケ目調整、頸部から口縁部にかけて縦ハケ目調整、口唇部にヘラナデ	区画整理第６Ⅰ・６Ⅱ地点	口縁部～胴部破片
第15図2 図版10-2-2	壷	厚0.6	口縁部は外傾／口唇部はハケ状工具で面取りされる	胎土は橙色を基調	砂粒を少量含む／橙色粒子をやや多量に含む	内面：ヘラ磨き調整／外面：ヘラ磨き調整／口唇部：ハケ目調整後、ヘラナデ	区画整理第６Ⅰ・６Ⅱ地点	口縁部破片
第15図3 図版10-2-3	壷	厚0.6	膨らみを呈する胴部	胎土は赤褐色を基調	砂粒・細礫を含む	内面：ヘラケズリ調整／外面：縦かいハケ目調整	第180地点 覆土	胴部破片
第15図4 図版10-2-4	甕	厚0.5	頸部が屈曲し、口縁部が僅かに外反／口唇部にヘラ状工具で面取りし、棒状工具で右から刺突し、刻み目を巡らす／外面が煤けて黒くなる	胎土は白ぶい橙色を基調	砂粒・細礫・橙色粒子を含む	内面：横方向の縦かいハケ目調整／外面：縦ハケ目調整後、口唇部外面に横ナデ	区画整理第６Ⅰ・６Ⅱ地点	口縁部～胴部破片

第10表　56号住居跡出土土器一覧

壁：ほぼ垂直に立ち上がっている。**長軸方位**：Ｎ－78°－Ｗ。**壁溝**：確認できなかった。**床面**：一部硬化した面が確認できた。**炉**：住居中央より北西に偏って位置する。不明×66cmの地床炉で、深さ６cmの掘り込みをもつ。**貯蔵穴**：確認できなかった。**柱穴**：本住居に伴うものは検出されなかった。**入口施設**：確認できなかった。**掘り方**：壁際から内側に10～15cmの深さで一段掘り下がっている。

［覆　　土］11層に分層。全体的にロームブロックが多く、堆積が不整合。埋め戻された可能性。

［遺　　物］壷・甕形土器などの破片が出土した。

［時　　期］弥生時代後期末葉～古墳時代初頭。

遺　　物（第15図、図版10－２、第10表）

１は高坏あるいは鉢形土器か、２・３は壷形土器、４は甕形土器である。

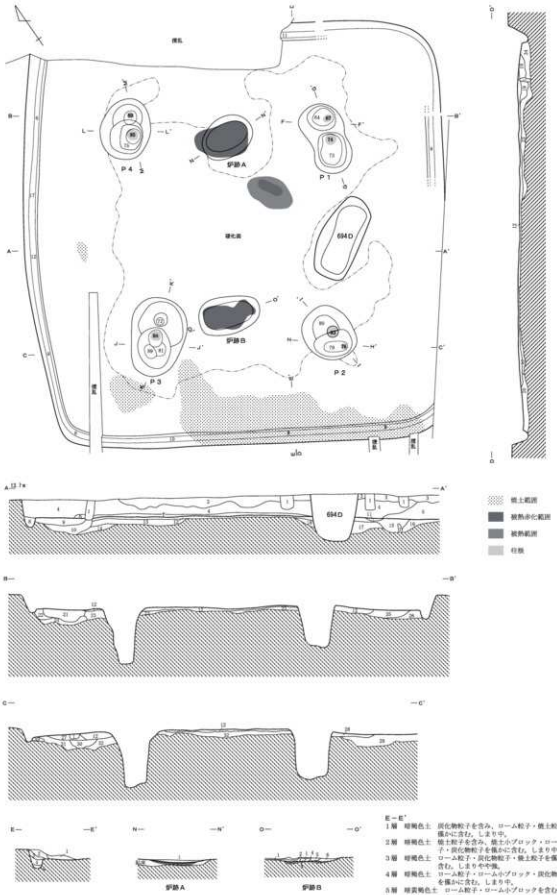
570号住居跡

遺　　構（第16～18図）

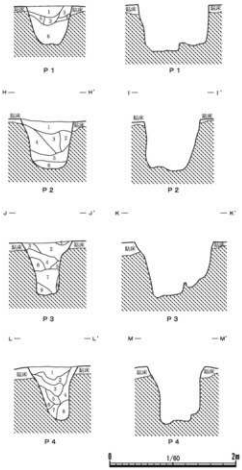
［位　　置］調査区中央からやや西側に寄る。

［検出状況］571・573・574・576Ｙを切る。南東壁は調査区外である。北コーナーと北東壁の半分は撹乱を受けている。

［構　　造］**平面形**：方形。**規模**：長軸6.68m／短軸6.64m／遺構確認面からの深さ18～30cm。**壁**：70°程の角度で立ち上がる。**主軸方位**：Ｎ－35°－Ｅ。**壁溝**：確認できた範囲では巡らされていた。上幅16～30cm・下幅５～10cm・深さ８～17cm。**床面**：住居中央付近に硬化した面が確認できた。硬化した床面の一部が576Ｙ覆土の上で確認された。**炉**：地床炉２基が検出された。北側を炉跡Ａ、南側を炉跡Ｂとする。炉跡Ａは85×62cmの楕円形、炉跡Ｂは100×60cmの楕円形を呈している。**貯蔵穴**：確認できなかった。**柱穴**：主柱穴４本が住居コーナーから確認できた。Ｐ１は115×60cm、Ｐ２は90×75cm、Ｐ３は125×80cm、Ｐ４は95×80cmで、すべて２本以上の重複形を呈している。**赤色砂利層**：確認できなかった。**入口施設**：確認できなかった。**掘り方**：壁際の内側に、幅55～110cm、深さ９～23cmで溝状に掘り廻らされている。



第16図　570号住居跡（1／60・1／100）



J－J'（P３）
1層　暗褐色土　ローム小ブロックを含み、ローム粒子・ロームブロック・炭化物粒子・焼土粒子を含む。しまり非常に強。
2層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまりや。
3層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、焼土粒子を僅かに含む。しまりやや強。２層より明色。
4層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまりやや強。３層より明色。
5層　暗黄褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロック・暗褐色土を僅かに含む。しまりやや。
6層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、暗褐色土を僅かに含む。しまり強。
7層　暗褐色土　ローム小ブロックを含み、ローム粒子を僅かに含む。しまりやや強。
8層　暗褐色土　ローム粒子を含む。しまり中。
9層　暗黄褐色土　ローム粒子を含み、暗褐色土を僅かに含む。しまり弱。黄色味強。

L－L'（P４）
1層　暗褐色土　ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり中。
2層　暗褐色土　ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子を含む。しまり中。やや赤味あり。
3層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
4層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロック・暗褐色土を僅かに含む。しまりやや強。
5層　暗黄褐色土　ローム粒子を含む。しまり強。
6層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
7層　暗褐色土　ローム小ブロックを含む。ローム粒子・ロームブロックを含む。しまりやや強。
8層　暗黄褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。やや黄色味強い。

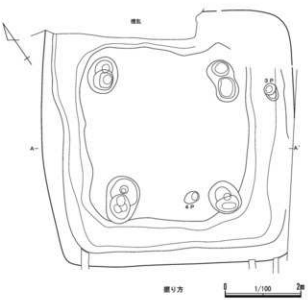
N－N'（P建物A）
1層　暗褐色土　焼土粒子・焼土小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。

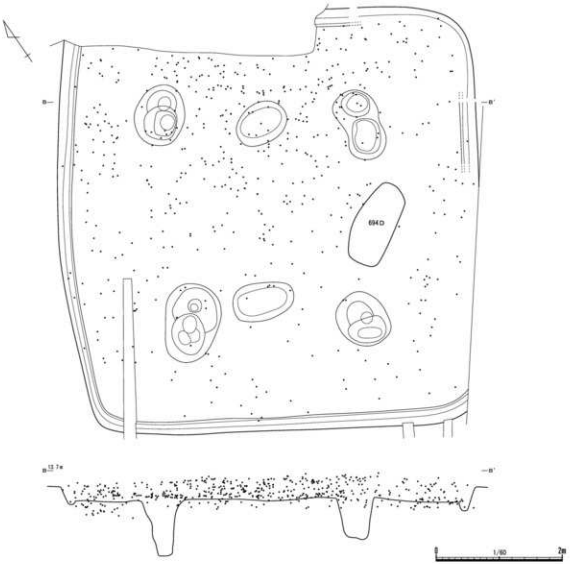
O－O'（P建物B）
1層　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロックを含み、焼土粒子・黒色土粒子を僅かに含む。しまり強。粗粘土。
2層　暗褐色土　ローム粒子、焼土粒子・焼土小ブロックを含み、黒色土粒子・砂利を僅かに含む。しまり強。
3層　暗赤褐色土　焼土粒子・焼土小ブロックを多く、黒色土粒子を僅かに含む。しまり強。粘性あり。
4層　暗黄褐色粘土　焼土粒子を僅かに含む。しまり強。粘性あり。
5層　黒褐色土　焼土粒子を含み、ローム粒子・焼土小ブロックを僅かに含む。しまり強。
6層　黒褐色土　焼土粒子・焼土小ブロックを含み、焼土ブロック・ローム粒子を僅かに含む。しまり強。５層より暗色。

A－A'・B－B'・C－C'・D－D'
1層　現表。
2層　黒褐色土　ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
4層　暗褐色土　ローム粒子を多く、焼土粒子・炭化物粒子を僅かに含む。しまりやや強。
5層　暗褐色土　ローム粒子を多く、焼土粒子を含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまりやや強。３層より暗色。
6層　暗褐色土　焼土粒子・焼土ブロックを含み、ローム粒子を僅かに含む。しまり強。
7層　暗褐色土　ローム粒子を多く、焼土粒子を僅かに含む。しまりとても強。黄味あり。
8層　暗褐色土　ローム粒子を多く、炭化物粒子を含み、焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
9層　暗褐色土　ローム粒子を多く、ロームブロック・焼土粒子・炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。４層より明色。
10層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・黒色土粒子を僅かに含む。しまりやや強。
11層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む。非強。
12層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、黒色土粒子を僅かに含む。しまり強。
13層　暗黄褐色土　ロームブロックを多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強い。
14層　黄褐色土　暗褐色土ブロックを含み、暗褐色土粒子を僅かに含む。しまりやや強。
15層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
16層　暗褐色土　ローム粒子を多く、黒色土粒子を含み、焼土粒子を僅かに含む。しまりやや強。
17層　暗褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロック・黒色土粒子を僅かに含む。しまりやや強。
18層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子を含む。しまりやや強。
19層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
20層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む。しまりやや強。
21層　黒褐色土　ローム粒子を多く、ロームブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
22層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまりやや強。
23層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、黒色土粒子を僅かに含む。しまり強。
24層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまりやや強。
25層　黒褐色土　ローム粒子を多く、ロームブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまりやや強。21層と近似。
26層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、焼土粒子を僅かに含む。しまりやや強。
27層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
28層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまりやや強。27層よりやや明色。
29層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
30層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
31層　暗黄褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまりやや強。30層より明色。
32層　暗黄褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり強。
33層　暗黄褐色土　ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
34層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。23層より暗色。

F－F'（P１）
1層　暗褐色土　ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子を含む。ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
2層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまりや。ローム小ブロックまでに含まれる。
3層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまりや。1・2層より明色。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。まどりに暗褐色土が含まれる。
5層　暗黄褐色土　暗褐色土をやや多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。
6層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く、暗褐色土を僅かに含む。しまり強。

H－H'（P２）
1層　暗褐色土　ローム粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまりやや強。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまりやや強。
3層　暗褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまりや。
4層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く、暗褐色土を僅かに含む。しまり強。
5層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり弱。1層より明色。
6層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりや。





第17図　570号住居跡遺物出土状態１（１／60）

［覆　　土］７層に分層された。

［遺　　物］今回検出された遺構のうち、最も土器が出土した。坩・器台・高坏・鉢・壷・甕・台形土器というように器種のバラエティーが豊富である。

［時　　期］古墳時代前期。

［所　　見］本住居は、確認された主柱穴４本がすべて２本以上の重複形を呈していること、炉跡が２基確認されたことから、住居の建て替えが行われていた可能性がある。

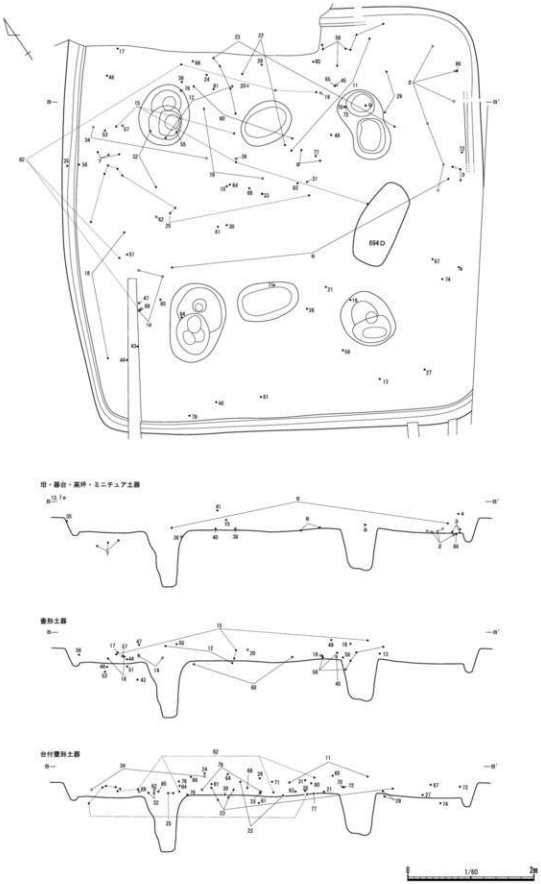
遺　　物（第19～22図、図版10－３・図版11、図版12－１、第11・12表）

［土　　器］（第19～22図１～85、図版10－３、図版11、図版12－１－76～85、第11表）

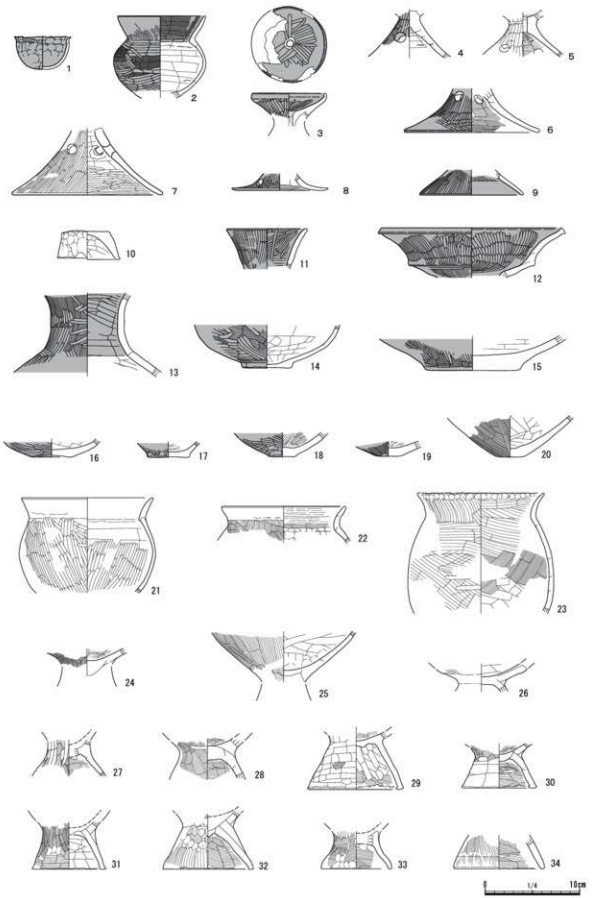
１は鉢形土器、２・35は坩形土器、３は器台形土器、４～９・36～41は高坏形土器、10は台形土器、11～20・42～60は壷形土器、21～34・61～85は甕形土器である。

［土 製 品］（第22図86、図版12－１－86、第12表）

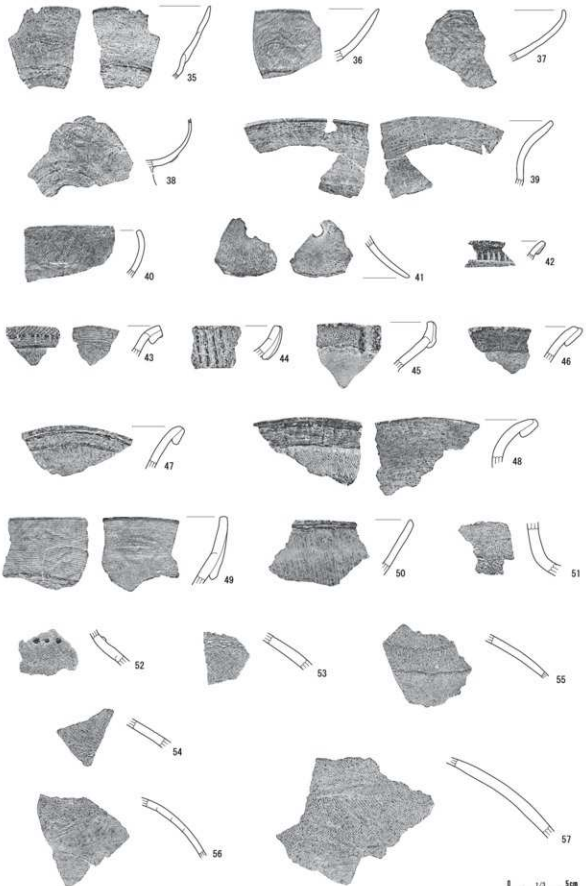
86は高坏の脚台部を転用して研具として使用されたものと思われる。



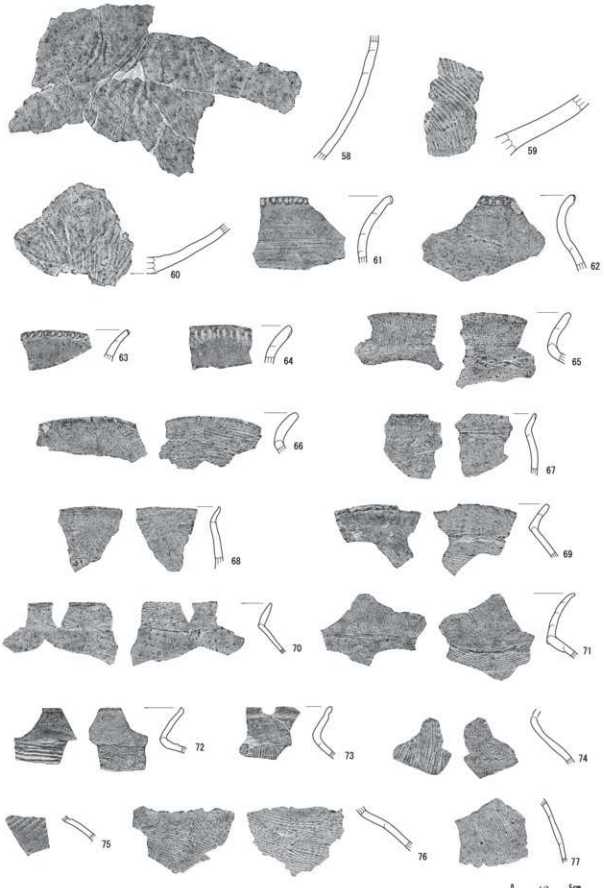
第18図　570号住居跡遺物出土状態２（１／60）



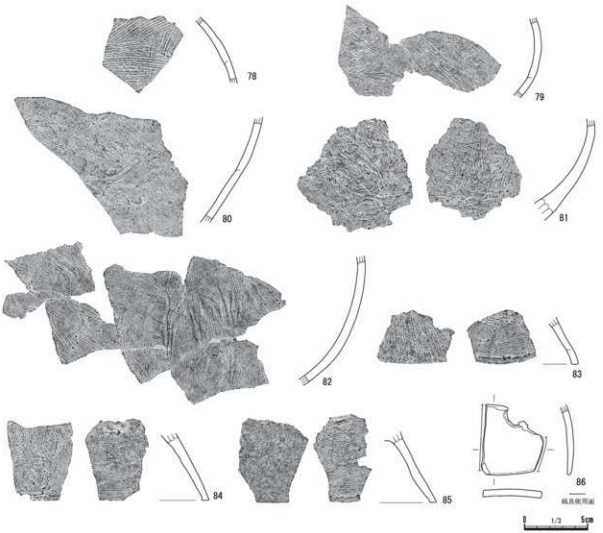
第19図　570号住居跡出土遺物１（1／4）



第20図　570号住居跡出土遺物２（1／3）



第21図　570号住居跡出土遺物３(1／3)



第22図　570号住居跡出土遺物４（1／3）

挿図番号 図版番号	器種	法量 (cm)	特　徴	色　調	胎　土	調　整	出土位置	遺存度
第19図1 図版10-3-1	鉢	高 3.5 口 (6.0)	ミニチュア土器／口縁部が外反／口縁部に最大径を持つ／底部は丸底／内外面に指頭押捺痕が残る／頸部に輪積痕が残る／内外面に赤彩	胎土は橙色を基調	砂粒・細礫・白色粒子を極少量含む	内外面：指頭押捺で調整	P1の覆土	40%
第19図2 図版10-3-2	坩	高 [8.7] 口9.3	口縁部が僅かに内湾／頸部が「く」字状に屈曲／胴部に最大径／胴部は膨らむ／口縁部内面および外面に赤彩	胎土はにぶい赤褐色を基調	砂粒を含む／白色粒子・橙色粒子を少量含む	内面：口縁部に横ハケ目調整・胴部に横ナデ／外面：口縁部にハケ目調整後、横ナデ・胴部にハケ目調整後、横ヘラ磨き調整	東隅の床面直上	90%
第19図3 図版10-3-3	器台	高 [3.5] 口8.0	口縁部が極僅かに内湾して立ち上がる／胴部は外傾／中央に受け部穿孔／穿孔径7.5mm／内外面に赤彩	胎土は赤橙色を基調	砂粒・細礫をやや多量に含む／橙色粒子を少量含む	内面：口縁部に横ナデ・受け部にヘラ磨き調整／外面：口縁部に横ナデ・胴部に縦ヘラ磨き調整	東壁付近の床面直上	受け部50%
第19図4 図版10-3-4	高坏	高 [5.2]	円錐形の若干外反した脚台部／脚部途中に２孔あり、外から内へ穿孔／外面赤彩	胎土はにぶい赤褐色を基調	砂粒・白色粒子を少量含む	内面：ハケ目調整、指頭圧痕が残る／外面：ヘラ磨き調整	南東壁から覆土上層	脚台部破片

第11表　570号住居跡出土土器一覧（１）

挿図番号 図版番号	器種	法量 (cm)	特　　徴	色　調	胎　土	調　　整	出土位置	遺存度
第19図5 図版10-3-5	高坏	高 [4.6]	円錐形の脚台部／脚部途中に１孔あり、外から内へ穿孔／坏部はやや外傾して立ち上がる	胎土は黄色橙を基調	砂粒・細礫・橙色粒子を少量含む	内面：横方向のハケ目調整／外面：縦ハケ目調整、裾部に横ナデ・頸部にヘラナデ	P4の覆土	脚台部破片
第19図6 図版10-3-6	高坏	高 [4.7] 底 (14.4)	脚部から裾部にかけてやや外反／脚部途中に１孔あり、外から内へ穿孔／外面赤彩	胎土はにぶい赤褐色を基調	砂粒・細礫を含む／白色粒子を多量に含む	内面：横方向のハケ目調整／外面：ヘラ磨き調整	東西で出土／覆土中～下層	脚台部破片
第19図7 図版10-3-7	高坏	高 [7.3] 底 (16.0)	円錐形の脚台部で、裾部にかけてやや外反する／脚部途中に２孔あり、外から内へ穿孔	胎土は浅黄橙を基調	砂粒・細礫・橙色粒子を極少量含む／なめらかで緻密な胎土	内面：横ナデ調整後、裾部に横ヘラ磨き調整／外面：縦ヘラ磨き調整	貼床の覆土	脚台部破片
第19図8 図版10-3-8	高坏	高 [1.8] 底 (10.2)	脚部から裾部にかけ末広がりに大きく開く／裾部は平坦で長い／屈曲部に１孔あり、外から内へ穿孔／外面赤彩	胎土は黄橙色を基調	砂粒を少量含む／橙色粒子をやや多量に含む	内面：脚台部に横方向のヘラナデ・裾部にハケ目調整／外面：ヘラ磨き調整	中央やや北の床面直上	脚台部破片
第19図9 図版10-3-9	高坏	高 [2.7] 底 (11.0)	円錐形の脚台部／内外面に赤彩	胎土は赤褐色を基調	砂粒・細礫・赤色粒子を少量含む／白色粒子をやや多量に含む	内面：ハケ目調整・裾部に横ナデ／外面：縦ヘラ磨き調整	東側の覆土下層	脚台部破片
第19図10 図版10-3-10	台形土器	高 3.1	不整形な楕円形を呈する／天井径5.0～4.3cm／底径6.7～6.2cm／底端部正面に半円形の孔あり	胎土は灰黄褐色を基調	砂粒・橙色粒子を少量含む・細礫を含む	内面：ヘラナデ／外面：指頭押捺	中央の覆土中層	完形
第19図11 図版10-3-11	壺	高 [4.3] 口 (8.5)	小型壺／口縁部が僅かに外反して立ち上がる／内外面に赤彩	胎土は浅黄橙色を基調	砂粒・細礫・橙色粒子を少量含む	内外面：ヘラ磨き調整	北東側の覆土上層	口縁部破片
第19図12 図版10-3-12	壺	高 [5.3] 口 (19.8)	二重口縁／口唇部はハケ状工具による面取り／口縁部が外反しながら立ち上がる／内外面に赤彩	胎土はにぶい褐色を基調	砂粒・細礫・白色粒子を少量含む	内面：ヘラ磨き調整／外面：ヘラ磨き調整・ハケ目調整／口唇部：ヘラナデ	住居跡北側の床面直上	口縁部破片
第19図13 図版10-3-13	壺	高 [8.9]	頸部から肩部にかけて緩やかな曲線を描く／内面頸部および外面に赤彩の可能性	胎土は淡黄橙色を基調	砂粒・細礫を少量含む／黄橙色粒子やや多く量に含む	内面：頸部はヘラナデ後、粗いヘラ磨き調整／外面：縦ハケ目調整後、粗いヘラ磨き調整	南隅の覆土／第159地点３号ピット出土の破片と接合	頸部～肩部破片
第19図14 図版10-3-14	壺	高 [4.6] 底5.3	膨らみを呈する胴部／底部は上げ底	胎土は橙色を基調	砂粒・細礫を含む／赤褐色粒子を多量に含む	内面：粗いヘラナデ／外面：ハケ目調整後、粗いヘラ磨き調整	西隅の覆土中～下層	胴部下部～底部破片
第19図15 図版10-3-15	壺	高 [3.7] 底10.0	底部は平底／外面に赤彩	胎土はにぶい橙色を基調	白色粒子・橙色粒子を含む	内面：ヘラナデ／外面：ハケ目調整後、粗いヘラ磨き調整	北側～中央付近の覆土上～下層	底部破片
第19図16 図版10-3-16	壺	高 [2.0] 底4.2	底部は平底	胎土は黄橙色を基調	砂粒・細礫・白色粒子・赤色粒子・雲母を含む	内面：ヘラナデ／外面：ヘラ磨き調整	南側の覆土上層	底部破片
第19図17 図版10-3-17	壺	高 [1.7] 底4.4	底部は平底／外面に赤彩	胎土は浅黄橙色を基調	砂粒・細礫を少量含む／橙色粒子を含む	内面：ヘラナデ後、ヘラ磨き調整／外面：ヘラ磨き調整	北隅の覆土上層	底部破片
第19図18 図版10-3-18	壺	高 [4.4] 底3.0	底部は平底／胴部は外傾	胎土はにぶい赤褐色を基調	細礫を多量に含む	内面：ヘラナデ／外面：ハケ目調整	北側の覆土中～下層	胴部下部～底部破片
第19図19 図版10-3-19	壺	高 [2.6] 底2.7	底部は平底／外面に赤彩の可能性	胎土はにぶい橙色を基調	砂粒を少量含む／細礫・白色粒子を含む	内外面：ヘラ磨き調整	西側の覆土下層	胴部下部～底部破片
第19図20 図版10-3-20	壺	高 [2.6] 底2.7	底部は平底／外面に赤彩の可能性	胎土は浅黄橙色を基調	白色粒子・橙褐色粒子を含む	内面：ヘラナデ／外面：縦ハケ目調整	北東側の覆土上層	胴部下部～底部破片

第11表　570号住居跡出土土器一覧（２）

挿図番号 図版番号	器種	法量 (cm)	特　徴	色　調	胎　土	調　整	出土位置	遺存度
第19図21 図版10-3-21	甕	高 [10.1] 口 (14.0)	頸部がゆるやかに屈曲／内面に口縁部の輪積痕あり／窪らみを呈する胴部	胎土はにぶい橙色を基調	砂粒・細礫を含む	内面：ヘラナデ後、胴部下部をヘラ磨き調整／外面：口縁部ヘラナデ・胴部にヘラ磨き調整	中央やや南の床上	口縁部～胴部破片
第19図22 図版10-3-22	甕	高 [12.8] 口 (13.4)	口縁部が僅かに外反して立ち上がる／頸部がゆるやかに屈曲／窪らみを呈する胴部	胎土は橙色を基調	砂粒・白色粒子を少量含む／復黄橙色粒子を多量に含む	内面：胴部下半にハケ目、胴部上半から口縁部に粗いハケ目調整、口唇部に指頭押捺／外面：胴部下半に斜めの粗いハケ目調整、胴部上半に横の粗いハケ目調整、口縁部に縦の粗いハケ目調整、口唇部に指頭押捺	北東側の床上	口縁部～胴部破片
第19図23 図版10-3-23	甕	高 [4.0] 口 (13.2)	頸部が屈曲／口唇部がハケ状工具によって面取りされる	胎土は赤褐色を基調	細礫・赤褐色粒子をやや多量に含む	内面：肩部に指頭押捺・口縁部にハケ目調整後、横ナデ／外面：胴部に縦に粗いハケ目調整・口縁部に横ナデ	北東側の床上・覆土	口縁部～胴部破片
第19図24 図版10-3-24	甕	高 [5.4]	台付甕／脚台部との接合面あり	胎土はにぶい橙色を基調	橙色粒子を含む	内面：横ナデ・指頭押捺が残る／外面：粗いハケ目調整	中央から北西の覆土～貼床	胴部下部破片
第19図25 図版10-3-25	甕	高 [2.8]	台付甕／脚台部との接合面あり	胎土は赤褐色を基調	細礫を少量含む／白色粒子を多量に含む	内面：ハケ目調整／外面：粗いハケ目調整	北側の覆土上層	胴部下部破片
第19図26 図版10-3-26	甕	高 [3.0]	台付甕／胴部から脚台部は屈曲する	胎土は黄橙色を基調	赤褐色粒子を含む／淡橙色粒子を多量に含む	内面：横ナデ／外面：ハケ目調整・ナデ調整	北東側の覆土上層	胴部下部～脚台部破片
第19図27 図版10-3-27	甕	高 [3.9]	台付甕／脚台部は「ハ」字状を呈する	胎土は赤褐色を基調	細礫を含む	内面：ハケ目調整／外面：ハケ目調整後、ヘラナデ	南隅の床上	脚台部破片
第19図28 図版10-3-28	甕	高 [4.4]	台付甕／胴部から脚台部は屈曲／脚台部は「ハ」字状を呈する	胎土はにぶい橙色を基調	砂粒・細礫を少量含む／橙色粒子を含む	内面：胴部下部にハケ目整後、ヘラ磨き調整・脚台部にハケ目調整／外面：ハケ目調整	中央から南東側の覆土下層	胴部下部～脚台部破片
第19図29 図版10-3-29	甕	高 [6.6] 底 (10.1)	台付甕／胴部から脚台部は屈曲／脚台部は「ハ」字状を呈する／底端部は平坦で内側に粘土がはみ出る	胎土は赤褐色を基調	細礫を少量含む／橙色粒子を多量に含む	内面：胴部下部にハケ目調整・脚台部にハケ目調整後、ヘラナデ／外面：胴部にヘラナデ・脚台部にハケ目調整後、ヘラナデ	北側の床面直上	胴部下部～脚台部破片
第19図30 図版10-3-30	甕	高 [4.8] 底 (8.0)	台付甕／胴部から脚台部は屈曲／脚台部は「ハ」字状を呈する／底端部は平坦で内側に粘土がはみ出る	胎土は赤褐色を基調	細礫・橙色粒子を含む	内面：胴部下部にハケ目調整・脚台部にハケ目調整／外面：胴部にヘラナデ	中央の床面直上	胴部下部～脚台部破片
第19図31 図版10-3-31	甕	高 [5.1] 底 (7.8)	台付甕／胴部から脚台部は屈曲／脚台部は「ハ」字状を呈する／底端部は平坦で内側に粘土がはみ出る	胎土は明赤褐色を基調	細礫を多量に含む	内面：脚台部にヘラナデ／外面：胴部から脚台部に縦ハケ目調整、底端部に粗いハケ目調整	中央の覆土上層	胴部下部～脚台部破片
第19図32 図版10-3-32	甕	高 [6.3] 底 (9.6)	台付甕／胴部から脚台部は屈曲／脚台部は「ハ」字状を呈し、底端部でやや内湾する／底端部は平坦で内側に粘土がはみ出る／頸部に粘土を重ねて貼り付けている	胎土はにぶい橙色を基調	砂粒・細礫・白色粒子を含む	内面：胴部、脚台部にハケ目調整／外面：指頭押捺による整形後、縦ハケ目調整	北側の覆土下層	胴部下部～脚台部破片
第19図33 図版10-3-33	甕	高 [4.0] 底 (7.5)	台付甕／胴部から脚台部はゆるやかに屈曲／脚台部は「ハ」字状を呈し、底端部でやや内湾／底端部は平坦で内側に粘土が少しはみ出る	胎土は明赤褐色を基調	細礫を多量に含む	内面：脚台部に指頭押捺、横ハケ目調整／外面：脚台部にハケ目調整後、一部にヘラ磨き調整、底端部に指頭押捺	中央の覆土下層	脚台部破片

第11表　570号住居跡出土土器一覧（3）

挿図番号 図版番号	器種	法量 (cm)	特　徴	色　調	胎　土	調　整	出土位置	遺存度
第19図34 図版10-3-34	甕	高 [3.6] 底 (9.6)	台付甕／「ハ」字状を呈する／底端部は平坦で内側に粘土分少しはみ出る	胎土は浅黄橙色を基調	細礫・橙色粒子を少量含む／砂粒を含む	内面：横ハケ目調整／外面：ハケ目調整後、底端部を横ナデ	中央から北側の覆土上層	脚台部破片
第20図35 図版11-35	坩	厚0.5	口縁部が僅かに内湾／内面に口縁部と胴部の境に段を持つ／胴部がやや膨らみを呈する	胎土は赤橙色を基調	砂粒・細礫・白色粒子を含む	内面：ハケ目調整後、ヘラナデ／外面：ハケ目調整後、ヘラ磨き調整	北西壁際の覆土上層	口縁部～胴部破片
第20図36 図版11-36	高坏	厚0.6	坏部下半に稜を有する／内外面に赤彩の可能性	胎土は浅黄橙色を基調	細礫を少量含む／赤色粒子を含む	内外面：ヘラ磨き調整	北側の床面直上	口縁部破片
第20図37 図版11-37	高坏	厚0.5	口唇部で強く内湾する／内外面に赤彩	胎土は浅黄橙色を基調	細礫・細礫・白色粒子を少量含む	内外面：ヘラ磨き調整	覆土	口縁部破片
第20図38 図版11-38	高坏	厚0.4	塊形の坏部／垂直気味に頸部につながる／坏部下半に粘土帯を貼り付け／外面に赤彩	胎土は橙色を基調	砂粒・細礫を含む	内面：ヘラナデ後、ヘラ磨き調整／外面：ヘラ磨き調整	中央付近の床面直上	口縁部破片
第20図39 図版11-39	高坏	厚0.5	口唇部が面取りされる／口縁部が外反／内外面に赤彩	胎土は黄橙色を基調	砂粒を多量に含む	内外面：ヘラナデ後、粗いヘラ磨き調整	覆土	口縁部破片
第20図40 図版11-40	高坏	厚0.4	口唇部が面取りされ、LR 単節斜縄文を施文／口縁部に上から LR、RL、LR 単節斜縄文を羽状に施文／縄文施文以下に赤彩／口唇部直下に３つの円形赤彩文／内面に赤彩／胴部は膨らみを呈する	胎土は浅黄橙色を基調	砂粒・赤褐色粒子を含む	内面：ヘラナデ後、ヘラ磨き調整／外面：ヘラ磨き調整	南西側の床面直上	口縁部破片
第20図41 図版11-41	高坏	厚0.5	末広がりに大きく開く裾部／脚台部中位に１孔あり／外面に赤彩	胎土は黄橙色を基調	橙色粒子を多量含む	内面：ハケ目調整／外面：ハケ目調整後、裾部にヘラ磨き調整、端部に横ナデ	中央付近の覆土上層	脚台部破片
第20図42 図版11-42	壺	厚0.4	小型壺／幅狭の複合口縁／口唇部が面取りされ、RL 単節斜縄文を施文／複合部にハケ状工具による刻みが廻る	胎土は浅黄橙色を基調	砂粒・浅黄橙色粒子を含む	内面：ヘラナデ後、粗いヘラ磨き調整／外面：ハケ目調整後、ヘラナデ	覆土	口縁部破片
第20図43 図版11-43	壺	厚0.5	幅狭の複合口縁／口唇部が面取りされ、LR 単節斜縄文を施文／複合部に棒状工具による刻みが廻る／内外面に赤彩の可能性	胎土は黄橙色を基調	砂粒・橙色粒子を含む	内面：ハケ目調整後、口唇部をヘラナデ、部分的にヘラ磨き調整／外面：ハケ目調整	西側の貼床土	口縁部破片
第20図44 図版11-44	壺	厚0.8	幅広の複合口縁／口唇部が面取りされる／口唇部に RL 単節斜縄文を施文か／口縁部に RL 単節斜縄文・S 字状結節文を施文、５本の棒状貼付文、円形赤彩文が上部に２つ、下部に１つ／口唇部、内面に赤彩	胎土は黄橙色を基調	砂粒・白色粒子・橙色粒子を含む	内面：ヘラ磨き調整	西側隅の覆土下層	口縁部破片
第20図45 図版11-45	壺	厚0.6	複合口縁／口唇部が面取りされ、口唇部に LR 単節斜縄文を施文／口縁部に LR 単節斜縄文を施文、２本の棒状貼付文／頸部と内面に赤彩	胎土は浅黄橙色を基調	砂粒・細礫・橙色粒子を少量含む	内外面：ヘラ磨き調整	北東側の覆土下層	口縁部～頸部破片
第20図46 図版11-46	壺	厚0.6	幅狭の複合口縁／口唇部が面取りされる／内外面に赤彩	胎土は浅黄橙色を基調	砂粒・白色粒子を少量含む	内外面：ヘラナデ後、ヘラ磨き調整	南西壁際の覆土下層	口縁部破片
第20図47 図版11-47	壺	厚0.6	幅狭の複合口縁／口唇部が面取りされる	胎土は黄橙色を基調	砂粒・白色粒子・橙色粒子を含む	内面：ヘラナデ後、ヘラ磨き調整／外面：粗いハケ目調整後、ヘラ磨き調整	西側の覆土上層	口縁部破片

第11表　570号住居跡出土土器一覧（４）

挿図番号 図版番号	器種	法量 (cm)	特　徴	色　調	胎　土	調　整	出土位置	遺存度
第20図48 図版11-48	壺	厚0.7	幅狭の複合口縁／口唇部が面取りされる／内外面に赤彩	胎土は黄橙色を基調	砂粒・細礫・白色粒子・赤色粒子を含む	内外面：ハケ目調整後、ヘラ磨き調整	Ｐ４の覆土	口縁部破片
第20図49図版11-49	壺	厚0.7	幅広の複合口縁／口唇部が面取りされる／内外面に赤彩の可能性	胎土は黄橙色を基調	砂粒・細礫・橙色粒子を少量含む	内面：ハケ目調整後、ヘラ磨き調整、口唇部に横ナデ／外面：ハケ目調整後、口唇部に横ナデ	中央付近の覆土上層	口縁部破片
第20図50 図版11-50	壺	厚0.9	口唇部が面取り／内外面に赤彩	胎土はにぶい橙色を基調	細礫・白色粒子を少量含む	内外面：ヘラ磨き調整／口唇部：ハケ目調整後、ヘラ磨き調整	Ｐ４の覆土	口縁部破片
第20図51 図版11-51	壺	厚0.9	頸部下部に上から２段に連続した RI 自縄結節文、LR 単節斜縄文／頸部はゆるやかに弧を描く／S 字状結節文より上に赤彩、内面に赤彩	胎土はにぶい橙色を基調	白色粒子・橙色粒子を含む	内外面：ヘラ磨き調整	北西側の覆土下層	頸部破片
第20図52 図版11-52	壺	厚0.7	胴部に上から LR、RL、RL、LR 単節斜縄文／ LR と RL 単節斜縄文の境にボタン状貼付文が３つ並ぶ	胎土は浅黄橙色を基調	細礫を少量含む／浅橙色粒子を含む	内面：横ナデ	覆土	胴部上半破片
第20図53図版11-53	壺	厚0.9	胴部に上から RL 単節斜縄文、２段に連続した RI 自縄結節文、RL、LR 単節斜縄文／外面に赤彩	胎土は浅黄橙色を基調	細礫を少量含む／灰白色粒子を含む	内面：横ナデ	北側の覆土下層	胴部上半破片
第20図54 図版11-54	壺	厚0.7	胴部に上から LR、RL、Z 字状・S 字状の RI 自縄結節文／結節文以下に赤彩の可能性	胎土は浅黄橙色を基調	細礫を灰白色粒子を含む	内面：横ナデ	覆土	胴部上半破片
第20図55 図版11-55	壺	厚0.5	胴部に LR 端末結節文を２段に施文／外面赤彩	胎土は橙色を基調	赤色粒子・灰白色粒子を含む	内面：ヘラナデ／外面：ヘラ磨き調整	北側の覆土上層	胴部上半破片
第20図56 図版11-56	壺	厚0.9	頸部下部に上から RL、LR、RL、LR 単節斜縄文／胴部中段に円形赤彩文が一つ／斜縄文以下に赤彩	胎土はにぶい橙色を基調	細礫を少量含む／灰白色粒子をややを量に含む	内面：ヘラナデ／外面：ヘラ磨き調整	北側の覆土上層	胴部上半破片
第20図57 図版11-57	壺	厚0.5	胴部に RL 単節斜縄文／斜縄文以下に赤彩	胎土はにぶい橙色を基調	細礫を少量含む／橙色粒子を含む	内面：ヘラナデ／外面：ヘラ磨き調整	北側壁溝付近の覆土	胴部上半破片
第21図58 図版11-58	壺	厚1.3	底部から大きく開いて立ち上がる	胎土は浅黄橙色を基調	砂粒・黄橙色粒子を含む	内面：ヘラ磨き調整／外面：粗いハケ目調整後、粗いヘラ磨き調整	南側の覆土下層	胴部下半破片
第21図59 図版11-59	壺	厚0.9	膨らみを持つ胴部／外面に赤彩	胎土はにぶい橙色を基調	細礫を少量含む／浅黄橙色粒子を多量に含む	内面：ヘラナデ／外面：ハケ目調整後、ヘラ磨き調整	北東側の覆土上層～下層	胴部下半破片
第21図60 図版11-60	壺	厚0.9	底部から大きく開いて立ち上がる／底部は平底	胎土は橙色を基調	浅黄橙色粒子を多量に含む	内面：粗いハケ目調整／外面：粗いハケ目調整後、ヘラナデ	北東側の覆土下層	胴部下半～底部破片
第21図61 図版11-61	甕	厚0.5	頸部がゆるやかに屈曲／口唇部に刻み目が廻る	胎土はにぶい橙色を基調	砂粒含む／浅黄橙色粒子をやや多量に含む	内面：ヘラナデ／外面：縦ハケ目調整後、横ヘラナデ	南西壁際の覆土下層	口縁部～頸部破片
第21図62 図版11-62	甕	厚0.5	頸部が弧を描いて屈曲／口唇部が面取りされ、刻み目が廻る	胎土はにぶい黄橙色を基調	細礫・白色粒子・橙色粒子を含む	内外面：ヘラナデ	中央付近の覆土上層	口縁部～肩部破片
第21図63 図版11-63	甕	厚0.5	口縁部がやや外反する／口唇部が面取りされ、刻み目が廻る	胎土はにぶい黄橙色を基調	白色粒子・橙色粒子を含む	内面：ヘラナデ／外面：縦ヘラナデ後、口唇部に横ヘラナデ	覆土	口縁部破片
第21図64 図版11-64	甕	厚0.7	口縁部がやや外傾する／口唇部が面取りされ、刻み目が廻る	胎土は浅黄色を基調	砂粒・白色粒子を含む	内外面：ヘラナデ	中央付近の覆土上層	口縁部破片

第11表　570号住居跡出土土器一覧（5）

挿図番号 図版番号	器種	法量 (cm)	特　　徴	色　調	胎　土	調　　整	出土位置	遺存度
第21図65 図版11-65	甕	厚0.7	頸部が「く」字状に屈曲する	胎土は赤ぶ ぶい橙色 を基調	細礫を少量含む ／浅橙色粒子を 多量に含む	内面：ハケ目調整後、口唇部 に横ナデ／外面：ハケ目調整 後、口唇部に横ナデ	北東側の覆土上 層	口縁部～ 頸部破片
第21図66 図版11-66	甕	厚0.6	頸部が「く」字状に屈曲する ／口唇部がハケ状工具による 面取り	胎土は橙 色を基調	砂粒・細礫を含 む	内面：ハケ目調整後、口唇部 に横ナデ／外面：ハケ目調整 後、口縁部に横ナデ	北側の覆土上層	口縁部～ 頸部破片
第21図67 図版11-67	甕	厚0.5	頸部が「く」字状に屈曲する ／口唇部が面取りされ、ハケ 状工具による刻み目が廻る／ やや膨らみを呈する胴部	胎土はに ぶい橙色 を基調	細礫・白色粒子 を少量含む	内面：横ナデ／外面：ハケ目 調整後、口唇部に横ナデ	南東側の覆土上 層	口縁部～ 胴部破片
第21図68 図版11-68	甕	厚0.5	口唇部がわずかに内湾して立 ち上がる／頸部がゆるやかに 屈曲／やや膨らみを呈する胴 部	胎土は橙 色を基調	白色粒子・橙色 粒子を含む	内外面：ハケ目調整後、ヘラ ナデ	中央付近の覆土 上層	口縁部～ 胴部破片
第21図69 図版11-69	甕	厚0.4	頸部が「く」字状に屈曲する ／口唇部が面取りされる	胎土は浅 黄橙色を 基調	砂粒・細礫・白 色粒子・橙色粒 子を含む	内面：胴部下部に粗いハケ目 調整・頸部から口縁部に細 かいハケ目調整／外面：細か いハケ目調整後、口唇部に 横ナデ	西側の覆土下層	口縁部～ 胴部破片
第21図70 図版11-70	甕	厚0.2	頸部が「く」字状に屈曲する ／口唇部が面取りされる	胎土はに ぶい褐色 を基調	砂粒・白色粒子 を少量含む／細 礫・橙色粒子含 む	内面：ハケ目調整後、胴部に ヘラナデ／外面：ハケ目調整 後、口唇部・胴部にヘラナ デ	東側の覆土上層	口縁部～ 胴部破片
第21図71 図版11-71	甕	厚0.6	頸部が「く」字状に屈曲する ／口唇部がやや外反する	胎土は橙 色を基調	砂粒・細礫・白 色粒子を含む	内面：ハケ目調整後、口縁部 にヘラナデ／外面：ハケ目調 整後、口縁部にヘラナデ	中央北側の覆土 上層	口縁部～ 胴部破片
第21図72 図版11-72	甕	厚0.5	口唇部がわずかに内湾して立 ち上がる／頸部が「く」字状 に屈曲する	胎土はに ぶい橙色 を基調	雲母を多量に含 む	内面：ハケ目調整後、ヘラナ デ／外面：粗いハケ目調整 後、口縁部にヘラナデ	東側の覆土上層	口縁部～ 胴部破片
第21図73 図版11-73	甕	厚0.5	S字口縁台付甕／頸部が「く」 字状に屈曲する	胎土は灰 白色を基 調	砂粒・細礫・白 色粒子・橙色粒 子・雲母を含む	内面：ヘラナデ／外面：胴部 に縦ハケ目調整、口縁部に ヘラナデ	東側壁付近の覆 土上層	口縁部～ 胴部破片
第21図74 図版11-74	甕	厚0.5	頸部が「く」字状に屈曲する	胎土は灰 白色を基 調	砂粒・細礫・白 色粒子・橙色粒 子・雲母を含む	内面：ヘラナデ／外面：胴部 に縦ハケ目調整	南東側の覆土下 層	頸部～胴 部上半破 片
第21図75 図版11-75	甕	厚0.4	頸部下位に沿ってハケ状工具 による斜位の刺突が廻る	胎土はに ぶい橙色 を基調	砂粒・細礫・白 色粒子を少量含 む	内面：ヘラナデ／外面：ハケ 目調整	覆土	頸部～胴 部上半破 片
第21図76図 版12-1-76	甕	厚0.4	頸部が屈曲／やや膨らみを呈 する胴部	胎土はぶ ぶい橙色 を基調	細礫・白色粒 子・浅橙色粒子 を含む	内面：ハケ目調整／外面：ハ ケ目調整後、頸部下位にヘラ ナデ	北側の覆土上層	頸部～胴 部破片
第21図77 図版12-1-77	甕	厚0.3	やや膨らみを呈する胴部	胎土はに ぶい赤褐 色を基調	灰白色粒子・橙 色粒子を含む	内面：ヘラナデ／外面：ハケ 目調整	中央付近の床直 上	胴部破片
第22図78 図版12-1-78	甕	厚0.5	やや膨らみを呈する胴部	胎土はに ぶい褐色 を基調	細礫・白色粒 子・赤褐色粒 子・雲母を含む	内面：ヘラ磨き調整／外面： ハケ目調整	西壁際の覆土下 層	胴部破片 層
第22図79 図版12-1-79	甕	厚0.5	膨らみを呈する胴部	胎土は浅 黄橙色を 基調	砂粒・細礫・橙 色粒子を含む	内面：ケズリ調整後、ヘラナ デ／外面：ハケ目調整	中央付近の覆土 下層	胴部破片
第22図80 図版12-1-80	甕	厚0.5	膨らみを呈する胴部	胎土は橙 色を基調	砂粒・白色粒 子・橙色粒子を 含む	内面：ハケ目調整後、ヘラナ デ、ヘラ磨き調整／外面：ハ ケ目調整	北東側の覆土上 層	胴部下部 破片

第11表　570号住居跡出土土器一覧（６）

挿図番号 図版番号	器種	法量 (cm)	特　　徴	色　調	胎　土	調　　整	出土位置	遺存度
第22図81 図版12-1-81	甕	厚0.6	底部付近に厚みを持つ／膨らみを呈する胴部	胎土は橙色を基調	砂粒・細礫・白色粒子・赤褐色粒子を含む	内外面：ハケ目調整	北東側の覆土上層	胴部下部破片
第22図82 図版12-1-82	甕	厚0.6	膨らみを呈する胴部	胎土は浅黄橙色を基調	白色粒子を少量含む／橙色粒子を多量に含む	内面：ヘラナデ／外面：ハケ目調整	北東～北西側の覆土上層～下層	胴部破片
第22図83 図版12-1-83	甕	厚0.5	台付甕／脚台部は「ハ」字状を呈する／底端部でやや膨らみ、内調／底端部は平坦で内側に粘土が少しはみ出る	胎土は橙色を基調	砂粒・細礫・白色粒子を含む	内面：横ハケ目調整／外面：縦ハケ目調整	中央付近の下層	脚台部破片
第22図84 図版12-1-84	甕	厚0.5	台付甕／脚台部は「ハ」字状を呈する／底端部は平坦	胎土は赤褐色を基調	砂粒・細礫・白色粒子を含む	内面：横ハケ目調整／外面：縦ハケ目調整	西側の覆土上層	脚台部破片
第22図85 図版12-1-85	甕	厚0.6	台付甕／脚台部は「ハ」字状を呈する／底端部は平坦で内側に粘土が少しはみ出る	胎土は橙色を基調	砂粒・細礫・白色粒子を含む	内面：横ハケ目調整／外面：ハケ目調整後、ヘラナデ	北西側の覆土下層	脚台部破片

第11表　570号住居跡出土土器一覧（７）

挿図番号 図版番号	器種	法量 (cm)	特　　徴	色　調	胎　土	調　　整	出土位置	遺存度
第22図86 図版12-1-86	高坏転用研具	長　5.6 幅　4.7 厚　0.5 重量16.6g	高坏の脚台部の裾部破片を研具に転用／左右の破断面を研面として使用／使用面は平滑でやや光沢を持つ／裾部が末広がりに大きく開く／脚台部に１孔あり／両面に赤彩	胎土はにぶい黄橙色を基調	白色粒子・橙色粒子を含む	内面：ハケ目調整後、ヘラ磨き調整／外面：ハケ目調整後、ヘラナデ・ヘラ磨き調整	東隅の床面上	完形

第12表　570号住居跡出土土製品一覧

571号住居跡

遺　　構（第23図）

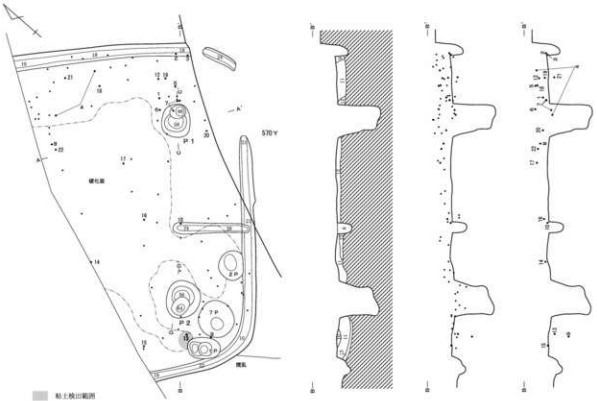
［位　　置］調査区西端部。

［検出状況］572・573Ｙを切り、570Ｙに切られる。西半部は調査区域外にあると思われる。

［構　　造］**平面形**：隅丸方形か。**規模**：南北軸6.20m／東西軸不明／遺構確認面からの深さ５～15㎝。**壁**：80°程の角度で立ち上がる。**主軸方位**：Ｎ―40°―Ｅ。**壁溝**：上幅15～25㎝／下幅５～12㎝・深さ18～22㎝。北東壁中央には間仕切り溝が確認できた。長さ1.22m・上幅13～17㎝・下幅６～10㎝・深さ24～26㎝。**床面**：壁際を除き硬化した面が確認できた。**炉**：確認できなかった。**貯蔵穴**：確認できなかった。南コーナーから検出された掘り込みはピットとして扱った。**柱穴**：住居コーナーのＰ１・Ｐ２が主柱穴と思われる。いずれも２本の重複形を呈し、Ｐ１は53×45㎝の楕円形で、深さは58・66㎝、Ｐ２は60×50㎝の楕円形で、深さは56・64㎝。**赤色砂利層**：確認できなかった。**入口施設**：確認できなかった。**掘り方**：壁際の内側に幅48～100㎝、深さ14～24㎝で方形の溝状に掘り廻らしている。

［覆　　土］６層に分層された。

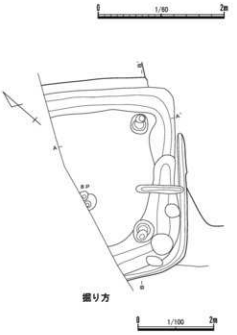
［遺　　物］高坏・坩・壺・甕形土器の破片が出土した。



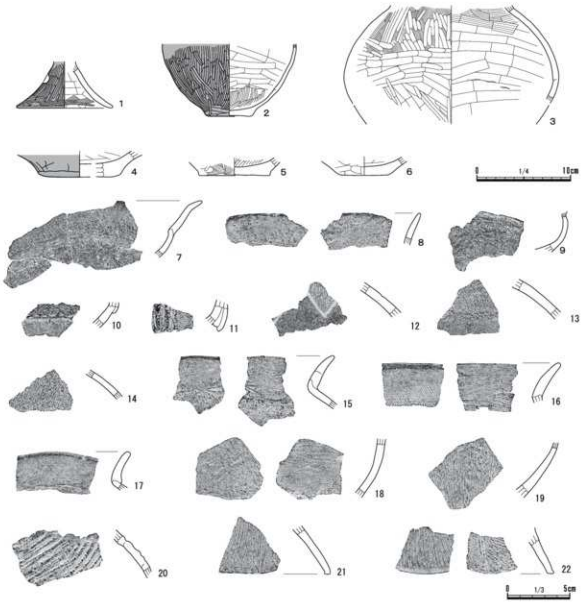
A－A'・B－B'
1層　暗褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまりや、後世のピットテ
2層　暗褐色土　ローム粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまりや、
3層　暗褐色土　ローム粒子を含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまりや、２層よりも明色。
4層　暗褐色土　ローム粒子・炭化物粒子を僅かに含む。しまりや、
5層　暗褐色土　ローム粒子を含み、焼土粒子・炭化物粒子を僅かに含む。しまりやや強。
6層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
7層　P１覆土
8層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。間伐切り。
9層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。
10層　灰白色粘土
11層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。
12層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。
13層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。
14層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまりや、

C－C'
1層　黒褐色土　ローム粒子・黒色土粒子を含む。しまりや、
2層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
3層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまりや、
4層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり強。
２・３層より明色。
5層　黒褐色土　ローム粒子・炭化物粒子を含む。しまりや、
6層　暗褐色土　ローム粒子を含み、黒色土粒子を僅かに含む。しまりや、
7層　暗褐色土　ローム粒子を多く、黒色土粒子を含む。しまりや、
8層　暗褐色土　ローム粒子・黒色土粒子を含む。しまりや、７層より暗色。
9層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを僅かに含む。しまりや、

D－D'
1層　黒褐色土　ローム粒子・焼土粒子・黒色土粒子を僅かに含む。しまりや、
2層　暗褐色土　ローム粒子・黒色土粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまりや、
3層　暗褐色土　ローム粒子黒色土粒子を含む。しまりや、
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロック・黒色土粒子を僅かに含む。
しまり強。
5層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、黒色土粒子を僅かに含む。しまりや、
6層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや、
7層　黄褐色土　ローム小ブロックを多く、暗褐色土粒子を僅かに含む。しまり強。



第23図　571号住居跡（１／60・１／100）



第24図　571号住居跡出土遺物(1／4･1／3)

［時　　期］弥生時代後期末葉～古墳時代初頭。

遺　　物（第24図、図版12－２、第13表）

１は高坏形土器、７～９は坩形土器、２～６・10～14は壷形土器、15～22は甕形土器である。20の外面にタタキ成形痕が認められる。

572号住居跡

遺　　構（第４図）

［位　　置］調査区西端部。

［検出状況］571Ｙに切られる。南側の大半は調査区外にあるものと思われ、詳細不明である。住居北西側は、一部攪乱を受けており、遺存状況は悪い。

［構　　造］平面形：方形か。規模：不明／遺構確認面からの深さ３～９㎝。壁：45°程の角度で立ち

挿図番号 図版番号	器種	法量 (cm)	特　徴	色　調	胎　土	調　整	出土位置	遺存度
第24図1 図版12-2-1	高坏	高 [4.9] 底 (10.2)	円錐状の外反脚／脚台部中位に１孔あり／外面に赤彩	胎土は浅黄橙色を基調	砂粒・白色粒子を含む	内面：ハケ目調整後、ヘラナデ／外面：ハケ目調整後、ヘラ磨き調整	東側の覆土下層	脚台部破片
第24図2 図版12-2-2	壺	高 [7.7] 底 4.8	膨らみを呈する胴部／内面に輪積み痕が残る／底部は平底／内面に赤彩	胎土は橙色を基調	細礫を少量含む／白色粒子を含む	内面：ハケナデ・ヘラ磨き調整／外面：ヘラナデ後、ヘラ磨き調整	東側の壁溝上	胴部から底部破片
第24図3 図版12-2-3	壺	高 [12.6] 径 (22.8)	膨らみを呈する胴部／内面に輪積み痕が残る	胎土は橙色を基調	砂粒・白色粒子を含む	内面：ハケ目調整・ハケナデ／外面：ハケ目調整後、ヘラナデ・ヘラ磨き調整	東側の壁溝付近床面直上	胴部破片
第24図4 図版12-2-4	壺	高 [2.8] 底 (9.0)	底部は平底／外面・底面に赤彩の可能性	胎土は浅黄橙色を基調	砂粒・白色粒子を含む	内外面：ヘラナデ	北東側の覆土上層～下層	胴部下部～底部破片
第24図5 図版12-2-5	壺	高 [1.9] 底 (7.4)	底部は平底	胎土はにぶい橙色を基調	細礫・白色粒子を含む	内面：ヘラ磨き調整／外面：ハケ目調整後、ヘラ磨き調整	東側の覆土上層	底部破片
第24図6 図版12-2-6	壺	高 [2.0] 底 (4.7)	底部は平底／外面に赤彩	胎土は赤褐色を基調	砂粒・白色粒子を含む	内外面：ヘラナデ	東側の覆土上層	底部破片
第24図7 図版12-2-7	坩	厚0.3	口唇部が外反／口縁部から胴部にかけてくびれ、内面に稜を持つ／胴部がやや膨らみを呈する	胎土は橙色を基調	砂粒・細礫・白色粒子を含む	内面：ヘラナデ／外面：ハケ目調整後、ヘラ磨き調整	東側の覆土下層	口縁部～胴部破片
第24図8 図版12-2-8	坩	厚0.4	口唇部は外傾	胎土はにぶい橙色を基調	細礫を少量含む／白色粒子・橙色粒子を含む	内外面：ハケ目調整後、ヘラ磨き調整	中央北側の覆土下層	口縁部破片
第24図9 図版12-2-9	坩	厚0.5	膨らみを呈する胴部／口縁部から胴部にかけて屈曲／内外面に赤彩	胎土は浅黄橙色を基調	砂粒・白色粒子を含む	内外面：ヘラナデ後、ヘラ磨き調整	南隅の貼床土	胴部破片
第24図10 図版12-2-10	壺	厚0.6	幅狭の複合口縁／複合部に RL 単節斜縄文を施文／外面に赤彩の可能性	胎土は浅黄橙色を基調	砂粒・橙色粒子を少量含む	内外面：ヘラ磨き調整	南東側の覆土下層	口縁部破片
第24図11 図版12-2-11	壺	厚0.7	複合口縁／複合部に２本の棒状貼付文／内外面に赤彩	胎土はにぶい赤褐色を基調	砂粒・白色粒子・橙色粒子を含む	内面：ヘラ磨き調整／外面：ハケ目調整後、ヘラ磨き調整	覆土	口縁部破片
第24図12 図版12-2-12	壺	厚0.7	LR 単節斜縄文を施文後、浅い沈線による山形文で区画／外面の無文部分に赤彩	胎土は浅黄橙色を基調	細礫・白色粒子・橙色粒子を含む	内面：横ナデ／外面：ヘラ磨き調整	東側の覆土上層	胴部上半破片
第24図13 図版12-2-13	壺	厚0.7	胴部に上から RL、LR 単節斜縄文、３段に連続したＳ字状の羽自縄結節文を施文／外面の無文部分に赤彩	胎土はにぶい褐色を基調	白色粒子・橙色粒子・灰白色粒子を含む	内外面：ヘラ磨き調整	南隅の貼床土	胴部上半破片
第24図14 図版12-2-14	壺	厚0.4	胴部に LR 単節斜縄文	胎土は浅黄橙色を基調	橙色粒子・灰白色粒子をやや多量に含む	内面：ヘラナデ	覆土	胴部上半破片
第24図15 図版12-2-15	甕	厚0.6	口縁部が僅かに外反／頸部が「く」字状に屈曲	胎土はぶ ぶい橙色を基調	細礫・白色粒子・橙色粒子を含む	内面：ハケ目調整、指頭押捺／外面：ハケ目調整後、口縁部にヘラナデ	南西側の床直上	口縁部～頸部破片
第24図16 図版12-2-16	甕	厚0.6	口縁部が僅かに外反	胎土は橙色を基調	細礫を少量含む／白色粒子を含む	内面：ハケ目調整／外面：ハケ目調整後、口唇部にヘラナデ	中央付近の覆土下層	口縁部破片
第24図17 図版12-2-17	甕	厚0.6	口縁部が僅かに外反／頸部が「く」字状に屈曲	胎土はぶ ぶい橙色を基調	砂粒を少量含む／白色粒子を含む	内面：ヘラナデ／外面：ハケ目調整後、ヘラナデ	中央付近の覆土上層	口縁部～頸部破片

第13表　571号住居跡出土土器一覧（１）

挿図番号 図版番号	器種	法量 (cm)	特　徴	色　調	胎　土	調　整	出土位置	遺存度
第24図18 図版12-2-18	甕	厚0.6	やや膨らみを呈する胴部	胎土はにぶい褐色を基調	細礫・白色粒子・雲母をやや多量に含む	内面：ハケ目調整後、ヘラナデ／外面：ハケ目調整	東側の覆土上層	胴部破片
第24図19 図版12-2-19	甕	厚0.5	やや膨らみを呈する胴部	胎土は橙色を基調	細礫・白色粒子・橙色粒子を含む	内面：ヘラナデ／外面：ハケ目調整	東側の覆土下層	胴部破片
第24図20 図版12-2-20	甕	厚0.5	やや膨らみを呈する胴部	胎土は灰白色を基調	橙色粒子を多く含む	内面：ヘラナデ・ヘラ磨き調整・「＃」状の圧痕あり（当て具の圧痕か）／外面：タタキ調整、ヘラナデ	東隅の覆土下層	胴部破片
第24図21 図版12-2-21	甕	厚0.5	台付甕／脚台部は「ハ」字状を呈する／底端部で僅かに膨らみ、内面／底端部は平坦で内側に粘土が少しはみ出る	胎土は橙色を基調	砂粒・細礫・白色粒子を含む	内面：ヘラナデ／外面：縦ハケ目調整	北東側の貼床土	脚台部破片
第24図22 図版12-2-22	甕	厚0.6	台付甕／脚台部は「ハ」字状を呈する／底端部は平坦	胎土はにぶい橙色を基調	砂粒・白色粒子を含む	内面：ハケ目調整後、端部にヘラナデ／外面：縦ハケ目調整	中央付近の覆土上層	脚台部破片

第13表　571号住居跡出土土器一覧（２）

上がる。**主軸方位**：不明。**壁溝**：東コーナー部分で確認できた。上幅12～20㎝・下幅３～８㎝・深さ４㎝程度。**床面**：全体に軟弱である。**炉**：検出されなかった。**貯蔵穴**：検出されなかった。**柱穴**：検出されなかった。**赤色砂利層**：検出されなかった。**入口施設**：検出されなかった。**掘り方**：北東壁際の掘り方は幅40㎝程で深さ８～13㎝の溝状に深くなっている。

［覆　　土］６層に分層できた。上層はローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土、下層はローム粒子・ローム小ブロックを多く含む暗黄褐色土を基調とする。

［遺　　物］壷・甕形土器の破片が１点ずつ出土した。

［時　　期］弥生時代後期末葉～古墳時代初頭。

遺　　物（第25図、図版12－３、第14表）

１は壷形土器、２は甕形土器である。

第25図　572号住居跡出土遺物(1／3)

挿図番号 図版番号	器種	法量 (cm)	特　徴	色　調	胎　土	調　整	出土位置	遺存度
第25図1 図版12-3-1	壷	厚0.5	小型壷か／口縁部がやや外反／頸部が「く」字状に屈曲／内面口縁部、外面に赤彩	胎土は黄橙色を基調	砂粒・細礫を少量含む／雲母・白色粒子を含む	内外面：ヘラナデ	覆土	口縁部破片
第25図2 図版12-3-2	甕	厚0.6	やや膨らみを呈する胴部	胎土はにぶい褐色を基調	砂粒・細礫・白色粒子を含む	内外面：ハケ目調整	覆土	胴部破片

第14表　572号住居跡出土土器一覧

573号住居跡

遺　　構（第26図）

［位　　置］調査区北西端部。

［検出状況］住居南側の大半が570・571Ｙに切られている。

［構　　造］**平面形**：隅丸方形か。**規模**：長軸不明／短軸不明／遺構確認面からの深さ14～19㎝。**壁**：60°程の角度で立ち上がる。**主軸方位**：不明。**壁溝**：確認できなかった。**床面**：全体に軟弱である。**炉**：検出されなかった。**貯蔵穴**：住居北端で検出された。規模は不明、平面形は長方形と思われる。深さは16㎝。**柱穴**：検出されなかった。**赤色砂利層**：住居北東コーナーと思われる部分から検出された。範囲は82×55㎝で、貯蔵穴の北側に広がっている。**入口施設**：確認できなかった。

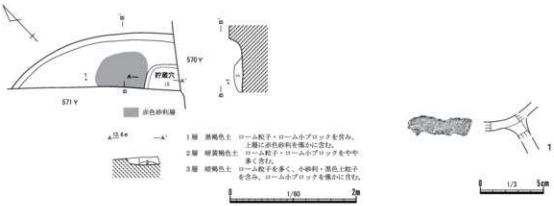
［覆　　土］３層に分層される。

［遺　　物］甕形土器の破片１点を図示することができた。

［時　　期］弥生時代後期末葉～古墳時代初頭。

遺　　物（第26図１、図版12－４、第15表）

１は甕形土器である。



第26図　573号住居跡（１／60）・出土遺物（1／3）

挿図番号 図版番号	器種	法量 (㎝)	特　　徴	色　調	胎　土	調　　整	出土位置	遺存度
第26図1 図版12-4-1	甕	厚0.9	台付甕	胎土は浅黄橙色を基調	砂粒・細礫・白色粒子・橙色粒子を含む	内外面：ハケ目調整	覆土上層	胴部下部～脚台部破片

第15表　573号住居跡出土土器一覧

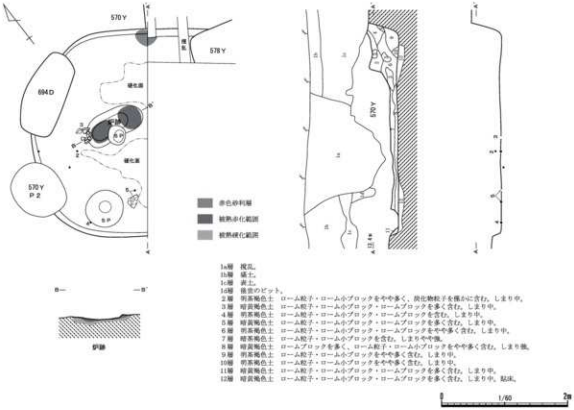
574号住居跡

遺　　構（第27図）

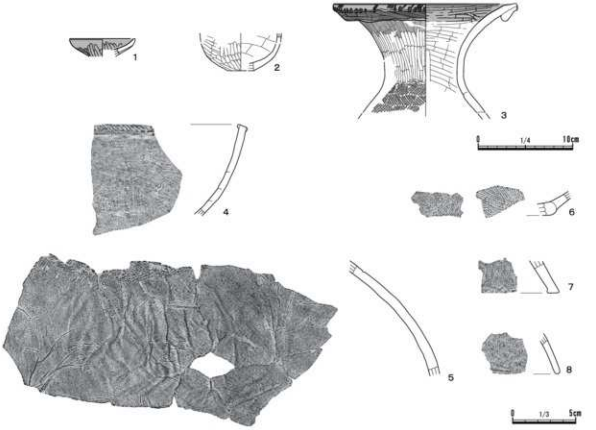
［位　　置］調査区中央からやや南側に寄る。

［検出状況］570・578Ｙに切られる。住居南東隅は調査区外であると思われる。

［構　　造］**平面形**：隅丸長方形か。**規模**：長軸不明／短軸3.20m／遺構確認面からの深さ13～18㎝。**壁**：70°の角度で立ち上がる。**主軸方位**：Ｎ―50°―Ｗ。**壁溝**：確認できなかった。**床面**：住居中央付



第27図　574号住居跡（１／60）



第28図　574号住居跡出土遺物（1／4・1／3）

挿図番号 図版番号	器種	法量 (cm)	特　　徴	色　調	胎　土	調　　整	出土位置	遺存度
第28図1 図版13-1-1	器台	高 [1.9] 口 7.0	口縁部が僅かに内湾して立ち上がる／内外面に赤彩	胎土は赤橙色を基調	白色粒子・浅黄橙色粒子を含む	内外面:ヘラナデ後、ヘラ磨き調整	覆土	口縁部破片
第28図2 図版13-1-2	坩	高 [4.0] 底 (3.0)	膨らみを呈する胴部／底部は平底か／内外面に赤彩の可能性	胎土は淡黄白色を基調	細礫・橙色粒子を含む	内面:ヘラナデ／外面:ヘラ磨き調整	中央付近の下層および570Y の P2覆土	胴部～底部破片
第28図3 図版13-1-3	壷	高 [11.5] 口 19.5	幅狭の複合口縁／口唇部外面に LR 斜縄文、ハケ状工具による刻み目が巡る／口唇部上端は平坦／頸部は緩やかな弧を描く／頸部下位に上から２段に連続した RI 自縄結節文、LR、RL、LR 単節斜縄文／内外面の口縁部に赤彩	胎土は褐色を基調	砂粒・細礫・白色粒子を少量含む／橙色粒子を多量に含む	内面:ヘラ磨き調整／外面:ハケ目調整後、ヘラ磨き調整	炉の西側の床面直上	口縁部～頸部破片
第28図4 図版13-1-4	鉢	厚 0.5	口唇部上端に RI 無節斜縄文／胴部がやや膨らみを呈する／内外面に赤彩	胎土は橙色を基調	砂粒・細礫・白色粒子を含む／橙色粒子を多量に含む	内面:ハケ目調整後、ヘラナデ／外面:ハケ目調整後、ヘラナデ、ヘラ磨き調整	南西隅の床面直上	口縁部～胴部破片
第28図5 図版13-1-5	壷	厚 0.8	胴部上半に上から RL 単節斜縄文、２段に連続した RI 自縄結節文／膨らみを呈する胴部	胎土は褐色を基調	砂粒・細礫・白色粒子を少量含む／橙色粒子を多量に含む	内面:ハケ目調整後、ヘラナデ／外面:ハケ目調整後、ヘラ磨き調整	南側の床面直上	胴部上半破片
第28図6 図版13-1-6	壷	厚 0.5	底部から大きく開いて立ち上がる／底部は平底	胎土は淡橙色を基調	砂粒・細礫をやや多量に含む	内面:ハケ目調整／外面:ハケ目調整後、ヘラ磨き調整	覆土	底部破片
第28図7 図版13-1-7	甕	厚 0.8	台付甕／脚台部は「ハ」字状を呈する／底端部は平坦で内側に粘土が少しはみ出る	胎土は橙色を基調	白色粒子・橙色粒子を含む	内面:ヘラナデ／外面:ハケ目調整後、ヘラナデ	覆土	脚台部破片
第28図8 図版13-1-8	甕	厚 0.5	台付甕／脚台部は「ハ」字状を呈する／底端部は平坦で面取りされる	胎土は赤橙色を基調	砂粒・白色粒子・橙色粒子を含む	内面:ヘラナデ／外面:ハケ目調整	覆土	脚台部破片

第16表　574号住居跡出土土器一覧

近の炉跡周辺で硬化した面を確認できた。**炉**：北西壁から90cm程離れて位置する。南側の一部は６Ｐに壊されている。95×43cmの楕円形を呈する地床炉で、東西両端に被熱による赤化した範囲が見られる。**貯蔵穴**：確認できなかった。**柱穴**：本住居に伴うものは確認できなかった。**赤色砂利層**：確認できなかった。**入口施設**：確認できなかった。**掘り方**：壁際に幅65～85cm、深さ10cm程度で深く掘られている。

［覆　　土］10層に分層される。

［遺　　物］器台・坩・鉢・壷・甕形土器の破片が出土した。

［時　　期］弥生時代後期後葉。

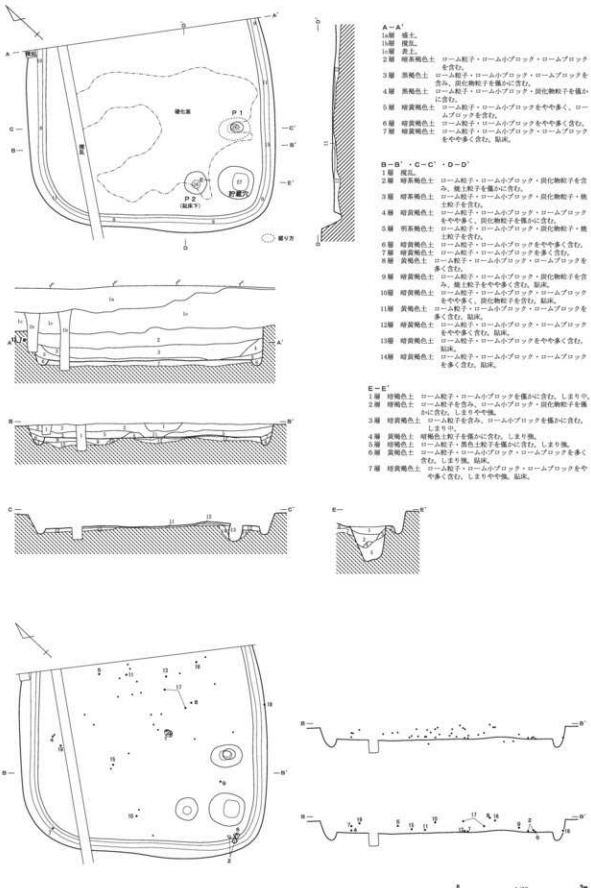
遺　　物（第28図、図版13－１、第16表）

１は器台形土器、２は坩形土器、３・５・６は壷形土器、４は鉢形土器、７・８は甕形土器である。

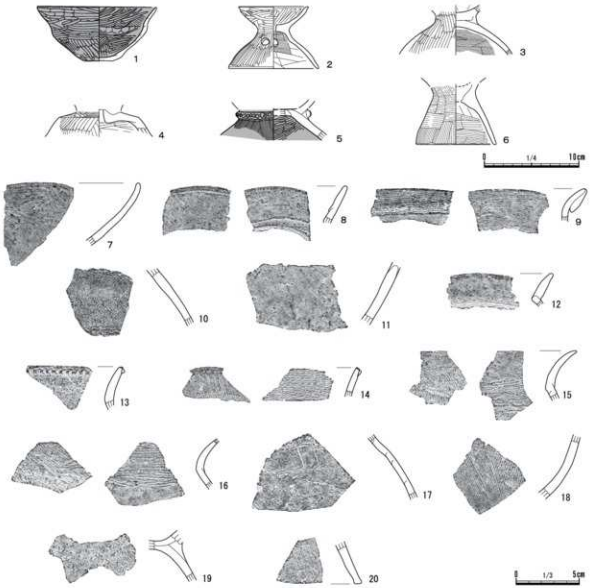
575号住居跡

遺　　構（第29図）

［位　　置］調査区東端部。



第29図　575号住居跡（1／60）



第30図　575号住居跡出土遺物(1／4・1／3)

［検出状況］576・577Ｙを切る。北東側は調査区外にあると思われる。

［構　　造］**平面形**：隅丸方形か。**規模**：長軸不明／短軸4.00m／遺構確認面からの深さ17～31㎝。**壁**：70°の角度で立ち上がる。**主軸方位**：Ｎ―45°―Ｅ。**壁溝**：全周するものと思われる。上幅20～33㎝・下幅５～10㎝・深さ８～11㎝。**床面**：中央付近で硬化した面が確認できた。硬化した床面の一部が576Ｙの覆土の上で確認された。**炉**：確認できなかった。**貯蔵穴**：南コーナーから検出された。53×52㎝の隅丸方形で、深さ57㎝。**柱穴**：Ｐ１・Ｐ２の２本が貼り床下から検出された。Ｐ１は50×35㎝の楕円形で、深さは26㎝、Ｐ２は35×37㎝の円形で、深さは15㎝。**赤色砂利層**：確認できなかった。**入口施設**：確認できなかった。**掘り方**：深さ２～10㎝程度で全体を掘り下げている。

［覆　　土］７層に分層される。

［遺　　物］坩・器台・高坏・甕形土器の破片が出土した。

［時　　期］古墳時代前期。

挿図番号 図版番号	器種	法量 (cm)	特　　徴	色　調	胎　土	調　　整	出土位置	遺存度
第30図1 図版13-2-1	坩	高 5.8 口 12.8	口縁部は外稜／胴部上半にくびれを持つ／底部は平底／口縁部内面および外面に赤彩	胎土は橙色を基調	細礫を少量含む／砂粒・白色粒子・橙色粒子を含む	内面:指頭押捺後、ハケ目調整、ヘラ磨き調整／外面:ヘラ磨き調整	中央の床面直上	完形
第30図2 図版13-2-2	器台	高 6.6 口 7.4 底 9.6	口唇部が僅かに外反／口唇部内面に稜を持つ／胴部はやや梔状を呈する／受け部中央に穿孔／穿孔径8.8mm／胴部から脚台部にかけて「く」字状に屈曲／脚台部は「ハ」字状を呈し、やや外側に膨らむ／脚台部上位に２つ穿孔	胎土は橙色を基調	砂粒・細礫・白色粒子を含む	内面:口唇部にヘラナデ・受け部にヘラ磨き調整・脚台部にハケ目調整／外面:ハケ目調整後、口唇部にヘラナデ・胴部～脚台部にヘラ磨き調整	南隅の床面直上	60%
第30図3 図版13-2-3	高坏	高 [5.3] 口 12.0	胴部から脚台部にかけて屈曲／脚台部は「ハ」字状を呈し、やや外側に膨らむ	胎土は橙色を基調	砂粒・白色粒子を少量含む	内面:胴部にヘラナデ・脚台部にハケ目調整／外面:ヘラ磨き調整	覆土	胴部～脚台部破片
第30図4 図版13-2-4	器台	高 [2.9]	裁形器台か／中央に穿孔／脚台部に段を有する／脚台部下半は僅かに外反	胎土は淡橙色を基調	砂粒・白色粒子・橙色粒子を少量含む	内面:ヘラナデ／外面:ヘラ磨き調整	北西側の覆土下層	脚台部破片
第30図5 図版13-2-5	高坏	高 [3.4]	胴部と脚台部の間に剥落が施される断面三角形の隆帯／脚台部は「ハ」字状を呈する／脚台部の内外面は赤彩	胎土はにぶい赤褐色を基調	砂粒・白色粒子・橙色粒子を含む	内面:ヘラ磨き調整／外面:ヘラ磨き調整・ハケ目調整後、ヘラナデ	北側の覆土上層	脚台部破片
第30図6 図版13-2-6	甕	高 [6.4] 底 8.5	台付甕／「ハ」字状を呈する／底端部は平坦で内側に粘土が少しはみ出る	胎土は橙色を基調	砂粒・橙色粒子を含む	内面:ヘラナデ、ハケ目調整／外面:ハケ目調整	南隅の床面直上	脚台部破片
第30図7 図版13-2-7	高坏	厚0.6	椀形の坏部／口唇部がやや内湾して立ち上がる／内外面に赤彩	胎土は浅黄橙色を基調	細礫・白色粒子を含む	内面:ヘラナデ後、ヘラ磨き調整／外面:ハケ目調整後、ヘラ磨き調整	西隅の覆土下層	口縁部破片
第30図8 図版13-2-8	高坏	厚0.6	口唇部は外稜／口唇部外面に沈線／内外面に赤彩	胎土は橙色を基調	細礫・灰白色粒子を含む	内面:ヘラナデ後、ヘラ磨き調整／外面:ハケ目調整後、ヘラ磨き調整	中央の覆土上層	口縁部破片
第30図9 図版13-2-9	壺	厚0.4	幅狭の複合口縁／口縁部は外反する／内外面に赤彩の可能性あり	胎土は浅黄橙色を基調	白色粒子・橙色粒子を含む	内外面:ハケ目調整後、ヘラ磨き調整	南側の覆土下層	口縁部破片
第30図10 図版13-2-10	壺	厚0.7	胴部上半に文様帯をもつ／文様は上から S字状の RL 自縄結節文を１段、RL、LR、S字状の RL 自縄結節文を２段	胎土は浅黄橙色を基調	砂粒・白色粒子・橙色粒子をやや多量に含む	内面:ヘラナデ	南西側の覆土上層	胴部上半破片
第30図11 図版13-2-11	壺	厚0.7	胴部が外稜／外面に赤彩	胎土は橙色を基調	細礫・灰白色粒子を少量含む	内面:ハケ目調整後、ヘラナデ／外面:ハケ目調整後、ヘラ磨き調整	北東側の覆土下層	胴部下半破片
第30図12 図版13-2-12	甕	厚0.5	頸部が「く」字状に屈曲する／頸部に沈線が廻る／内外面に赤彩の可能性あり	胎土は赤褐色を基調	砂粒・白色粒子・橙色粒子を含む	内面:ハケ目調整後、ヘラナデ／外面:ヘラナデ	貯蔵穴の覆土	口縁部～頸部破片
第30図13 図版13-2-13	甕	厚0.6	口縁部が外稜／口唇部にヘラ状工具による面取り／口唇部外面に刻み目が廻る	胎土はにぶい橙色を基調	細礫・橙色粒子を含む	内外面:ヘラナデ	中央北側の覆土下層	口縁部破片
第30図14 図版13-2-14	甕	厚0.5	口縁部が外稜／口唇部にハケ状工具による面取り／口唇部外面にハケ状工具による刻み目が廻る	胎土はにぶい橙色を基調	砂粒・白色粒子・橙色粒子をやや多量に含む	内外面:ハケ目調整	覆土	口縁部破片

第17表　575号住居跡出土土器一覧（1）

挿図番号 図版番号	器種	法量 (cm)	特　　徴	色　調	胎　土	調　　整	出土位置	遺存度
第30図15 図版13-2-15	甕	厚0.5	口縁部がやや外反／頸部が「く」字状に屈曲する	胎土は赤褐色を基調	細礫・浅橙色粒子を含む	内外面：ハケ目調整後、口唇部にヘラナデ	中央西側の覆土下層	口縁部～頸部破片
第30図16 図版13-2-16	甕	厚0.6	口縁部がやや外反／頸部が「く」字状に屈曲する	胎土は浅黄橙色を基調	白色粒子・浅橙色粒子を含む	内面：指頭押捺・ハケ目調整／外面ハケ目調整後、口縁部にヘラナデ	東側の覆土上層	口縁部～頸部破片
第30図17 図版13-2-17	甕	厚0.5	やや膨らみを呈する胴部	胎土はにぶい橙色を基調	砂粒・細礫を少量含む	内面：ヘラナデ／外面：ハケ目調整後、ヘラナデ	中央東側の覆土上層	胴部破片
第30図18 図版13-2-18	甕	厚0.7	やや膨らみを呈する胴部	胎土は黒褐色を基調	砂粒・白色粒子・赤褐色粒子を含む	内面：ヘラナデ／外面：ハケ目調整	東側壁際の覆土下層	胴部破片
第30図19 図版13-2-19	甕	厚0.5	台付甕／胴部と脚台部の間が屈曲	胎土はにぶい橙色を基調	白色粒子・橙色粒子・灰白色粒子を含む	内面：胴部にハケ目調整・脚台部にヘラナデ／外面：ハケ目調整	北西側の覆土上層	胴部～脚台部破片
第30図20 図版13-2-20	甕	厚0.5	台付甕／底端部は平坦で内側に粘土が少しはみ出る	胎土はにぶい橙色を基調	細礫を少量含む／白色粒子・橙色粒子を含む	内面：ヘラナデ／外面：ハケ目調整	覆土	脚台部破片

第17表　575号住居跡出土土器一覧（２）

遺　　物（第30図１～20、図版13－２、第17表）

１は坩形土器、２・４は器台形土器、３・５・７・８は高坏形土器、９～11は壷形土器、６・12～20は甕形土器である。

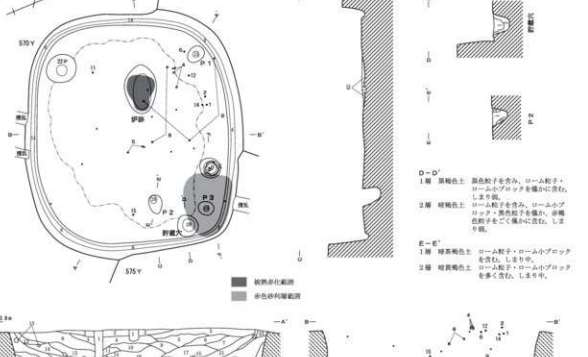
576号住居跡

遺　　構（第31図）

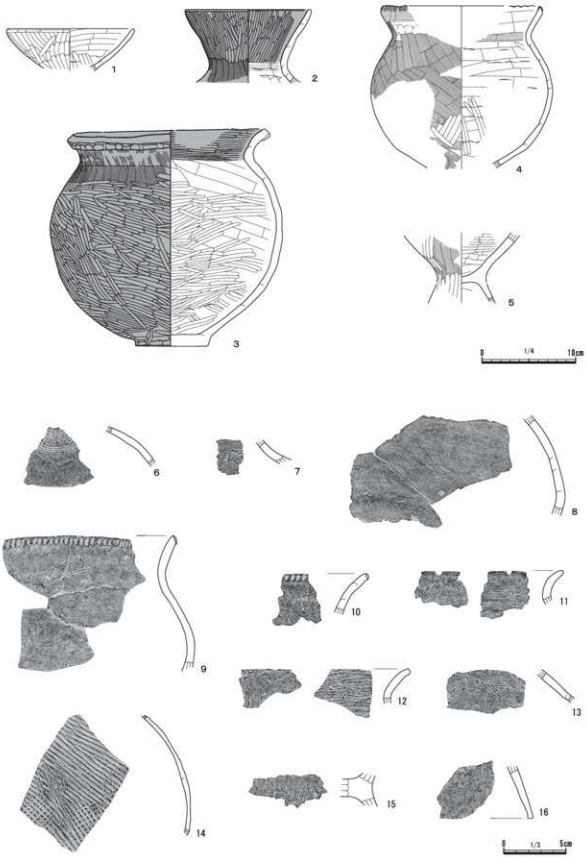
［位　　置］調査区中央からやや東側に寄る。

［検出状況］570・575Ｙに切られる。

［構　　造］**平面形**：隅丸長方形。**規模**：長軸3.88m／短軸3.47m／遺構確認面からの深さ30～９0cm。**壁**：80～85°程の急角度で立ち上がる。**主軸方位**：Ｎ―65°―Ｗ。**壁溝**：全周する。上幅13～27cm・下幅５～10cm・深さ4～14cm。**床面**：壁際を除き硬化した面を確認できた。**炉**：西壁から80cm程離れて位置する。75×45cmの楕円形を呈する地床炉で、掘り込みは５cm程の深さで、底面が被熱赤化していた。**貯蔵穴**：東コーナーの壁際から検出した。35×33cmの円形で、深さは25cm。赤色砂利層と一部分布が重なる。**柱穴**：Ｐ１・Ｐ３を検出した。Ｐ１は北コーナーの壁際に位置し、30×24cmの楕円形で、深さは15cm。Ｐ３は東コーナーに位置し、25×22cmの円形で、深さは16cm。赤色砂利層の下から検出された。**赤色砂利層**：東コーナー壁際の床面直上に100×75cmの範囲で確認できた。砂粒・小石を含む淡褐色土で層厚は10cm程。**入口施設**：Ｐ２は、掘り込みが斜めであり、炉と対になる東側に位置することから入り口ピットと考えられる。30×20cmの楕円形で、深さは28cm。**土器埋納土坑**：東コーナー壁際に位置し、内部にはほぼ完形の広口壷（第32図３）が埋められていた。赤色砂利層と分布が一部重なり、赤色砂利層の下からの検出である。土器は坑底面から２cm程上に、床面から７cm程下に位置して埋まっていた。掘り方は26×25cmの円形を呈し、深さは34cm。



第31図　576号住居跡・土器埋納土坑（１／60・１／30）



第32図　576号住居跡出土遺物(1／4・1／3)

挿図番号 図版番号	器種	法量 (cm)	特　徴	色　調	胎　土	調　整	出土位置	遺存度
第32図1 図版13-3-1	高坏	高 [4.5] 口13.6	焼形の坏部／内面に一部輪積み痕が残る	胎土は浅黄橙色を基調	橙色粒子・灰白色粒子を含む	内面：ヘラナデ、ヘラ磨き調整／外面：ヘラ磨き調整	北側の覆土上層	口縁部50%
第32図2 図版13-3-2	壺	高 [7.8] 口17.2	口縁部が外反／口唇部が僅かに肥大／頸部は「く」字状に屈曲／内面口縁部・外面に赤彩	胎土はにぶい褐色を基調	橙色粒子・灰白色粒子を含む	内面：頸部に指頭押捺、ヘラナデ、口縁部にヘラ磨き調整／外面：頸部にハケ目調整、口縁部にヘラ磨き調整	北側の覆土上層	口縁部破片
第32図3 図版13-3-3	広口壺	高 22.7 口[20.1] 底 7.7	幅狭の複合口縁／口唇部を面取り／頸部は弧を描くように低れる／胴部中位に最大径／胴部は膨らむ／底部は平底／口縁部内面および外面に赤彩／胴部内面に赤彩の可能性	胎土は浅黄橙色を基調	砂粒・灰白色粒子を含む	内面：ヘラナデ後、ヘラ磨き調整／外面：複合口縁部に指頭押捺、頸部にハケ目調整、胴部にハケ目調整後、ヘラ磨き調整	東隅の土器埋納土坑内	ほぼ完形
第32図4 図版13-3-4	甕	高 [17.2] 口16.6	口唇部外面にハケ状工具による刻み目が廻る／頸部は「く」字状に屈曲／膨らみを呈する胴部／胴部中位に最大径	胎土はにぶい橙色を基調	細礫・浅黄橙色粒子を含む	内面：ハケ目調整後、口縁部にハケナデ、胴部にヘラナデ／外面：頸部に指頭押捺後、口縁部にハケ目調整、胴部にハケ目調整後、粗いヘラ磨き調整	北西隅の覆土上層	口縁部～胴部破片
第32図5 図版13-3-5	甕	高 [7.5]	台付甕／胴部から脚台部の接合部は緩やかに弧を描く／脚台部は「ハ」字状を呈する	胎土は淡橙色を基調	砂粒・細礫を含む	内面：ヘラナデ後、ヘラ磨き調整／外面：ハケ目調整後、胴部、脚台部にヘラ磨き調整	中央の床面直上	胴部～脚台部破片
第32図6 図版14-1-6	壺	厚 0.4	胴部に上から７条一単位の櫛描横線文、円形刺突文、４条一単位の櫛描横線文／無文部に赤彩	胎土は橙色を基調	白色粒子・橙色粒子を含む	内面：指頭押捺、ヘラナデ／外面：ヘラ磨き調整	北西隅の覆土上層	胴部上半破片
第32図7 図版14-1-7	壺	厚 0.6	胴部に LR 単節斜縄文、S 字状の RL 自縄結節文を２段／外面無文部に赤彩	胎土は浅黄橙色を基調	砂粒・細礫を少量含む	内外面：ヘラ磨き調整	覆土	胴部上半破片
第32図8 図版14-1-8	壺	厚 0.6	胴部下部でやや内側に屈曲	胎土は明褐灰色を基調	細礫を少量含む／橙色粒子・灰白色粒子を多量に含む	内面：ハケ目調整後、ヘラナデ／外面：ヘラ磨き調整	中央付近の覆土上層	胴部破片
第32図9 図版14-1-9	甕	厚 0.6	口唇部外面にヘラ状工具による刻みが廻る／頸部が緩やかに弧を描く	胎土は浅黄橙色を基調	砂粒・細礫・橙色粒子を含む	内面：ヘラナデ／外面：ハケ目調整後、ヘラナデ	ぴから北側の覆土中層～床面直上	口縁部～胴部破片
第32図10 図版14-1-10	甕	厚 0.6	口唇部外面にヘラ状工具による刻みが廻る／口縁部がやや外反	胎土は灰白色を基調	砂粒・橙色粒子・灰白色粒子を含む	内外面：ヘラナデ	覆土	口縁部破片
第32図11 図版14-1-11	甕	厚 0.7	口縁部が外反	胎土はにぶい橙色を基調	砂粒・細礫を少量含む／橙色粒子を含む	内面：ハケ目調整／外面：ハケ目調整後、ヘラナデ	南西隅の覆土中層	口縁部～頸部破片
第32図12 図版14-1-12	甕	厚 0.4	口唇部にハケ状工具による面取り／口縁部が外反	胎土はにぶい褐色を基調	細礫・白色粒子・橙色粒子を含む	内面：ハケ目調整／外面：ハケ目調整後、口縁部にヘラナデ	北西隅の覆土上層	口縁部～頸部破片
第32図13 図版14-1-13	甕	厚 0.5	やや膨らみを呈する胴部	胎土はにぶい橙色を基調	細礫・白色粒子を少量含む	内面：ヘラナデ後、ヘラ磨き調整／外面：ハケ目調整	覆土	胴部破片
第32図14 図版14-1-14	甕	厚 0.3	膨らみを呈する胴部／庄内式か	胎土はにぶい黄橙色を基調	細礫を少量含む／雲母を多量に含む	内面：ヘラナデ／外面：タタキ成形	北側の覆土上層	胴部破片
第32図15 図版14-1-15	甕	厚 0.9	台付甕／接合部が屈曲する	胎土は橙色を基調	橙色粒子を多量に含む	内面：ヘラナデ／外面：ハケ目調整	東側の覆土中層	胴部破片
第32図16 図版14-1-16	甕	厚 0.5	台付甕／脚台部は「ハ」字状を呈する／底端部は平坦	胎土は浅黄橙色を基調	砂粒・細礫・白色粒子を含む	内外面：ヘラナデ	覆土	胴部破片

第18表　576号住居跡出土土器一覧

［覆　　土］41層に分層される。壁際から中央下層にかけてロームブロックが多く含まれる暗黄褐色土が主体で、中央上層は黒～暗茶褐色土が主体である。

［遺　　物］高坏・壷・甕形土器が出土した。特筆すべきは、住居東コーナーの貯蔵穴北側から埋納された広口壷形土器が検出されたことである。市内初の検出例である。

［時　　期］弥生時代後期後葉。

遺　　物（第32図、図版13－３、図版14－１、第18表）

１は高坏形土器、２・３・６～８は壷形土器、４・５・９～16は甕形土器である。14は外面にタタキ整形痕を持つ甕形土器の破片である。

577号住居跡

遺　　構（第33図）

［位　　置］調査区東端部。

［検出状況］56Ｙを切り、575Ｙに切られる。住居北側の大半は調査区外にあり、詳細不明である。

［構　　造］**平面形**：不明。**規模**：長軸不明／短軸不明／遺構確認面からの深さ20㎝前後。**壁**：70°の角度で立ち上がる。**主軸方位**：不明。**壁溝**：確認できなかった。**床面**：壁際を除き硬化した面が一部確認できた。**炉**：検出されなかった。**貯蔵穴**：検出されなかった。**柱穴**：検出されなかった。**赤色砂利層**：検出されなかった。**入口施設**：検出されなかった。**掘り方**：壁際に幅64～118㎝、深さ13～17㎝程度で溝状に掘られている。

［覆　　土］９層に分層される。

［遺　　物］高坏・壷・甕形土器の破片が出土した。

［時　　期］弥生時代後期末葉～古墳時代初頭。

遺　　物（第34図、図版14－２、第19表）

１は高坏形土器、２・３は壷形土器、４は甕形土器である。

578号住居跡

遺　　構（第35図）

［位　　置］調査区中央東側。

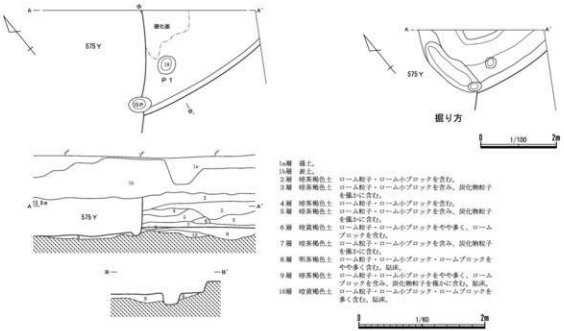
［検出状況］53Ｙに切られ、574Ｙを切る。住居跡北側のみの検出で、南側の大半は調査区外である。北東コーナー付近は55Ｙと重複しており、壁が確認できなかった。

［構　　造］**平面形**：方形。**規模**：長軸不明／短軸不明／遺構確認面からの深さ37～39㎝。**壁**：遺存状態が悪いため詳細は不明であるが、確認できた部分では70°程の角度で立ち上がる。**主軸方位**：N―70°―W。**壁溝**：確認できなかった。**床面**：中央北側で硬化した面が確認できた。**炉**：確認できなかった。**貯蔵穴**：北東コーナー付近で検出された。57×55㎝の円形を呈し、深さは41㎝。**柱穴**：本住居に伴うものは検出されなかった。**赤色砂利層**：確認できなかった。**入口施設**：確認できなかった。**掘り方**：住居内側に幅78～96㎝、深さ13～19㎝で円形の溝状に掘り込まれている。

［覆　　土］６層に分層された。

［遺　　物］壷・甕形土器の破片が出土した。

［時　　期］弥生時代後期末葉～古墳時代初頭。

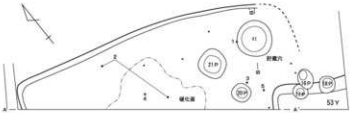


第33図　577号住居跡（１／60･1／100）

第34図　577号住居跡出土遺物(1／3)

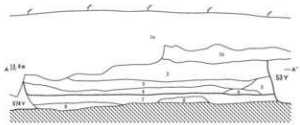
挿図番号 図版番号	器種	法量 (cm)	特　　徴	色　調	胎　土	調　　整	出土位置	遺存度
第34図1 図版14-2-1	高坏	厚 0.6	脚台部は「ハ」字状を呈する／脚台部上位に１孔あり／外面に赤彩	胎土はにぶい橙色を基調	橙色粒子を含む	内面：ハケ目調整／外面：ハケ目調整後、ヘラ磨き調整	貼床土	脚台部破片
第34図2 図版14-2-2	壺	厚 0.6	胴部に上から RL、LR、RL 単節斜縄文	胎土は橙色を基調	砂粒を少量含む／浅橙色粒子を含む	内面：横ナデ	覆土	胴部上半破片
第34図3 図版14-2-3	壺	厚 0.4	胴部に上から RL、LR 単節斜縄文／内外面に赤彩	胎土は赤褐色を基調	砂粒・細礫を少量含む／白色粒子・橙色粒子をやや多量に含む	内面：横ナデ	覆土	頸部破片
第34図4 図版14-2-4	甕	厚 0.4	やや膨らみを呈する胴部／頸部にかけて屈曲	胎土は灰褐色を基調	灰白色粒子・橙色粒子を含む	内面：頸部付近にハケ目調整、胴部にヘラナデ／外面：ハケ目調整	覆土	胴部上半破片

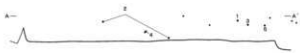
第19表　577号住居跡出土土器一覧



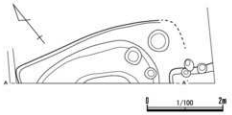
B－B'
1層　暗茶褐色土　ローム粒子・黒色土粒子を多く、ローム小ブロック・焼土粒子を含む。しまりやや強。
2層　ロームブロック。
3層　暗褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロック・焼土粒子・黒色土粒子を含む。しまり強。
4層　暗褐色土　ローム粒子を含み、焼土粒子・黒色土粒子を僅かに含む。しまりやや弱。
5層　暗茶褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・焼土粒子・黒色土粒子を僅かに含む。しまりやや弱。
6層　暗褐色土　ローム粒子をやや多く、ローム小ブロック・焼土粒子を含み、黒色土粒子を僅かに含む。しまり中。
7層　暗褐色土　ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり中。
8層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまり弱。
9層　暗褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
10層　暗黄褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを含み、焼土粒子・黒色土粒子を僅かに含む。しまりやや強。
11層　黄褐色土　ローム小ブロック・黒色土粒子を含み、焼土粒子を僅かに含む。しまり強。

0　1/60　2m



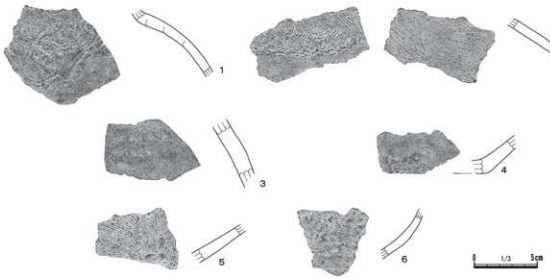


A－A'
1a層　表土及び現表。
1b層　黒色土　表土。
2層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。
3層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。
4層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化材を僅かに含む。
5層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。
6層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。
7層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。粘質。
8層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。粘質。



掘り方

第35図　578号住居跡（1／60・1／100）



第36図　578号住居跡出土遺物（1／3）

挿図番号 図版番号	器種	法量 (cm)	特　　徴	色　調	胎　土	調　　整	出土位置	遺存度
第36図1 図版14-3-1	壺	厚0.8	肩部に上から LR 単節斜縄文に S字状の RL端末結節文／頸部はゆるやかに屈曲 ／胴部が膨らみを呈する	胎土は橙色を基調	砂粒・細礫を多量に含む	内面：ヘラナデ／外面：ハケ目調整後、ヘラ磨き調整	東隅の覆土上層	胴部上半破片
第36図2 図版14-3-2	壺	厚0.6	胴部に上から RL、LR 単節斜縄文、Z字状の 廻 自縄結節文を２段／結節文以下に赤彩	胎土は浅黄橙色を基調	砂粒を少量含む／細礫を含む	内面：ヘラナデ／外面：ヘラ磨き調整	北側の覆土上層～下層	胴部上半破片
第36図3 図版14-3-3	壺	厚1.2	外面無文／外面に赤彩	胎土は灰白色を基調	砂粒・橙色粒子を含む	内面：ヘラナデ／外面：風化のため不明	東側隅の覆土上層	胴部上半破片
第36図4 図版14-3-4	壺	厚1.0	胴部は底部から開きながら立ち上がる／外面無文／内外面に赤彩	胎土はにぶい橙色を基調	砂粒・細礫を少量含む	内外面：ヘラ磨き調整	北側の覆土中層	胴部～底部破片
第36図5 図版14-3-5	甕	厚0.7	底部側に厚みを持つ／やや膨らみを呈する胴部	胎土は橙色を基調	細礫・橙色粒子を含む	内面：ヘラナデ／外面：ハケ目調整	東側の覆土中層	胴部下半破片
第36図6 図版14-3-6	甕	厚0.6	底部側にやや厚みを持つ／膨らみを呈する胴部	胎土はにぶい橙色を基調	細礫・白色粒子を少量含む	内外面：ヘラナデ	覆土	胴部下半破片

第20表　578号住居跡出土土器一覧

遺　物（第36図、図版14－３、第20表）

１～４は壺形土器、５・６は甕形土器である。

（３）土坑

694号土坑

遺　構（第37図）

［位　置］調査区中央やや南側。

［検出状況］570Y・574Y を切る。

［構　造］**平面形**：開口部はやや不整な隅丸長方形。坑底面は隅丸方形だが、中間でややくびれを呈する。**断面形**：皿状で底面はやや凸凹している。壁面は約75°で立ち上がる。**規模**：長軸径1.35m／短軸径0.65m／深さ38cm。**長軸方位**：N－60°－E。

［覆　土］５層に分層された。

［遺　物］甕形土器の破片が覆土上層から出土した。

［時　期］古墳時代前期。

遺　物（第38図１、図版14－４、第21表）

１は甕形土器の口縁部から頸部の破片である。内面頸部付近に指頭押捺痕が残る。

695号土坑

遺　構（第37図）

［位　置］調査区北西側。

［検出状況］南西側を571Y に、南側立ち上がり一部を573Y 貯蔵穴に切られる。

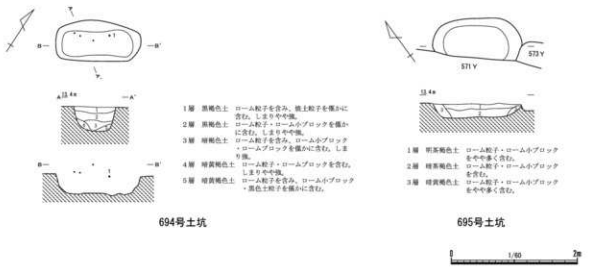
［構　造］**平面形**：一部を破壊されているが、楕円形を呈すると思われる。**断面形**：皿状で底面は平

坦である。壁面は40～60°で立ち上がる。**規模**：長軸径1.41ｍ／短軸径不明ｍ／深さ22㎝。**長軸方位**：Ｎ－48°－Ｗ。

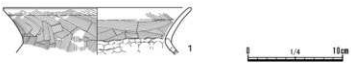
［覆　　土］３層に分層された。

［遺　　物］土器小破片２点が出土したが、図示できるものはなかった。

［時　　期］弥生時代後期～古墳時代初頭。



第37図　土坑（１／60）



第38図　694号土坑出土遺物（１／4）

挿図番号 図版番号	器種	法量 (cm)	特　　徴	色　調	胎　土	調　　整	出土位置	遺存度
第38図1 図版14-4-1	甕	高 [5.0] 口 (20.0)	口縁部が僅かに外反／頸部は「く」字状に屈曲	胎土は橙色を基調	橙色粒子・灰白色粒子を含む	内面：指頭押捺、ハケ目調整後、口唇部に横ナデ／外面：ハケ目調整後、口唇部に横ナデ	覆土上層	口縁部破片

第21表　694号土坑出土土器一覧

（4）ピット

今回の調査では、ピットが22本検出されているが、時期を特定することが困難であった。そのうち、５・７・18・22Ｐは、当該期の土器破片が出土したことから、当該期のものと取り扱った。出土遺物は小破片が多く、図示できた遺物は７Ｐ出土の１点のみであった。ここでは、詳細な記録を行った５・７号ピットについて記述する。なお、各ピットの属性については第23表に示した。

５号ピット

遺　　構（第39図）

［位　　置］調査区南端部。

［検出状況］574Y を切る。

［構　　造］平面形：円形。規模：径60㎝／深さ53㎝。

［覆　　土］７層に分層された。

［遺　　物］土器小破片４点出土したが、図示できるものはなかった。

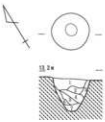
［時　　期］弥生時代後期末葉～古墳時代前期。

７号ピット

遺　　構（第39図）

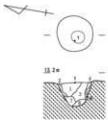
［位　　置］調査区西端部。

［検出状況］571Ｙを切る。



1層　暗褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロック・黒色土粒子を含み、焼土粒子を僅かに含む。しまりやや強。
2層　暗褐色土　ローム粒子を含み、焼土粒子・黒色土粒子を僅かに含む。しまり中。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまりやや強。
4層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまりやや強。2層より明色。
5層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、黒色土粒子を僅かに含む。しまり強。
6層　黄褐色土　ローム小ブロック・暗褐色土小ブロックを含む。しまり中。
7層　黄褐色土　ローム小ブロックを含み、暗褐色土を僅かに含む。しまり中。

５号ピット



1層　黒褐色土　ローム粒子を多く、焼土粒子・黒色土粒子を僅かに含む。しまりやや強。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。
3層　暗褐色土　ローム粒子を多く、小ブロックを含み、黒色粒子を僅かに含む。しまりやや強。
4層　暗褐色土　ローム粒子を含み、黒色土粒子を僅かに含む。しまりやや強。
5層　暗黄褐色土　ローム粒子を含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
6層　黄褐色土　暗褐色土ブロックを僅かに含む。しまりやや強。
7層　暗黄褐色土　ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまりやや強。
8層　黄褐色土　ローム小ブロックを含み、暗褐色土ブロックを僅かに含む。しまり強。

７号ピット

第39図　ピット（１／60）

第40図　７号ピット出土遺物（１／３）

挿図番号 図版番号	器種	法量 (cm)	特　　徴	色　調	胎　土	調　　整	出土位置	遺存度
第40図1 図版14･5･1	壺	厚0.6	複合口縁／複合部に RI 網目状撚糸文／口縁部は外傾	胎土は橙色を基調	細礫・橙色粒子・灰白色粒子を少量含む	内面：ハケ目調整後、ヘラ磨き調整／外面：ハケ目調整	覆土上層	口縁部破片

第22表　７号ピット出土土器一覧

［構　　造］平面形：円形。規模：径57㎝／深さ43㎝。

［覆　　土］８層に分層された。

［遺　　物］土器破片が１点出土した。

［時　　期］弥生時代後期末葉～古墳時代前期。

遺　　物（第40図１、図版14－５、第22表）

１は壺形土器の口縁部である。複合口縁を呈し、複合部に１段 RL の網目状撚糸文を施す。

第４節　その他の時代の遺構

ここでは、遺物が出土せず、覆土の観察からも時期を判断できなかった遺構を取り上げる。時期を特定することが困難であった遺構は、１～４、６、８、15～17、19～21号ピットの計12本である。第41図に詳細な記録を行ったピットの平面図を示し、ピットの属性は第23表に示した。

２号ピット

遺　　構（第41図）

［位　　置］調査区西端部。

［検出状況］571Y を切る。

［構　　造］平面形：隅丸方形。規模：長軸45㎝／短軸44㎝／深さ58㎝。

［覆　　土］６層に分層された。

３号ピット

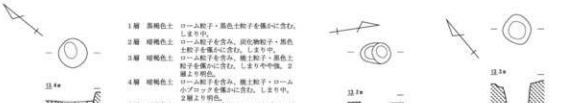
遺　　構（第41図）

［位　　置］調査区中央部。

［検出状況］570Y の床下から検出。弥生時代後期～古墳時代前期より以前か。

［構　　造］平面形：二本一対の重複形。規模：長軸48㎝／短軸33㎝／深さ18・23㎝。

［覆　　土］単層であった。



1層　黒褐色土　ローム粒子・黒色土粒子を微かに含む。しまりや。
2層　暗褐色土　ローム粒子を含み、炭化物粒子・黒色土粒子を微かに含む。しまりや。
3層　暗褐色土　ローム粒子を含み、焼土粒子・黒色土粒子を微かに含む。しまりやや強。２層より明色。
4層　暗褐色土　ローム粒子を含み、焼土粒子・ローム小ブロックを微かに含む。しまりや。２層より明色。
5層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・黒色土粒子を微かに含む。しまりや。
6層　暗褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を微かに含む。しまりや。
7層　571Y 壁崩落土。

２号ピット　**３号ピット**　**21号ピット**

第41図　ピット（１／60）

21号ピット

遺　構（第41図）

［位　　置］調査区東部。

遺構名	平面形	規模（cm）			覆　　土	出土遺物／備考	時　期
		長軸	短軸	深さ			
1P	楕円形	57	34	67	単層／ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む黒褐色土・しまり弱	なし／571Y を切る	不明
2P	隅丸方形	45	44	58	7層／第41図掲載	なし／571Y を切る	不明
3P	楕円形	48	33	18／23	単層／ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土・しまりやや強	なし／570Y と重複	不明
4P	楕円形	43	39	29	単層／ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む暗黄褐色土・しまり中	なし／570Y に切られる	不明
5P	円形	60	60	53	7層／第39図掲載	弥生土器４点（図示不可）／574Y を切る	弥生末～古墳前期
6P	隅丸方形	30	28	12	単層／ローム粒子、焼土粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土・しまり強	なし／574Y 炉を切る	不明
7P	円形	57	57	43	8層／第39図掲載	壺１点（第40図1）／571Y を切る	弥生末～古墳前期
8P	２本一対	54	不明	25	２層／１層：ローム粒子を含む暗褐色土・しまり中、２層：ローム ブロックを含む暗黄褐色土・しまり中	なし／571Y に切られる	不明
9P	円形	32	32	21	単層／ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む明茶褐色土・しまり強	縄文土器１点（図示不可）／571Y に切られる	縄文前期
10P	楕円形	64	52	27	7層／第9図掲載	なし／柱根	縄文
11P	円形	42	41	11	３層／１層：ローム粒子・焼土粒子を僅かに含む黒褐色土・しまりやや強、２層：ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土・しまり強、３層：ローム粒子・ローム ブロックを含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土・しまり強	なし／698D を切る、14P に切られる／底面に柱根	縄文
12P	円形	34	33	24	３層／１層：ローム粒子・炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土・しまり中、２層：ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む暗褐色土・しまり強、３層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、焼土粒子を僅かに含む暗黄褐色土・しまりやや強	縄文土器１点（第9図1）／183J を切る／底面に柱根	縄文前期
13P	楕円形	30	25	11	２層／１層：ローム粒子を含み、ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む黒褐色土・しまり強、２層：ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土・しまりやや強	なし／183J を切る／底面に柱根	縄文
14P	円形	28	27	23	単層／ローム粒子・焼土粒子を僅かに含む黒褐色土・しまりやや強	なし／698D・11P を切る／底面に柱根	縄文
15P	楕円形	37	24	30	単層／ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗茶褐色土・しまり中	なし／575Y・577Y を切る	不明
16P	楕円形	33	24	32	単層／ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む暗茶褐色土・しまり中	なし／53Y に切られる	不明
17P	円形	24	24	19	単層／ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む暗茶褐色土・しまり中	なし／53Y に切られる	不明
18P	隅丸方形	26	25	30	単層／ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む暗茶褐色土・しまり中	弥生土器１点（図示不可）／53Y に切られる	古墳前期
19P	楕円形？	不明	26	25	単層／ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む暗茶褐色土・しまり中	なし／55Y・P1に切られる	不明
20P	楕円形	31	28	23	単層／ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土・しまり中	なし／578Y と重複し、切り合いを確認できなかった	不明
21P	隅丸方形	44	44	46	２層／１層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、黒色土粒子を僅かに含む暗褐色土・しまり中、２層：ローム小ブロックを含み、黒色土粒子を僅かに含む黄褐色土・しまりやや強	なし／578Y と重複し、切り合いを確認できなかった	不明
22P	円形	44	47	103	６層／上層：ローム粒子を含み、ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む暗褐色土・しまり中、下層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗黄褐色土・しまり中	弥生土器３点（図示不可）／576Y を切る	弥生末～古墳前期

第23表　ピット一覧

［検出状況］578Y と重複。切り合い関係は確認できなかった。
［構　　造］平面形：隅丸方形。規模：長軸44㎝／短軸44㎝／深さ46㎝。
［覆　　土］２層に分層された。

第５節　遺構外出土遺物

ここでは、表土や撹乱から出土した遺物、そして遺構内であるが、明らかに他時期の混入品である遺物を前節までの各時代の出土遺物と区別し、遺構外出土遺物として扱う。

今回、遺構外出土遺物としては、縄文時代の石器、縄文時代の土器・土製品、弥生時代後期～古墳時代前期の土器に分類する。

（１）縄文時代の石器（第42図１～４、図版15－１～４、第24表）

１・２は石鏃である。３は黒曜石製の石錐である。４は凹石であり、表裏面に磨面が認められる。

（２）縄文時代の土器・土製品（第42図５～22、第43図23～47、図版15－５～47、第25・26表）

５・６は早期前半の撚糸文系土器の破片と考えられる。５は稲荷台式か。

７・８は早期後葉の条痕文系土器の破片である。７は貝殻条痕文。８は細い条線で横描きし、貼り付け粘土紐に半截竹管で刺突し結節浮線文状に施している。

９～13は前期前葉の黒浜式土器の破片である。

14は前期後葉の諸磯ｃ式土器で、半截竹管で縦に沈線を施す。

15・16は前期末葉の十三菩提式土器の破片と考えられる。15は三角印刻文、半截竹管で鋸歯状、レンズ状の結節沈線文を施す。17～20は前期末葉～中期初頭の土器片と考えられる。

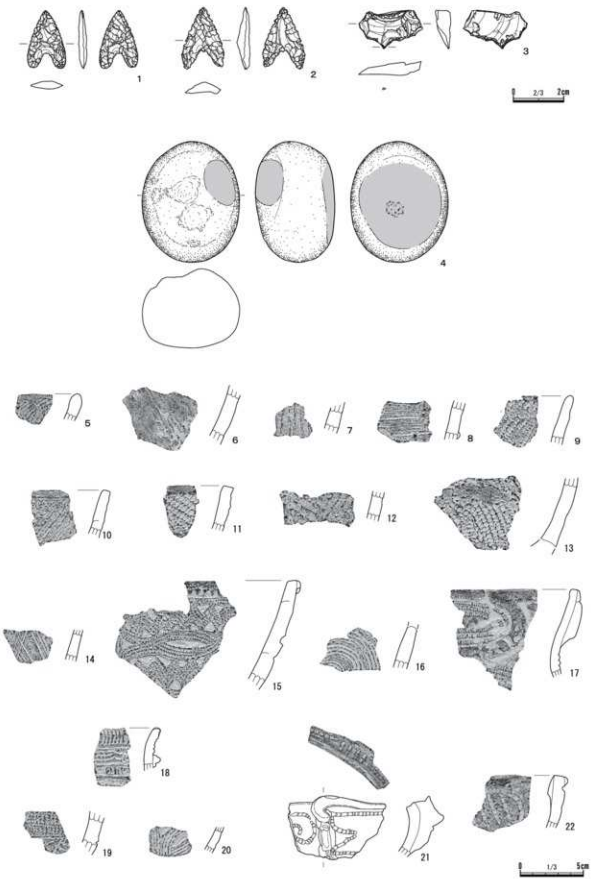
21～26は中期中葉の阿玉台式、27～32は中期中葉の勝坂式、33～42は中期後葉の加曽利Ｅ式、43は中期後葉の曽利式、44・45は中期の土器片である。

46は後期前葉の堀之内式土器と考えられる。

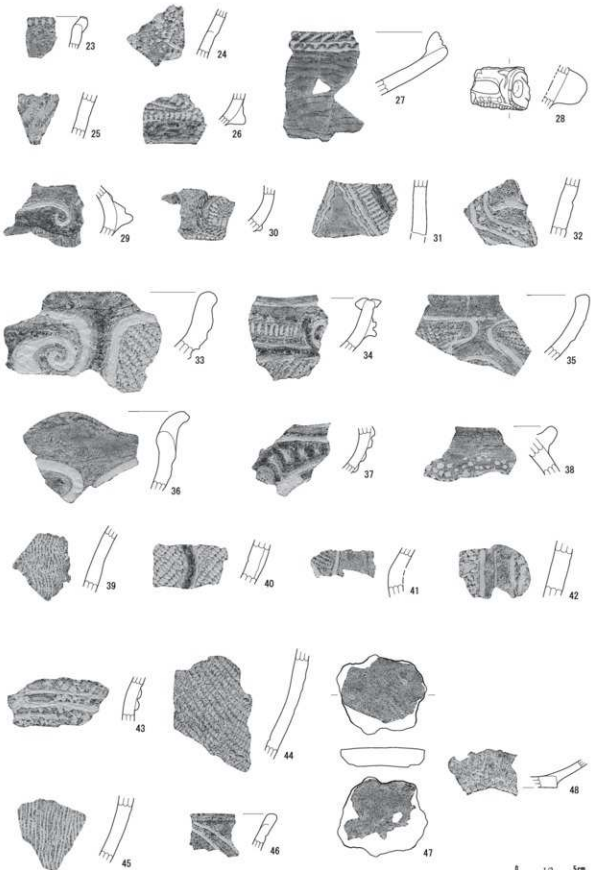
47は土器片錘である。裏面左側縁に抉部が見られる。

（３）弥生時代後期～古墳時代前期の土器（第43図48、図版15－48、第25表）

48は壺形土器の底部片である。



第42図　遺構外出土遺物１（2／3・1／3）



第43図　遺構外出土遺物２（1／3）

挿図番号 図版番号	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土遺構 出土位置
第42図1 図版15-1	石鏃	黒曜石	23.0	15.3	3.3	1.0	左右対称の凹基無茎形／完形／正面中央に素材面／先端から右側縁にかけて樋状の剥離痕（衝撃剥離痕）	570Y 覆土
第42図2 図版15-2	石鏃	チャート	24.5	16.9	5.2	1.5	左右対称の凹基無茎形／完形／裏面中央に素材面／両側縁が鋸歯状を呈する	576Y 覆土
第42図3 図版15-3	石鏃	黒曜石	15.3	25.4	6.1	1.8	微細な剥離によって雑形を整形／脚い雑部／不定形剥片を素材とする／縁辺に微細剥離	576Y 覆土
第42図4 図版15-4	凹石	閃緑岩	96.0	77.5	63.1	707.0	正面に凹み痕が２ヵ所／両面に磨り面／裏面に小さな敲打痕	575Y 覆土

（単位：mm, g）

第24表　遺構外出土石器一覧

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式	出土遺構 出土位置
第42図5 図版15-5	深鉢	口縁部 破片	厚0.8	口唇部が内側に肥厚／平口縁	Lr 無節斜縄文／口唇部にナデ調整	橙／砂粒やや多量、細礫中量	縄文早期前葉 撚糸文系	55Y 覆土
第42図6 図版15-6	深鉢	胴部 破片	厚1.1	やや外傾	斜めに RI 撚糸文／内面に縦方向のナデ調整	赤褐／砂粒中量、細礫少量	縄文早期前葉 撚糸文系	578Y 覆土
第42図7 図版15-7	深鉢	胴部 破片	厚0.9	やや外傾	外面に縦方向の条痕文	明赤褐／砂粒を中量、繊維中量	縄文早期後葉 条痕文系	570Y 覆土
第42図8 図版15-8	深鉢	胴部 破片	厚0.9	僅かに外傾	外面に横方向の集合沈線文／粘土紐に半截竹管状工具で結節を加えた結節浮線文	赤褐／砂粒中量、細礫少量	縄文早期後葉 条痕文系？	571Y 覆土
第42図9 図版15-9	深鉢	口縁部 破片	厚0.7	やや外傾／平口縁	LR 単節斜縄文／内面に横方向のナデ調整	橙／砂粒・細礫中量、繊維多量	縄文前期中葉 黒浜式	578Y 貯蔵穴覆土
第42図10 図版15-10	深鉢	口縁部 破片	厚0.8	やや外傾／平口縁	Lr 無節斜縄文／内面に横方向の磨き調整／口唇部は面取りされ平坦になる	にぶい褐／砂粒少量、繊維中量	縄文前期中葉 黒浜式	574Y 覆土
第42図11 図版15-11	深鉢	口縁 破片	厚1.0	やや外傾／平口縁	LR 単節斜縄文／内面に横方向のナデ調整／口唇部は面取りされ平坦になる	にぶい橙／砂粒中量、繊維多量	縄文前期中葉 黒浜式	570Y 覆土
第42図12 図版15-12	深鉢	胴部 破片	厚0.9	僅かに外傾	無節 Lr と無節 RI による羽状縄文／内面に縦方向のナデ調整	にぶい橙／砂粒中量、繊維多量	縄文前期中葉 黒浜式	574Y 覆土
第42図13 図版15-13	深鉢	胴部 破片	厚1.2	やや外傾	RL 単節斜縄文／地文施文後、外面に横方向のナデ調整／内面に縦方向のナデ調整	淺黄橙／砂粒中量、繊維多量	縄文前期中葉 黒浜式	576Y 覆土
第42図14 図版15-14	深鉢	胴部 破片	厚0.7	僅かに外傾	外面に縦方向の集合沈線文／内面ナデ調整	橙／砂粒やや多量、細礫中量	縄文前期後葉 諸磯ｃ式	570Y 覆土
第42図15 図版15-15	深鉢	口縁部 破片	厚1.0	やや外傾／平口縁	口唇部に結節沈線を施した隆帯貼り付け／鋸歯状・弧状に結節沈線文／三角印刻文、レンズ状の印刻文／内面に横方向のナデ調整	橙／砂粒・細礫多量、片岩多量、雲母中量	縄文前期末葉 十三菩提式	55Y 覆土
第42図16 図版15-16	深鉢	胴部 破片	厚0.9	やや外傾	半截竹管による同心円文／内面に横方向のナデ調整	褐／砂粒・雲母少量、細礫中量	縄文前期末葉 十三菩提式	遺構外
第42図17 図版15-17	深鉢	口縁部 破片	厚0.7	口縁部外傾／平口縁／胴部でくびれる	口唇部に隆帯貼り付け／隆帯で楕円形区画文／区画内に三重の結節浮線文、鋸歯状貼付文／区画文下に横２条の結節浮線文	にぶい橙／砂粒中量、細礫少量	縄文前期末～ 中期初頭？	570Y・ 574Y 覆土
第42図18 図版15-18	深鉢	口縁部 破片	厚0.6	やや外反	口唇上端に刻み／口縁部外面に連続刺突文／半截竹管による山形文／隆帯に結節浮線文	にぶい橙／砂粒中量、細礫少量	縄文前期末～ 中期初頭？	576Y 覆土
第42図19 図版15-19	深鉢	胴部 破片	厚0.6	僅かに外傾	３本一対の半截竹管の背面による連続押引文／沈線文	灰褐／砂粒やや多量、雲母中量	縄文前期末～ 中期初頭？	575Y 覆土
第42図20 図版15-20	深鉢	胴部 破片	厚0.5	僅かに外傾	沈線による横線文、渦巻文か／印刻文	にぶい橙／砂粒・雲母中量	縄文前期末～ 中期初頭？	570Y 覆土
第42図21 図版15-21	深鉢	口縁部 破片	厚0.7	やや内湾／平口縁	口縁部に扁状小把手／口唇部に結節沈線文／隆帯による区画／隆帯脇に結節沈線が沿う／区画内に渦巻状、横「V」字状の結節沈線文	にぶい黄橙／砂粒・細礫中量、雲母多量	縄文中期中葉 阿玉台Ⅰａ式	575Y 覆土
第42図22 図版15-22	深鉢	口縁部 破片	厚1.1	平口縁／口縁部内側が肥厚	角押による横円形区画文／区画文内に角押文が３列並走／内面に横方向のナデ調整	橙／砂粒・細礫中量、雲母多量	縄文中期中葉 阿玉台式	遺構外
第43図23 図版15-23	深鉢	口縁部 破片	厚0.5	僅かに外傾／屈曲あり	口唇部に棒状工具による刻み目／内面にナデ調整	にぶい橙／砂粒中量、雲母多量	縄文中期中葉 阿玉台式	570Y 覆土

第25表　遺構外出土土器一覧（１）

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式	出土遺構 出土位置
第43図24 図版15-24	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	外傾	山形状に角押文／内面に縦ナデ調整	赤褐／砂粒・細礫・雲母少量	縄文中期中葉 阿玉台式	575Y 覆土
第43図25 図版15-25	深鉢	胴部 破片	厚 0.7	やや外傾	ヒダ状圧痕	橙／砂粒多量、雲母少量	縄文中期中葉 阿玉台式	570Y 覆土
第43図26 図版15-26	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	湾曲	断面三角形隆帯で区画／区画脇に角押文列・押引沈線文／内面に横ナデ調整	暗褐／細礫中量、雲母多量	縄文中期中葉 阿玉台式	571Y 覆土
第43図27 図版15-27	浅鉢	口縁部 破片	厚 1.0	口縁部から胴部にかけて屈曲	口縁部に斜位の刺み目／上下沈線区画内に交互刺突文／内外面を削り・磨き調整	暗褐／砂粒中量	縄文中期中葉 勝坂式	遺構外
第43図28 図版15-28	深鉢	胴部 破片	厚 0.9	やや外傾	唐鍬状突起／隆帯・突起上に刺み目／隆帯脇に結節沈線文が沿う	暗褐／砂粒中量、細礫少量	縄文中期中葉 勝坂式	570Y 覆土
第43図29 図版15-29	深鉢	胴部 破片	厚 0.9	強く内湾	沈線による渦巻文で加飾された山形の突起／内面に横方向の磨き調整	橙／砂粒中量、細礫少量	縄文中期中葉 勝坂式	575Y 覆土
第43図30 図版15-30	深鉢	胴部 破片	厚 0.8	内湾	RL 加飾隆帯による楕円形区画文／区画内の隆帯脇に結節沈線文・RL 単節斜縄文	赤褐／砂粒・細礫中量	縄文中期中葉 勝坂式	578Y 覆土
第43図31 図版15-31	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	僅かに外傾	隆帯脇に幅広の結節沈線文、幅狭の結節沈線文、山形状の沈線文	赤褐／砂粒・細礫中量	縄文中期中葉 勝坂式	575Y 覆土
第43図32 図版15-32	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	やや外傾	浅めの沈線文／沈線間に円形刺突文	褐／砂粒・細礫多量	縄文中期中葉 勝坂式	22P 覆土
第43図33 図版15-33	深鉢	口縁部 破片	厚 1.2	やや外傾／平口縁／やや内湾曲	口縁部に隆帯による区画文／区画内に渦巻状沈線文と RL 単節斜縄文を横位施文	黄橙／砂粒・橙色粒子少量	縄文中期後葉 加曽利Ｅ Ⅱ式	570Y 覆土
第43図34 図版15-34	深鉢	口縁部 破片	厚 1.0	平口縁／口唇部内側に隆帯	口唇に沈線文／隆帯による区画文・渦巻文／区画内に縦位沈線文／ RL 単節斜縄文	黄橙／砂粒中量、細礫少量	縄文中期後葉 加曽利Ｅ Ⅱ式	578Y 覆土
第43図35 図版15-35	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	やや外傾／平口縁／やや内湾曲	沈線で区画後、LR 単節斜縄文を充填施文／内面を横方向に磨き調整	黄橙／砂粒少量、細礫中量	縄文中期後葉 加曽利Ｅ Ⅳ式	570Y 覆土
第43図36 図版15-36	深鉢	口縁部 破片	厚 1.0	波状口縁／波状部で外反	楕円形の沈線区画文／内面を横方向に磨き調整	黄橙／砂粒・細礫・雲母少量	縄文中期後葉 加曽利Ｅ Ⅱ式	570Y 覆土
第43図37 図版15-37	深鉢	胴部 破片	厚 0.7	やや湾曲しながら立ち上がる	隆帯による梯子状文／隆帯上位に沈線文／内面に横方向のナデ調整	にぶい橙／砂粒中量、細礫少量	縄文中期後葉 加曽利Ｅ Ⅰ式	575Y 覆土
第43図38 図版15-38	浅鉢	胴部 破片	厚 1.2	内傾	胴部に円形の刺突文／内外面に磨き調整	黄橙／砂粒中量、細礫少量	縄文中期後葉 加曽利Ｅ Ⅱ式	578Y 覆土
第43図39 図版15-39	深鉢	胴部 破片	厚 0.9	やや外傾／僅かに屈曲あり	縦位の集合沈線文	浅黄／砂粒・細礫中量	縄文中期後葉 加曽利Ｅ Ⅱ式	571Y 覆土
第43図40 図版15-40	深鉢	胴部 破片	厚 0.9	やや外傾	地文に LR 単節斜縄文／曲線状の懸垂文／内面に縦方向の磨き調整	浅黄橙／砂粒・細礫中量	縄文中期後葉 加曽利Ｅ Ⅱ式	570Y 覆土
第43図41 図版15-41	深鉢	胴部 破片	厚 0.9	屈曲あり	LR 単節の磨消縄文／沈線で文様区画／内面・破断面に種子と思われる圧痕あり	暗褐／砂粒・細礫・雲母少量	縄文中期後葉 加曽利Ｅ Ⅳ式	570Y 覆土
第43図42 図版15-42	深鉢	胴部 破片	厚 1.2	やや外傾	地文に LR 単節斜縄文／磨消懸垂文／内面に縦方向の磨き調整	浅黄橙／砂粒・橙色粒子中量	縄文中期後葉 加曽利Ｅ Ⅱ式	試掘トレンチ 覆土
第43図43 図版15-43	深鉢	胴部 破片	厚 0.8	僅かに外反して立ち上がる	横位隆帯を二重に貼り付け／隆帯脇に沈線文／横位隆帯下に縦位隆帯二本一対を貼り付け／内面に横方向の磨き調整	浅黄橙／砂粒・雲母中量、細礫少量	縄文中期後葉 曽利式	570Y 覆土
第43図44 図版15-44	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	やや外傾	地文に LR 単節斜縄文／内面に横方向のナデ調整	にぶい黄橙／砂粒・細礫少量	縄文中期	576Y 覆土
第43図45 図版15-45	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	やや外傾	地文に撚糸 R を縦方向に施文	赤褐／砂粒中量、細礫少量	縄文中期	570Y 覆土
第43図46 図版15-46	深鉢	口縁部 破片	厚 0.8	やや外傾／平口縁	斜向文／内面に横方向のナデ調整	にぶい黄橙／砂粒やや多量	縄文後期前葉 堀之内式	571Y 覆土
第43図48 図版15-48	壷	底部 破片	厚 0.5	平底から浅く立ち上がる	内面：横方向のヘラナデ／外面：縦方向のハケ目調整	にぶい橙／砂粒・細礫少量、橙色粒子中量	弥生終末～古墳前期	遺構外

第25表　遺構外出土土器一覧（２）

挿図番号 図版番号	種別	遺存状態	長さ／幅／厚み (cm)	重量 (g)	特徴	胎土	時期 型式	出土遺構 出土位置
第43 図47 図版15-47	土器片錘	完形	7.2／6.5／1.4	68	不整形な四角形／抉部１ヶ所／周縁部下端の摩耗は顕著／無文	褐／砂粒多量、雲母中量	縄文中期中葉 勝坂式	570Y 覆土

第26表　遺構外出土土製品一覧

第３章　西原大塚遺跡第182地点の調査

第１節　遺跡の概要

（１）立地と環境

第２章　参照。

（２）発掘調査の経過

確認調査は、平成24年７月13日に実施した。調査区西側は西原地区特定区画整理事業（以下、区画整理）に伴う発掘調査を実施した西原大塚遺跡第17地点に該当し、既に発掘調査が完了しているため、調査区西側に２本のトレンチを設定し、バックホーを使用し表土を剝ぎ、同時に遺構確認作業を行った。その結果、縄文時代の住居跡１軒、弥生時代の住居跡１軒、古墳時代後期の住居跡１軒を確認した。そのため、ただちに依頼者に調査の結果を報告し、保存対策について検討を依頼したが、宅地部分については、十分な保護層を確保できることから、盛土保存を適用することができたが、駐車場部分と擁壁部分については、道路面以下まで掘削を行う計画であることから、保護層30㎝以上を確保することは難しく、盛土保存は不可能であるという回答を得た。そのため、平成24年10月３日から、駐車場部分・擁壁部分（面積52.76㎡）の発掘調査を実施することに決定した。

以下、発掘調査の大まかな経過を説明することにし、各遺構の精査経過については、第27表の発掘調査工程表に示した。

10月３日　重機による表土剝ぎ作業を開始する。調査区内は雑草が生い茂っているため、まず重機により雑草除去作業を行う。その後、１区・２区・３区の順で表土剝ぎ作業を行い、本日中に作業を完了した。残土については、今回盛土保存となった宅地部分を置き場とした。

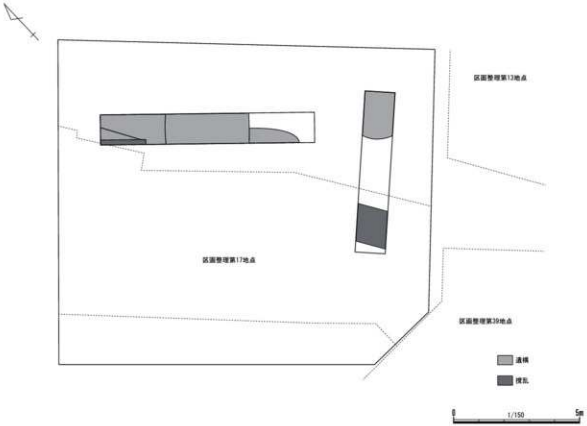
９日　人員導入による発掘作業を開始する。調査前の準備として、器材をトラックに積載し、現地に搬入する。その後、調査区１～３区の整備と細部の遺構確認作業を行い、遺構検出の写真撮影を行った。調査区内には１区から弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡１軒（591Ｙ）、２区から区画整理第39地点で調査された縄文時代の住居跡１軒（20Ｊ）の北半部、３区から区画整理第17地点で調査された弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡１軒（109Ｙ）の西半部が確認できた。

本日より、591Ｙの精査を開始する。

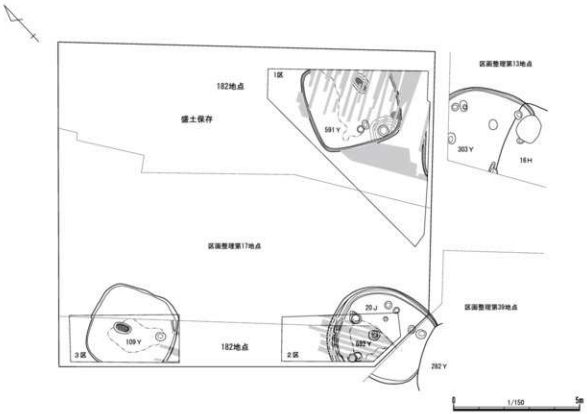
10～15日　591Ｙの精査を行う。11日からは弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡（109Ｙ）の精査を開始する。591Ｙは住居南コーナーから凸帯をもつ貯蔵穴と祭壇状遺構と思われる赤色砂利層が検出された。109Ｙからは籠目痕をもつ壺形土器（第49図１）が出土した。

16～20日　109Ｙ・591Ｙの精査を行う。109Ｙは遺物出土状態の写真撮影後遺物の取り上げを行った。17日からは弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡（592Ｙ）の精査を開始する。592Ｙは20Ｊの内側に入れ子状に重なった状態で構築されている住居跡である。

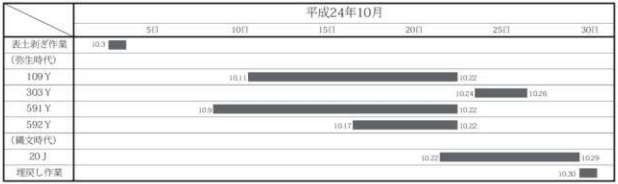
22～25日　109Ｙ・591Ｙ・592Ｙの精査を行う。22日からは20Ｊの精査を開始する。20Ｊの住居中央付近から埋甕炉が検出された。24日からは区画整理第13地点で調査された弥生時



第44図　確認調査時の遺構分布図（１／150）



第45図　遺構分布図（１／150）



第27表　西原大塚遺跡第182地点の発掘調査工程表

代後期～古墳時代前期の住居跡１軒（303Ｙ）の北側端部分が新たに確認できたため、精査を開始した。109Ｙ・591Ｙ・592Ｙは22日、遺構完掘の写真撮影を終了後、掘り方精査を終了、精査を完了した。

26日　20Ｊは炉体土器の精査を開始する。半截し、断面の写真撮影及び実測を行う。303Ｙは掘り方断面の写真撮影を行い、精査を終了した。

27日　20Ｊの炉体土器の精査の続きを行う。断面の写真撮影及び断面図の実測を完了し、土器の取り上げを行う。本日をもって20Ｊの精査を完了し、すべての調査を終了する。

29日　埋戻し作業を開始する。午前中で作業を完了する。

第２節　検出された遺構・遺物

（1）概　要

本地点の調査では、縄文時代の住居跡１軒（20Ｊ）、弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡４軒（109・303・591・592Ｙ）が検出された。

縄文時代の住居跡（20Ｊ）は、過去に西原特定土地区画整理事業（以下、区画整理）に伴う発掘調査を実施した第17・39地点で一部調査されているものである。今回の調査では、２区で20Ｊの住居北西端が検出された。時期は出土土器から、縄文時代中期中葉の勝坂式期と考えられる。弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡４軒のうち２軒（109・303Ｙ）についても、区画整理第17・39地点で調査されている。そのため、本報告では、20Ｊ、109・303Ｙについては、資料を統合し、遺構・遺物について改めて掲載することとした。

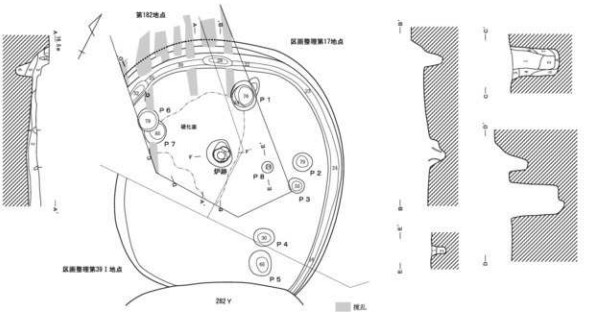
（2）住居跡

20号住居跡

遺　構（第46図）

［位　置］２区。

［検出状況］592Ｙに切られる。なお、区画整理第39地点では592Ｙは検出されていない。また、北西側は耕作によって攪乱されている。



A－A'
1層　撹乱。
2層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
3層　暗褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
4層　暗褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり非常に強。物脆かない。
5層　灰黄褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
6層　にぶい黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強。

E－E'　P 8
1層　にぶい黄褐色土　ロームブロックを多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり非常に強。
2層　にぶい黄褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む。しまりやや強。

C－C'　P 6
1層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまりやや強。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり甲。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまりやや強。
4層　灰黄褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり強。
5層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりやや強。
6層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまりやや強。
7層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまりやや強。
8層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり非常に強。

F－F'
1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまりやや強。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
3層　暗褐色土　ローム粒子・焼土粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
4層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりやや強。

炉跡

1/60　2m　　1/20　1m

第46図　20号住居跡・炉跡（１／60・１／30）

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器　形・形　態	文　様・特　徴	胎　土	時　期 型　式	出土位置
第47図１ 図版19-1-1	深鉢	口縁部下位～胴部下位	高[22.9] 径[27.6] 厚 1.1	直線的に立ち上がる胴部／頸部で外反して広がる／口縁部で僅かに内湾／キャリパー形	撚糸Ｌを地文として縦位施文／地文施文後、２本一対の刻み目のある垂下隆帯を５単位に貼り付け、頸部下位に刻み目のある隆帯を横位に貼り付け、波状沈線を施す／胴部中位に剣先十字文、横「U」字文、舌状文／横「U」字文は隆沈線／貼り付けた隆線脇をナデ整形	橙／砂粒・雲母中量	中期中葉～後葉 勝坂３式か？	炉体
第47図２ 図版19-1-2	深鉢	胴部中位 破片	厚 1.1	僅かに内湾して立ち上がる	胴部に隆帯で区画／隆帯は断面台形で押圧文が施される／隆帯脇に沈線が沿う／区画内には刻み隆帯による円形文、隆帯文、結節沈線文／円形文中央に刺突が施され、隆帯上に瘤状の突起／胴部下半に RL 単節縄文の縦位施文	黄橙／砂粒中量	中期中葉 勝坂３式	炉跡西脇の覆土下層・区画整理第17地点
第47図３ 図版19-1-3	深鉢	胴部中位 破片	厚 0.9	ほぼ直立	胴部上半と下半を交互刺突のある断面台形の隆帯で区画／隆帯脇に沈線が沿う／胴部下半に RL 単節斜縄文を縦位施文	褐／砂粒中量	中期中葉 勝坂３式	炉跡東脇の床面直上
第47図４ 図版19-1-4	深鉢	胴部中位 破片	厚 0.9	僅かに外傾	胴部に断面三角形状の平行する多条隆帯を縦位に貼り付け	橙／砂粒・細礫少量	中期中葉 勝坂３式	覆土
第47図５ 図版19-1-5	深鉢	胴部下位 破片	厚 1.4	胴部上位で僅かに外反	撚糸Ｒで縦位に施文	橙／砂粒・細礫中量	中期後葉 加曽利Ｅ１式	７Ｐ上の覆土下層
第47図６ 図版19-1-6	深鉢	胴部下位 破片	厚 0.8	僅かに外傾	地文に RL 単節斜縄文を横位施文／内面に縦方向の磨き調整	明赤褐／砂粒・細礫少量	中期後葉 加曽利Ｅ１式	炉跡上
第47図７ 図版19-1-7	深鉢	胴部下位 破片	厚 0.9	底部に向かって屈曲／僅かに外傾	地文に RL 単節斜縄文を縦位施文	明赤褐／砂粒・小礫・雲母中量	中期中葉 勝坂３式	覆土
第47図８ 図版19-1-8	浅鉢	口縁部 破片	厚 0.9	内湾	背の低い隆帯貼り付け／口縁下位に磨き調整	橙／砂粒・細礫中量	中期中葉 勝坂３式	中央北の床面上

第28表　20号住居跡出土土器一覧

挿図番号 図版番号	器 種	石 材	長さ	幅	厚さ	重量	特　徴	出土位置
第47図9 図版19-1-9	打製石斧	緑色片岩	[95.0]	50.6	9.6	79.4	分銅形／基部を一部欠損／刃部は偏刃／横長剥片素材／両側縁に敲打整形痕あり	区画整理第17地点
第47図10 図版19-1-10	打製石斧	砂岩	[82.4]	63.4	17.8	119.5	短冊形／器体上半を欠損／刃部は円刃／縦長剥片素材／正面に原礫面が残る	区画整理第17地点
第47図11 図版19-1-11	打製石斧	砂岩	[85.2]	25.4	12.3	37.0	細身の短冊形／基部を一部欠損／刃部は円刃／横長剥片素材／両側縁に敲打整形痕あり	区画整理第17地点
第47図12 図版19-1-12	削器	ホルンフェルス	103.0	80.3	16.1	136.1	左側縁に刃部／刃部剥離面は階段状剥離／幅広の大型剥片を素材／打面部を折損	区画整理第17地点
第47図13 図版19-1-13	石核	黒曜石	25.3	29.5	18.6	13.3	正面：側縁から器体内部に向かって不定形剥片を作出／裏面：器体中央の稜上から剥離を施し、不定形剥片を作出／正面一部に原礫面あり	区画整理第17地点

（単位：mm, g）

第29表　20号住居跡出土石器一覧

［構　　造］平面形：楕円形。規模：長軸4.15m／短軸3.55m／遺構確認面からの深さ19～22㎝。壁：55°程の角度で立ち上がる。主軸方位：N―22°―W。壁溝：上幅20～23㎝・下幅７～10㎝・深さ16～32㎝。床面：住居中央の炉跡周辺に硬化した面が確認できた。炉：埋甕炉である。炉中央に炉体土器（第47図１）が埋設されていた。掘り込みの規模は42×40㎝で、平面形は楕円形を呈する。覆土は４層に分層される。柱穴：Ｐ１～Ｐ８が本住居に伴うものとして扱った。深さは24～85㎝であるが、特に壁際に配された深さ65～85㎝のものが主柱穴と思われる。

［覆　　土］５層に分層される。

［遺　　物］土器・石器が出土した。第47図１は炉体土器である。

［時　　期］縄文時代中期中葉（勝坂３式期）。

遺　　物（第47図、図版19－１、第28 表）

［土　　器］（第47 図１～８、図版19－１－１～８、第28 表）

１～４・７・８は中期中葉の勝坂３式土器、５・６は中期後葉の加曽利ＥⅠ式土器である。

［石　　器］（第47 図９～13、図版19－１－９～13、第29 表）

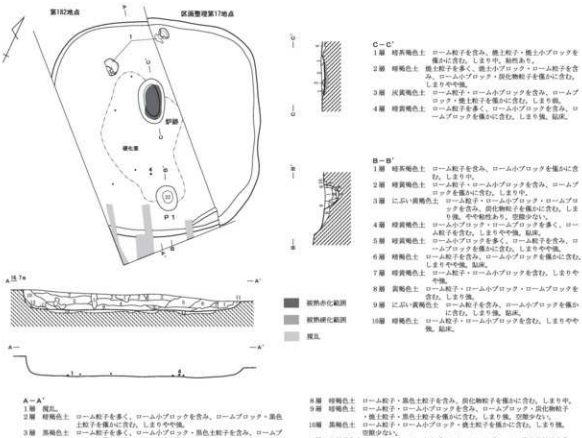
９～11は打製石斧、12は削器、13は石核である。

109号住居跡

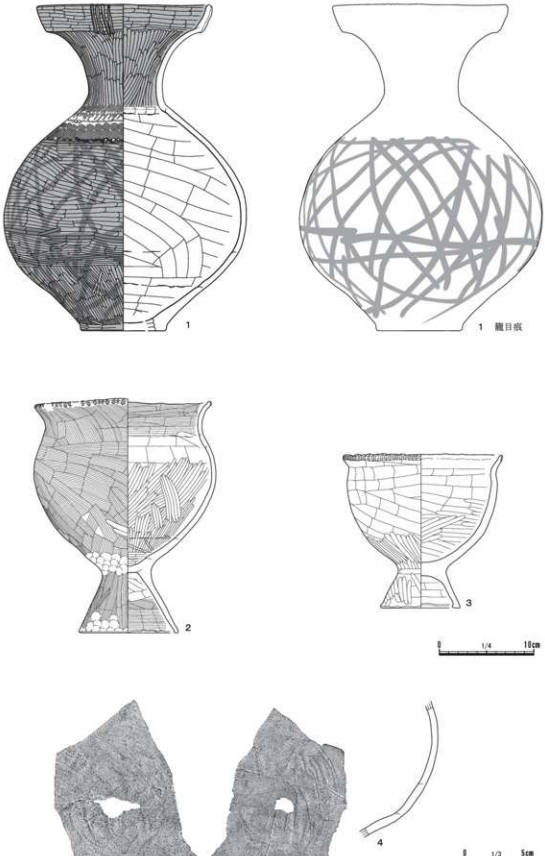
遺　　構（第48図）

［位　　置］3区。

［検出状況］区画整理第17地点で住居北東側は調査済みである。今回の調査では、住居西側が検出されている。南西コーナー部分は区画整理第39地点では、検出されていない。



第48図　109号住居跡（１／60）



第49図　109号住居跡出土遺物(1／4・1／3)

挿図番号 図版番号	器種	法量 (cm)	特　　徴	色　調	胎　土	調　　整	出土位置	遺存度
第49図1 図版19-2-1	壷	高 34.6 口18.4 底 9.0	受口状口縁／口縁部に４本一単位の棒状貼付文／胴部文様帯は上から LR 単節斜縄文を２段、S 字状の自縄結節文、RL 無節斜縄文を２段／縄文帯の境目と下端に３個一単位の円形浮文／内面口縁部～頸部、外面に赤彩／胴部に籠目痕	胎土は橙色を基調	細礫・白色粒子・橙色粒子を含む	内面：口縁部・頸部にヘラ磨き調整、胴部にヘラナデ／外面：ヘラ磨き調整、底部に わずかにハケ目調整が残る	西コーナー床面上と区画整理第17地点の北西壁付近	50%
第49図2 図版19-2-2	甕	高 24.7 口18.7 底10.6	台付甕／口唇部がハケ状工具で面取りされ、口唇部外面にハケ状工具による刻みが廻る／頸部はゆるやかに屈曲／膨らみを呈する胴部／胴部上位に最大径／脚台部は「ハ」字状／底端部は平坦で粘土が内側に少しはみ出る	胎土は橙色を基調	砂粒を少量含む／橙色粒子をやや多量に含む	内面：口縁部にハケ目調整、胴部にヘラナデ、一部にヘラ磨き調整、脚台部にハケ目調整後、ヘラナデ／外面：ハケ目調整、指頭押捺痕が胴部下部、脚台部下部に認められる	区画整理第17地点の北西壁付近の床面上	完形
第49図3 図版19-2-3	甕	高 16.2 口16.7 底 8.2	台付甕／口唇部外面にヘラ状工具による刻みが廻る／口縁部は短く、僅かに内湾しながら立ち上がる／口縁部に最大径／頸部は緩やかに屈曲／膨らみを呈する胴部／脚台部は「ハ」字状／底端部は平坦で、粘土が内側にはみ出る	胎土は淡黄橙色を基調	細礫・白色粒子・橙色粒子を含む	内面：口縁部に横ナデ、胴部にハケナデ、一部に粗いヘラ磨き調整、脚台部にヘラナデ／外面：口縁部に横ナデ、胴部にヘラナデ、一部に粗いヘラ磨き調整、脚台部にヘラナデ、一部に粗いヘラ磨き調整	区画整理第17地点の北西壁付近の床面上	完形
第49図4 図版19-2-4	甕	厚 0.5	膨らみを呈する胴部／胴部下位がやや内湾する	胎土は淡ぶい橙色を基調	砂粒・白色粒子・赤褐色粒子を含む	内外面：ハケ目調整	中央南側の覆土下層	胴部下半破片

第30表　109号住居跡出土土器一覧

［構　　造］平面形：隅丸長方形。規模：長軸3.42m／短軸3.26m／遺構確認面からの深さ10～28㎝。壁：70°の角度で立ち上がる。南東壁際が一部、段差状に緩やかに立ち上がっている。主軸方位：N―25°―W。壁溝：確認できなかった。床面：入口梯子穴（Ｐ１）から炉跡に通じる約１m前後の幅で硬化した面が確認できた。炉：北壁から95㎝程離れた、住居中央からやや北壁寄りに位置する。71×41㎝の楕円形を呈する地床炉で、掘り込みは11㎝、厚さ３㎝程に被熱赤化していた。貯蔵穴：検出されなかった。柱穴：主柱穴は検出されなかった。赤色砂利層：検出されなかった。入口施設：南壁近くのＰ１が入口梯子穴と思われる。39×32㎝の楕円形を呈し、深さは23㎝である。掘り方：壁際を残し、中央付近を５㎝程度の深さで掘り込んでいる。

［覆　　土］12層に分層される。

［遺　　物］壷・甕形土器が出土した。１は区画整理第17地点で出土した口縁部と今回調査で出土した胴部が接合した壷形土器である。

［時　　期］弥生時代後期後葉。

遺　物（第49図、図版19－２、第30表）

１は壷形土器、２～４は甕形土器である。１は籠目痕がある土器で、胴部文様帯以下に斜位、横位方向の籠目痕が認められる。斜位方向の籠目痕は交差するように、横位方向の籠目痕は文様帯の下および胴部最大径付近に認められる。

303号住居跡

遺　　構（第50図）

［位　　置］１区。

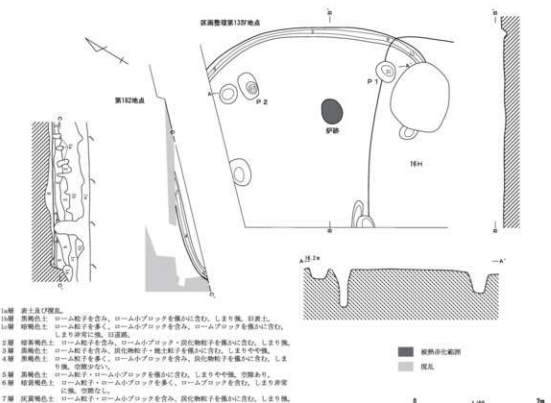
［**検出状況**］区画整理第13Ⅳ地点で住居跡の大半が調査されており、今回の調査では、北西壁を検出した。北壁の一部が耕作による攪乱を受けている。また、住居南側は区画整理第13地点検出の古墳時代後期の住居跡（16Ｈ）に破壊されている。

［構　　造］**平面形**：隅丸長方形か。規模：不明／遺構確認面からの深さ４～９㎝。**壁**：65°程の角度で上がる。**主軸方位**：Ｎ―62°―Ｅ。**壁溝**：全周するものと思われる。上幅12㎝前後・下幅５㎝前後・深さ３～11㎝。**床面**：区画整理第13Ⅳ地点の調査では全体に軟弱であった。**炉**：北東壁から70㎝程離れて位置する。39×34㎝の楕円形を呈する地床炉で、掘り込みは１㎝程と浅い。**貯蔵穴**：検出されなかった。**柱穴**：住居北コーナー付近のＰ１・住居西コーナー付近のＰ２が主柱穴と思われる。Ｐ１は43×27㎝の楕円形で、深さは57㎝。Ｐ２は33×30㎝の不整円形で、深さは31㎝である。**赤色砂利層**：検出されなかった。**入口施設**：検出されなかった。**掘り方**：今回調査では北西壁際を４～14㎝程度で掘り込まれている。

［覆　　土］６層に分層される。

［遺　　物］図示できるものはなかった。

［時　　期］弥生時代後期末葉～古墳時代初頭。



第50図　303号住居跡（１／60）

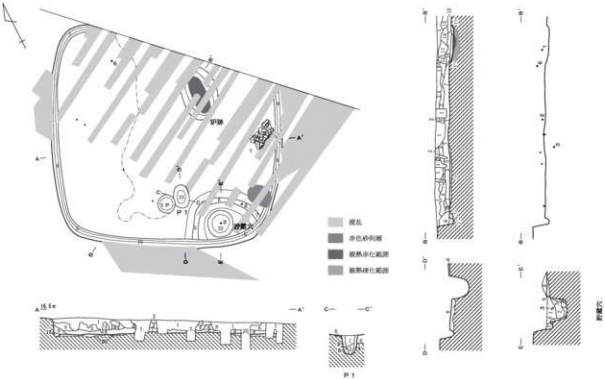
591号住居跡

遺　　構（第51図）

［位　　置］１区。

［検出状況］北東端部は調査区域外であり、全体に耕作による攪乱が著しい。

［構　　造］**平面形**：長方形。**規模**：長軸3.62m／短軸3.48m／遺構確認面からの深さ21～25cm。**壁**：75°程の角度で立ち上がる。**主軸方位**：N―64°―E。**壁溝**：全周する。上幅10～13cm・下幅5cm前後・深さ４～10cm。**床面**：住居東半部に硬化した面を確認できた。**炉**：住居中央からやや西壁に寄って位置する。長軸90cm程・短軸56cmの楕円形を呈する地床炉で、掘り込みの深さは11cm、厚さ５cm程に被熱赤化していた。**貯蔵穴**：住居南コーナーから検出された。41×40cmの円形を呈し、深さは32



A―A'・B―B'

1層　攪乱。
2層　暗褐色土　ローム粒子・黒色土粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまりやや強。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまりやや強。
4層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまりやや強。
5層　暗褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロック・炭化物粒子を含む。しまりやや強。
6層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・黒色土粒子を僅かに含む。しまりやや強。
7層　黒褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり強。やや粘性あり。空隙少ない。
8層　暗黒褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ローム小ブロック・炭化物粒子を含む。しまり強。やや粘性あり。空隙少ない。
9層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを多く、黒色土粒子を含む。しまり強。
10層　暗黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり中。
11層　暗褐色土　ローム粒子・炭化物粒子を多く、ローム小ブロックを含み、焼土粒子を僅かに含む。しまりやや強。
12層　暗黄褐色土　ローム小ブロックを多く、ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を含み、焼土粒子を僅かに含む。しまり強。空隙少ない。
13層　暗褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロック・黒色土粒子を含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり強。空隙少ない。
14層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ローム小ブロック・炭化物粒子を含み、焼土粒子を僅かに含む。しまり強。空隙少ない。
15層　暗黒褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を含む。しまり強。空隙少ない。
16層　黒褐色土　ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子を多く、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。やや粘性あり。空隙少ない。
17層　にぶい黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを多く含む。しまり強。
18層　黒褐色土　焼土粒子を多く、炭化物粒子・焼土小ブロックを含み、ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
19層　暗褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまりやや強。
20層　暗黄褐色土　ローム小ブロックを多く、ローム粒子・ローム小ブロック・黒色土を含む。しまり強。貼床。

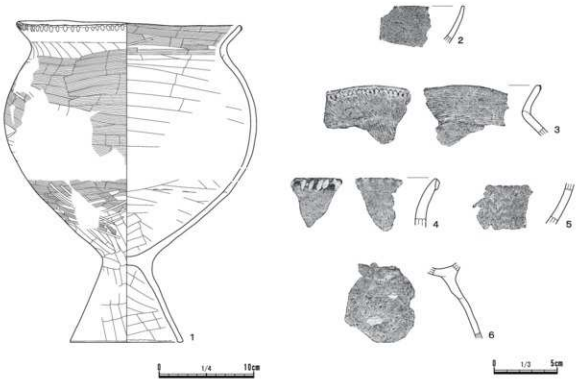
C―C'・D―D' P1

1層　暗黒褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまりやや強。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ローム小ブロックを僅かに含む。しまりやや強。
3層　にぶい黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。
4層　にぶい黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
5層　灰黄褐色土　ローム小ブロックを多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。
6層　暗黄褐色土　ローム小ブロックを多く、ローム粒子・ローム小ブロック・黒色土を含む。しまり強。貼床。

E―E' 貯蔵穴

1層　暗黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまりやや強。
2層　黒褐色土　黒色土粒子を含み、ローム粒子を僅かに含む。しまり中。
3層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ローム小ブロックを僅かに含む。しまりやや強。
4層　暗黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・黒色土粒子を僅かに含む。しまり強。やや粘性あり。
5層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
6層　暗黄褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
7層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを含む。しまりやや強。壁溝埋土。
8層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを多く、黒色土を僅かに含む。しまり強。小礫検出。
9層　暗黄褐色土　ローム小ブロックを多く、ローム粒子・ローム小ブロック・黒色土を含む。しまり強。貼床。

第51図　591号住居跡（１／60）



第52図　591号住居跡出土遺物(1／4･1／3)

挿図番号 図版番号	器種	法量 (cm)	特　　徴	色　調	胎　土	調　　整	出土位置	遺存度
第52図1 図版20-1-1	甕	高34.1 口23.4	台付甕／口唇部がハケ状工具によって面取りされ、口唇部外面に刻み目が廻る／頸部は「く」字状に屈曲／膨らみを呈する胴部／最大径は胴部中位に位置する／脚台部は「ハ」字状を呈する／底端部は平坦	胎土は浅黄橙色を基調	細礫を少量含む／橙色粒子を含む	内面：口縁部にハケ目調整、胴部にヘラナデ、脚台部にヘラナデ／外面：口縁部に横ナデ、胴部にハケ目調整、脚台部にヘラナデ	南東壁付近の覆土中層	70%
第52図2 図版20-1-2	高坏	厚 0.4	口縁部が僅かに内湾して外傾／内外面赤彩の可能性	胎土は橙色を基調	砂粒を含む／細礫を少量含む	内面：ヘラナデ後、ヘラ磨き調整／外面：ヘラナデ	凸堤直上	口縁部破片
第52図3 図版20-1-3	甕	厚 0.5	口唇部がハケ状工具によって面取りされ、口唇部外面に刻み目が廻る／頸部は「く」字状に屈曲	胎土は橙色を基調	砂粒・細礫を少量含む	内外面：ハケ目調整	貯蔵穴の覆土上層	口縁部～頸部破片
第52図4 図版20-1-4	甕	厚 0.7	口縁部が外反／口唇部を面取り／口唇部外面にヘラ状工具による刻み目が廻る／内面に稜段圧痕か	胎土はにぶい橙色を基調	細礫・浅黄橙色粒子を含む	内面：口唇部に指頭押捺による整形痕、口縁部にナデ／外面：横ナデ	覆土	口縁部破片
第52図5 図版20-1-5	甕	厚 0.5	やや膨らみを呈する胴部	胎土は浅黄橙色を基調	白色粒子・橙色粒子を含む	内面：ヘラナデ／外面：ハケ目調整	覆土	胴部破片
第52図6 図版20-1-6	甕	厚 0.5	胴部から脚台部にかけて「く」字状に屈曲	胎土はにぶい橙色を基調	白色粒子・橙色粒子を含む	内面：細かいハケ目調整／外面：ヘラ磨き調整	北隅の覆土上層	胴部～脚台部破片

第31表　591号住居跡出土土器一覧

㎝。覆土は６層に分層される。周囲には幅30㎝前後で高さ５～７㎝の凸堤が「コ」の字状に巡らされている。**柱穴**：主柱穴は検出されなかった。**赤色砂利層**：貯蔵穴のすぐ東横から検出された。耕作により一部壊されていたが、35×40㎝程の楕円形の範囲をもつ。**入口施設**：Ｐ１は入口梯子穴と考えられる。36×26㎝の楕円形で、深さ33㎝。**掘り方**：壁際を95～100㎝の幅で、３～５㎝程度の深さの掘り込みである。

［覆　　土］18層に分層される。

［遺　　物］高坏・甕形土器の破片が出土した。１は住居東側の壁際から破片が密集した状態で出土した。住居の覆土で潰れて破片となったというよりも、土器を壊して廃棄したと推測させるような出土状況である。

［時　　期］弥生時代後期末葉～古墳時代初頭。

遺　　物（第52図、図版20－１、第31表）

１・３～５は甕形土器、２は高坏形土器である。

592号住居跡

遺　　構（第53図）

［位　　置］２区。

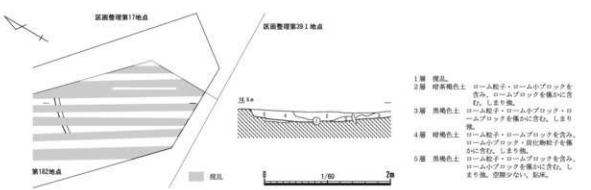
［検出状況］全体に耕作による撹乱が著しく詳細不明である。区画整理第39Ｉ地点の調査では認識されていなかった。20Ｊの内側に入れ子状に構築されているものと思われる。

［構　　造］**平面形**：不明。**規模**：不明／遺構確認面からの深さ３～９㎝。**壁**：70°程の角度で立ち上がる。**主軸方位**：不明。**壁溝**：確認できなかった。**床面**：20Ｊの覆土中にあり、僅かに硬化した面が確認できた。**炉**：検出されなかった。**貯蔵穴**：検出されなかった。**柱穴**：本住居に伴うものは検出されなかった。**赤色砂利層**：検出されなかった。**入口施設**：検出されなかった。**掘り方**：壁際に45㎝幅で、３～５㎝程度の深さで掘り込んでいる。

［覆　　土］３層に分層される。

［遺　　物］図示できるものはなかった。

［時　　期］弥生時代後期～古墳時代前期。



第53図　592号住居跡(１／60)

（３）遺構外出土遺物

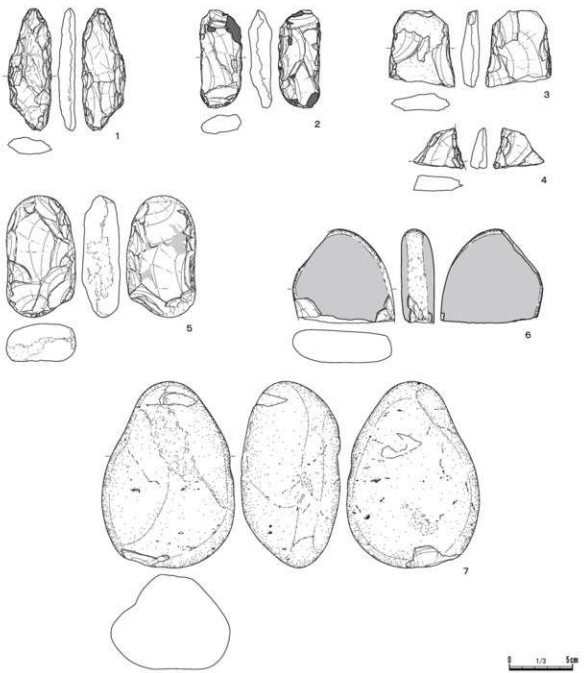
ここでは、表土や攪乱から出土した遺物、そして遺構内であるが、明らかに他時期の混入品である遺物を前節までの各時代の出土遺物と区別し、遺構外出土遺物として扱う。

今回、遺構外出土遺物としては、縄文時代の遺物、弥生時代後期～古墳時代前期の土器に分類する。

①縄文時代の遺物（第54～56図、図版20－１、図版21－８～58、第32～34表）

［石　　器］（第54図１～７、図版20－１－１～７、第32表）

１～４は打製石斧、５・７は敲石、６は磨石である。５は打製石斧を敲石に転用したものと思われる。



第54図　遺構外出土遺物１（1／3）

挿図番号 図版番号	器　種	石　材	長さ	幅	厚さ	重量	特　　徴	出土遺構 出土位置
第54図1 図版20-2-1	打製石斧	緑色片岩	97.0	34.7	13.9	53.4	短冊形／刃部を一部欠損／基部が尖頭状	591Y 覆土
第54図2 図版20-2-2	打製石斧	砂岩	77.7	33.8	18.6	59.4	短冊形／刃部は円刃／右側縁に原礫面あり	遺構外
第54図3 図版20-2-3	打製石斧	ホルンフェルス	[60.8]	52.0	14.5	60.0	基部のみ／短冊形／正面に原礫面が残る	109Y 覆土
第54図4 図版20-2-4	打製石斧	砂岩	[32.3]	[40.2]	[12.9]	16.2	胴部の一部／裏面に原礫面が一部残る	591Y 覆土
第54図5 図版20-2-5	敲石	砂岩	96.5	55.1	30.2	241.5	打製石斧を敲石に転用／縁辺全周に敲打痕／両面の一部に研磨痕あり	109Y 覆土下層
第54図6 図版20-2-6	磨石	砂岩	[74.8]	81.0	26.3	250.5	器体下半、上部一部を欠損／全面に研磨される／正面両側縁に剥離が認められる	109Y 覆土下層
第54図7 図版20-2-7	敲石	砂岩	148.0	105.3	78.8	1522.3	正面稜上、右側面中位、裏面下部に敲打痕	591Y 覆土下層

（単位：mm, g）

第32表　遺構外出土石器一覧

［土　　器］（第55・56図８～57、図版21－８－57、第33表）

出土した土器の大半が中期に位置付けられる。８は早期中葉の沈線文系土器か。

９～11は中期前葉の土器と思われる。

12～41は中期中葉の土器で、12～17は阿玉台式土器、18～36・38～41は勝坂式土器と思われる。42～56は中期後葉の土器で、42～53は加曽利Ｅ式土器である。55は曽利式土器、56は連弧文系土器である。

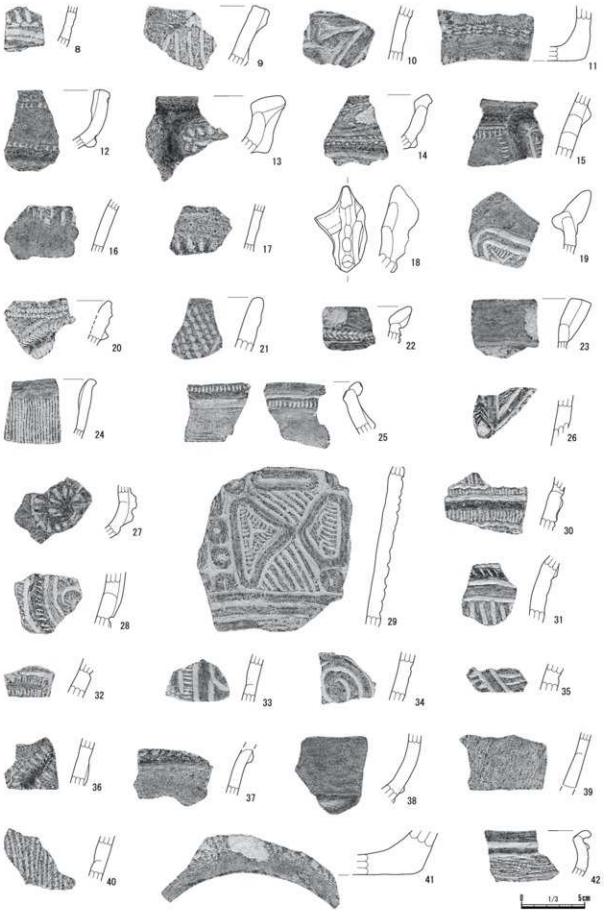
57は後期の土器であろうか。

［土 製 品］（第56図58、図版21－58、第34表）

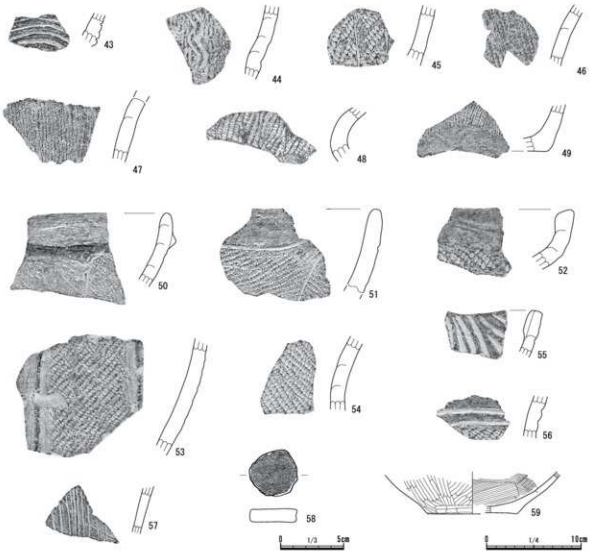
58は土器片錘である。中期中葉の勝坂式土器の胴部を転用したものである。

②弥生時代後期～古墳時代前期の土器（第56図59、図版21－59、第33表）

59は壺形土器の底部破片である。



第55図　遺構外出土遺物２(1／3)



第56図　遺構外出土遺物3（1／3･1／4）

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器　形・形　態	文　様・特　徴	胎　土	時　期 型　式	出土遺構 出土位置
第55図8 図版21-8	深鉢	胴部 破片	厚0.9	やや外傾	４条の横引沈線文を施文後、縦引沈線文が３条	明赤褐／砂粒中量、細礫少量、繊維含む	縄文早期 沈線文系？	3区 遺構外
第55図9 図版21-9	深鉢	口縁部 破片	厚1.2	口唇部に小突起	小突起付近外面に RL 単節斜縄文／低い隆帯で区画文／区画内に斜位の沈線文	橙／砂粒中量、細礫・橙色粒子少量	縄文中期前葉	109Y 覆土
第55図10 図版21-10	深鉢	胴部 破片	厚1.0	やや外傾	三叉文、沈線文、三角印刻文？	橙／砂粒・細礫中量	縄文中期前葉？	109Y 覆土
第55図11 図版21-11	深鉢	底部 破片	厚0.8	僅かに外反して立ち上がる／底面は平底	半截竹管による刺突文を横位に施文／縦位に浮線文を貼り付け、浮線文脇に半截竹管による刺突を施す	橙／砂粒・雲母中量	縄文中期前葉	591Y 覆土
第55図12 図版21-12	深鉢	口縁部 破片	厚0.9	内湾しながら立ち上がる／口唇部内面に肥大／平口縁	口唇部に沿って１列の角押文／口縁部下位に断面三角形の隆帯／隆帯上に１列の角押文が沿う	橙／砂粒中量、雲母やや多量	縄文中期中葉 阿玉台Ｉａ式	591Y 覆土
第55図13 図版21-13	深鉢	口縁部 破片	厚1.1	口縁部が内湾気味／口唇部で外に屈曲／平口縁	口縁部に太隆帯で楕円形に区画／区画内に隆帯に沿って幅広の角押文、中央に横沈線	にぶい橙／砂粒細礫中量、雲母多量	縄文中期中葉 阿玉台式	109Y 覆土

第33表　遺構外出土土器一覧（１）

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器　形・形　態	文　　様・特　　徴	胎　土	時　期 型　式	出土遺構 出土位置
第55図14 図版21-14	深鉢	口縁部 破片	厚0.9	口縁部が内湾気味／口唇部で外に屈曲／平口縁	口縁部下位に断面三角形隆帯／口唇部下、隆帯脇に２列の結節沈線文が沿う	橙／砂粒中量、雲母やや多量	縄文中期中葉 阿玉台Ⅱ式	109Y 覆土
第55図15 図版21-15	深鉢	胴部 破片	厚1.0	やや外傾	断面三角形隆帯を横・縦位に貼り付け／隆帯脇に沈線、刺突文が沿う	黄橙／砂粒中量、雲母中量	縄文中期中葉 阿玉台式	109Y 覆土
第55図16 図版21-16	深鉢	胴部 破片	厚0.8	やや外傾	横位に連続した刻目	浅黄橙／砂粒・細礫・雲母やや多量	縄文中期中葉 阿玉台式	109Y 覆土
第55図17 図版21-17	深鉢	胴部 破片	厚0.7	僅かに外傾	ヒダ状圧痕／輪積み整形痕を残す	橙／砂粒中量、細礫・雲母多量	縄文中期中葉 阿玉台Ⅰ式	109Y 覆土
第55図18 図版21-18	深鉢	口縁部 破片	厚1.2	口唇部に小突起	突起頂上から棒状工具で押捺した隆帯を縦位に貼り付け	橙／砂粒中量、雲母少量	縄文中期中葉 勝坂式	109Y 覆土
第55図19 図版21-19	深鉢	口縁部 破片	厚0.9	内側に屈曲する口唇部／口唇部に小突起	小突起上に連続刺突文／口縁部に沈線で区画し、区画内に三叉文、爪形文	にぶい橙／砂粒・雲母少量、細礫中量	縄文中期中葉 勝坂式	109Y 覆土
第55図20 図版21-20	深鉢	口縁部 破片	厚1.1	やや外傾／平口縁	口唇に沿って２列の三角押文／隆帯脇に２列の三角押文、幅広の角押文が沿う	橙／砂粒・細礫少量、片岩やや多量	縄文中期中葉 勝坂式	1区 遺構外
第55図21 図版21-21	深鉢	口縁部 破片	厚1.3	僅かに外傾／平口縁	沈線区画文／区画内に斜位の結節沈線文が連続する	にぶい橙／砂粒多量・細礫少量	縄文中期中葉 勝坂式	109Y 覆土
第55図22 図版21-22	深鉢	口縁部 破片	厚1.0	口唇部が肥大し、外側に屈曲	口唇部無文／無文帯下に横位に三角押文、半截竹管による沈線文	灰褐／砂粒中量	縄文中期中葉 勝坂式	109Y 覆土
第55図23 図版21-23	深鉢	口縁部 破片	厚1.5	口縁部が外傾し内面肥大／平口縁	口縁部は無文／無文部下位に横引沈線	橙／砂粒中量、細礫少量	縄文中期中葉 勝坂式	3区 遺構外
第55図24 図版21-24	深鉢	口縁部 破片	厚0.6	小型鉢か／口縁部が内側に肥大し、口唇が外反	口縁部に狭い無文帯／無文帯以下に撚糸文＆無文	橙／砂粒少量、細礫中量	縄文中期中葉 勝坂式	109Y 覆土
第55図25 図版21-25	浅鉢	口縁部 破片	厚1.1	口縁部が内傾／口唇部で外側に屈曲	口唇部外面、口唇部内面に連続刺突文／口唇部内面の刺突文に平行して沈線文	にぶい橙／砂粒中量	縄文中期中葉 勝坂式	3区 遺構外
第55図26 図版21-26	深鉢	胴部 破片	厚0.9	ほぼ直立	隆帯上に矢羽根状刺突文／三角形状に沈線で区画し、区画内に斜位の連続刺突文	にぶい赤褐／砂粒・細礫やや多量	縄文中期中葉 勝坂式	591Y 覆土
第55図27 図版21-27	深鉢	胴部 破片	厚0.9	内湾	胴部中央に撚糸状の角押文が施された突起が付く	橙／砂粒中量	縄文中期中葉 勝坂式	20J 撹乱
第55図28 図版21-28	深鉢	胴部 破片	厚1.1	僅かに外傾	刺突文のある隆帯を弧状に貼り付け／隆帯脇を沈線が沿う／交叉部には撚糸状の沈線文、連続刺突文で充填	明赤褐／砂粒やや多量	縄文中期中葉 勝坂式	2区 遺構外
第55図29 図版21-29	深鉢	胴部 破片	厚1.1	僅かに外傾	胴部上位と下位を半截竹管による沈線文で区画／区画内は横沈線が入った楕円文、中心に刺突が施される円形文、三叉文、半円形刺突文、斜位の沈線文で充填	明赤褐／砂粒・細礫少量	縄文中期中葉 勝坂式	109Y 覆土
第55図30 図版21-30	深鉢	胴部 破片	厚0.9	やや外傾	縦位の集合沈線文を施文後、横位に波状文／断面カマボコ状の隆帯を横位に貼り付け／隆帯脇に沈線、幅広の結節文、波状文が沿う	明赤褐／砂粒やや多量、細礫中量	縄文中期中葉 勝坂式	109Y 覆土
第55図31 図版21-31	深鉢	胴部 破片	厚1.1	やや外反	斜位の刻みのある隆帯／隆帯脇に沈線／沈線による楕円区画か／区画内に縦位沈線文を充填させる	暗赤褐／砂粒少量、細礫中量	縄文中期中葉 勝坂式	591Y 覆土
第55図32 図版21-32	深鉢	胴部 破片	厚1.1	やや外傾	沈線・連続爪形文で区画／区画内は無文	橙／砂粒やや多量	縄文中期中葉 勝坂式	109Y 覆土
第55図33 図版21-33	深鉢	胴部 破片	厚0.9	やや外傾	連続刺突文を縦位に施文／刺突文列脇を沈線が沿う／沈線文が施される	にぶい橙／砂粒・細礫少量	縄文中期中葉 勝坂式	2区 撹乱
第55図34 図版21-34	深鉢	胴部 破片	厚1.1	僅かに外傾	沈線による撚糸文	明褐／砂粒・細礫少量	縄文中期中葉 勝坂式	109Y 覆土
第55図35 図版21-35	深鉢	胴部 破片	厚1.2	僅かに外傾	交互刺突文、斜位・横位の沈線文／外面赤彩	黄橙／砂粒少量	縄文中期中葉 勝坂式	591Y 覆土

第33表　遺構外出土土器一覧（２）

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器　形・形　態	文　様・特　徴	胎　土	時　期 型　式	出土遺構 出土位置
第55図36 図版21-36	深鉢	胴部 破片	厚0.9	やや外傾	背の低い隆帯／隆帯貼り付け後、LR単節斜縄文を施文／縄文施文後、隆帯脇に幅広の角押文、波状沈線文	明赤褐／砂粒やや多量	縄文中期中葉 勝坂式	109Y 覆土
第55図37 図版21-37	深鉢	胴部 破片	厚0.7	僅かに外反	横位に隆帯／隆帯脇に刺突文？／無文部に赤彩か	暗褐／砂粒・雲母やや多量	縄文中期中葉？	109Y 覆土
第55図38 図版21-38	深鉢	胴部 破片	厚1.0	内湾しながら外傾	背の低い横位隆帯貼り付け	明赤褐／砂粒多量、細礫少量	縄文中期中葉 勝坂式	109Y 覆土
第55図39 図版21-39	深鉢	胴部 破片	厚1.0	やや外傾	LR単節斜縄文	黄橙／砂粒・雲母中量	縄文中期中葉	109Y 覆土
第55図40 図版21-40	深鉢	胴部 破片	厚0.8	僅かに外傾	地文に燃糸Ｌを縦位施文	明赤褐／砂粒・細礫少量	縄文中期中葉 勝坂式	591Y 覆土
第55図41 図版21-41	深鉢	底部 破片	厚1.4	底部からやや外傾する胴部／平底	胴部に RL 単節斜縄文／底面はケズリ、磨き調整	橙／砂粒中量、細礫少量	縄文中期中葉 勝坂式	109Y 覆土
第55図42 図版21-42	深鉢	口縁部 破片	厚0.7	口縁部がやや膨らみ、口唇部で外側に屈曲	口縁部文様帯を隆帯区画／区画内に燃糸Ｒを横位施文	にぶい橙／砂粒中量	縄文中期後葉 加曽利Ｅ Ⅰ式	591Y 覆土
第56図43 図版21-43	深鉢	胴部 破片	厚1.1	やや外傾	渦巻文	浅黄橙／砂粒中量	縄文中期後葉 加曽利Ｅ Ⅰ式	109Y 覆土
第56図44 図版21-44	深鉢	胴部 破片	厚1.0	僅かに外反した後、内湾	地文に燃糸Ｌを縦位施文／半截竹管の腹面引きによる垂下波状文	にぶい褐／砂粒・細礫中量	縄文中期後葉 加曽利Ｅ Ⅰ式	109Y 覆土
第56図45 図版21-45	深鉢	胴部 破片	厚1.1	やや外傾	地文に LR 単節斜縄文／垂下沈線文	橙／砂粒中量、細礫少量	縄文中期後葉 加曽利Ｅ Ⅰ式	109Y 覆土
第56図46 図版21-46	深鉢	胴部 破片	厚0.8	僅かに外反しながら外傾	地文に燃糸Ｌを縦位施文	にぶい褐／砂粒・細礫中量	縄文中期後葉 加曽利Ｅ Ⅰ式	109Y 覆土
第56図47 図版21-47	深鉢	胴部 破片	厚1.1	僅かに外傾	地文に燃糸Ｌを縦位施文	灰褐／砂粒・細礫中量	縄文中期後葉 加曽利Ｅ Ⅰ式	109Y 覆土
第56図48 図版21-48	深鉢	胴部 破片	厚1.3	屈曲	地文に RL 単節斜縄文	にぶい黄橙／砂粒やや多量	縄文中期後葉 加曽利Ｅ Ⅰ式	109Y 覆土
第56図49 図版21-49	深鉢	底部 破片	厚1.0	平底	地文に燃糸Ｒを縦位施文	褐／砂粒中量	縄文中期後葉 加曽利Ｅ Ⅰ式	109Y 覆土
第56図50 図版21-50	深鉢	口縁部 破片	厚1.0	僅かに内湾して立ち上がる	口縁部無文帯下に横位の微隆起線／微隆起線以下、沈線で「∩」字状に文様区画し、区画内に LR 単節斜縄文を充填施文	黄橙／砂粒少量、細礫中量	縄文中期後葉 加曽利Ｅ Ⅳ式	109Y 覆土
第56図51 図版21-51	深鉢	口縁部 破片	厚1.1	僅かに内湾して立ち上がる	口縁部無文／無文帯以下に RL 単節斜縄文を施文後、沈線区画文	にぶい橙／砂粒、細礫中量	縄文中期後葉 加曽利Ｅ Ⅳ式	591Y 覆土
第56図52 図版21-52	深鉢	口縁部 破片	厚1.2	僅かに内湾して立ち上がる	口縁部無文／無文帯以下に RL 単節斜縄文	にぶい橙／砂粒、細礫中量	縄文中期後葉 加曽利Ｅ Ⅳ式	109Y 覆土
第56図53 図版21-53	深鉢	胴部 破片	厚1.0	僅かに内湾しながら外傾	地文に RL 単節の磨消縄文／縦位に磨り消す／垂下する微隆起線	黄橙／砂粒少量	縄文中期後葉 加曽利Ｅ Ⅳ式	確認調査 トレンチ
第56図54 図版21-54	深鉢	胴部 破片	厚1.1	やや外反	RL 単節斜縄文	明赤褐／砂粒・細礫少量	縄文中期後葉	109Y 覆土
第56図55 図版21-55	深鉢	口縁部 破片	厚0.8	外傾／口唇部内側が肥大／平口縁	口唇部から斜位の沈線文、重弧文か？	橙／砂粒中量	縄文中期後葉 曽利式	303Y 覆土
第56図56 図版21-56	深鉢	胴部 破片	厚1.0	僅かに外反	２本の横位沈線文で胴部区画／沈線文下に平行する垂下沈線文、LR 単節斜縄文	にぶい橙／砂粒やや多量	縄文中期後葉 連弧文系	2区 撹乱
第56図57 図版21-57	深鉢	胴部 破片	厚0.5	僅かに外傾	縦位に条線が施される	にぶい黄橙／砂粒・雲母少量	縄文後期	3区 遺構外
第56図59 図版21-59	壺	底部 破片	厚0.5	平底／広く開いて立ち上がる胴部	内面：ハケ目調整／外面：ヘラ磨き調整	浅黄橙／細礫少量、橙色粒子やや多量	弥生時代終末～古墳時代前期	確認調査 トレンチ

第33表　遺構外出土土器一覧（３）

挿図番号 図版番号	種別	遺存状態	長さ／幅／厚み (cm)	重量 (g)	特　徴	胎土	時期 型式	出土遺構 出土位置
第56 図58 図版21-58	土器片錘	完形	3.6／3.8／1.0	18	円形／周縁にケズリを施して整形／無文	褐／砂粒やや多量、雲母中量	縄文中期中葉 勝坂式	109Y 覆土

第34表　遺構外出土土製品一覧

第４章　西原大塚遺跡第183・184地点の調査

第１節　遺跡の概要

（１）立地と環境

第２章　参照。

（２）発掘調査の経過

第183地点と第184地点は、隣り合う２地点であり、さらに開発時期がほぼ一致していたことから、両地点の確認調査を一度に実施することができた。

確認調査は、平成24年８月20日に実施した。両地点を合わせ調査区とし、調査区の長軸方向に含わせ３本のトレンチ（１～３Ｔｒ）を設定し、バックホーを使用し表土を剥ぎ、同時に遺構確認作業を行った。その結果、３Ｔｒの南端から弥生時代の住居跡１軒を確認した（第57図）。さらに、本地点の前面道路部分は、すでに西原特定土地区画整理事業（以下、区画整理）に伴う第41Ⅰ地点で発掘調査が実施され、弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡２軒（317Ｙ・318Ｙ）が本地点に延びてくることが明らかであったため、その旨の説明を含め、両地点の依頼者に調査の結果を報告し、保存対策について検討を依頼した。その結果、保護層30cm以上を確保することは難しく、盛土保存は不可能であるという回答を得た。そのため、平成24年９月24日から、発掘調査を実施することに決定した。

以下、発掘調査の経過を説明することにする。

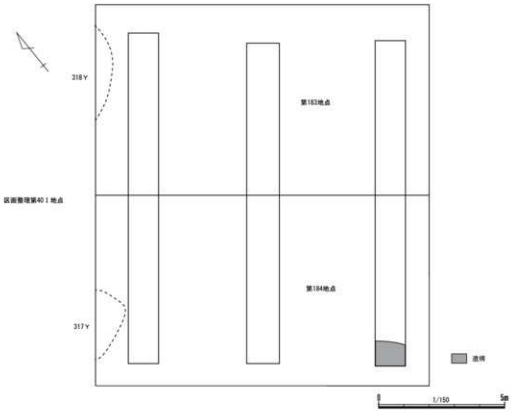
９月24日　重機による表土剥ぎ作業及び人員導入による発掘作業を開始する。今回は確認調査の結果から判断して、遺構が密集していないため、住居跡が確認された３Ｔｒの南端部分と区画整理第40Ⅰ地点の317・318Ｙ検出部分を割り出し、３ヶ所の調査区（１～３区）に区分して表土剥ぎ作業を行った。その結果、１～３区で住居跡を確認することができたため、それぞれの住居跡について、１区の住居跡を317Ｙ、２区の住居跡を590Ｙ、３区の住居跡を318Ｙとすることとした。本日中には表土剥ぎ作業を終了し、１～３区の整備と細部の遺構確認作業を行い、遺構検出の写真撮影まで終了した。

25日　317・318・590Ｙの精査を開始する。317Ｙは床面まで掘り進み、住居東コーナーから貯蔵穴を確認した。午後からセクションＡ－Ａ'の写真撮影・実測を終了した。318Ｙは完掘し、遺構の写真撮影を終了した。590Ｙは床面を確認し、主柱穴のうちの１本と思われるピット１本（Ｐ１）を確認した。

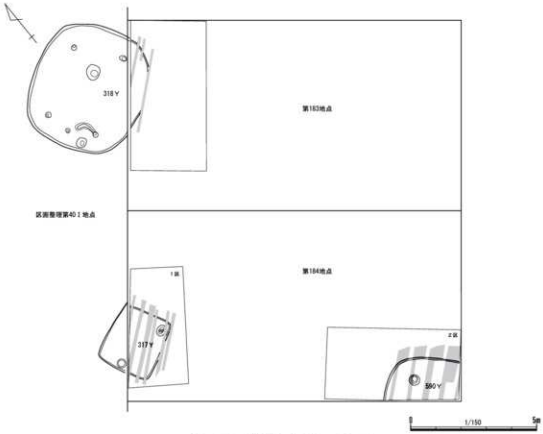
26日　317Ｙは貯蔵穴と思われた掘り込みの坑底面から被熱による燃焼部を確認したため、炉跡に変更する。掘り終了後、遺構完掘の写真撮影を行い、平板測量を開始する。318ＹはセクションＡ－Ａ'の写真撮影・実測を終了し、平板測量を完了する。590ＹはＰ１の精査を終了し、遺構完掘の写真撮影を行い、平板測量を開始する。

27日　317・318Ｙは掘り方の精査を開始する。590Ｙは平板測量・セクションＡ－Ａ'の実測を終了し、精査を完了する。

28日　317Ｙの炉跡の焼土部分を切り、断面の写真撮影を行い、実測を終了し、精査を完了す



第57図　確認調査時の遺構分布図（１／150）



第58図　遺構分布図（１／150）

る。318Ｙは掘り方精査後のセクションＡ－Ａ'断面の写真撮影を行い、掘り方部分を断面図に追加し、精査を完了する。本日午前中にはすべての精査を完了し、午後から器材片付けを行った。

10月３日　　埋戻し作業を開始する。午前中で作業を完了する。

第２節　検出された遺構・遺物

（１）概　要

第183・184地点からは、すでに区画整理第40Ｉ地点で調査された弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡２軒（317Ｙ・318Ｙ）が検出されており、２区（第184地点）の南端部から弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡１軒（590Ｙ）が新たに検出された。

出土遺物は、今回の調査で図示できるものはなかった。ただし、318Ｙについては区画整理第40Ｉ地点で６点の土器が掲載されており、本報告で再度掲載し、遺構についても統合し掲載することとした。

（２）住居跡

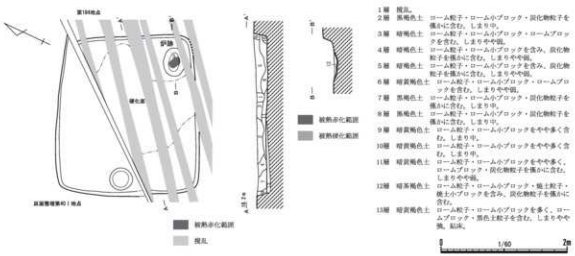
317号住居跡

遺　構（第59図）

［位　　置］１区（第184地点西端部）。

［検出状況］住居西半部は区画整理第40Ｉ地点で調査されており、今回の調査では住居東半部が検出されている。全体に耕作による攪乱を受けている。

［構　　造］**平面形**：長方形。**規模**：長軸2.52m／短軸2.25m／遺構確認面からの深さ26～32㎝。**壁**：75°程の角度で立ち上がる。**主軸方位**：Ｎ―65°―Ｅ。**壁溝**：確認できなかった。**床面**：壁際を除き硬化した面が確認できた。**炉**：住居東コーナーに位置する。当初は貯蔵穴と思われたが、燃焼部をもつことから炉跡と扱った。45×32㎝の楕円形を呈する地床炉で、掘り込みの深さは５㎝、焼土は２㎝程の



第59図　317号住居跡（１／60）

厚さをもち、坑底面のみが被熱赤化していた。**貯蔵穴**：確認できなかった。**柱穴**：本住居に伴うものは検出されなかった。**赤色砂利層**：確認できなかった。**入口施設**：確認できなかった。**掘り方**：中央から南西壁際にかけて５㎝程度の深さで掘り込んでいる。

［覆　　土］11層に分層される。

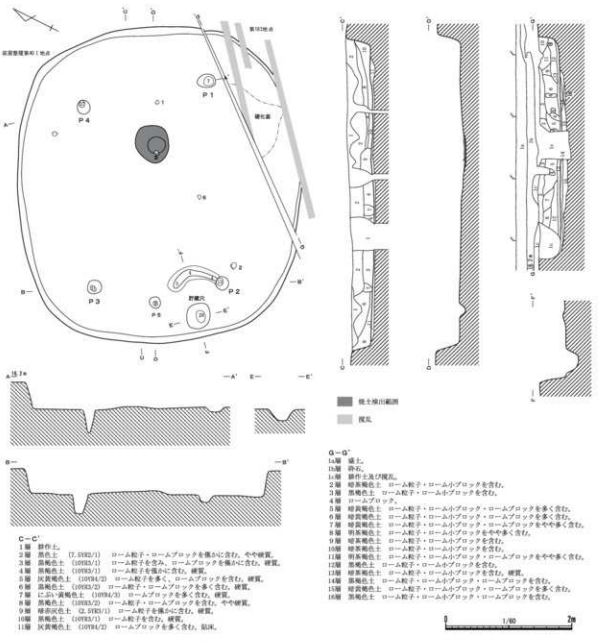
［遺　　物］今回の調査および区画整理第40Ⅰ地点の調査で図示できるものはなかった。

［時　　期］弥生時代後期～古墳時代前期。

318号住居跡

遺　　構（第60図）

［位　　置］第183地点北端部。



第60図　318号住居跡（１／60）

［**検出状況**］今回の調査では南東端部分のみ検出であったが、区画整理第40Ⅰ地点では住居の大部分が精査されている。

［**構　造**］**平面形**：隅丸長方形。**規模**：長軸5.00m／短軸4.5m／遺構確認面からの深さ35～41㎝。**壁**：60°程の角度で立ち上がる。**主軸方位**：N－65°－E。**壁溝**：確認できなかった。**床面**：全体に平坦で際を除き硬化した面が確認できた。**炉**：住居中央から北東に偏って位置する。64×54㎝の楕円形を呈する地床炉で、深さ４㎝の掘り込みをもつ。掘り込み内側から土器片（第61図３）が出土している。**貯蔵穴**：西壁中央からやや南寄りの壁際に位置する。46×39㎝の楕円形を呈し、深さ20㎝を測る。貯蔵穴東側には、幅21㎝前後・高さ2～3㎝の凸堤を弧状に構築している。**柱穴**：各コーナーの４本が主柱穴である。Ｐ１は21×30㎝・深さ７㎝の楕円形。Ｐ２は20×22㎝・深さ13㎝の円形。Ｐ３は21×22㎝・深さ31㎝の円形。Ｐ４は20×22㎝・深さ37㎝の円形。**赤色砂利層**：検出されていない。**入口施設**：西壁中央近くのＰ５が入口梯子穴と思われる。17×19㎝・深さ９㎝の楕円形を呈する。**掘り方**：壁際を残し、住居内側を２～11㎝程度の深さで掘り込んでいる。

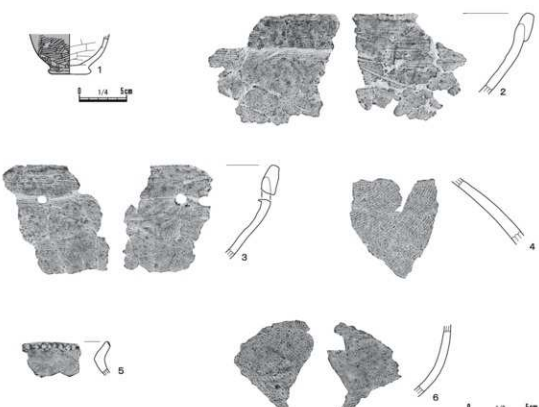
［**覆　土**］今回調査したセクションＧ－Ｇ′で観察すると15層に分層された。

［**遺　物**］今回の調査では図示できるものはなかったが、区画整理第40Ⅰ地点の調査で６点の土器が掲載されているため、本報告でも掲載することとした。

［**時　期**］弥生時代後期末葉～古墳時代初頭。

遺　物（第61図、図版23－５、第35表）

１・４は壺形土器、２・３は鉢形土器、５・６は甕形土器である。２・３の鉢形土器は接合できなかったが、同一個体と考えられる。



第61図　318号住居跡出土遺物（1／4・1／3）

挿図番号 図版番号	器種	法量 (cm)	特　　徴	色　調	胎　土	調　　整	出土位置	遺存度
第61図1 図版23-5-1	壺	高［4.2］ 底 4.0	小型壺／胴部は膨らみを呈する／平底／底部は端部が外に張り出す／外面に赤彩	胎土はにぶい褐色を基調	砂粒・細礫を少量含む／灰白色粒子を含む	内面：ヘラナデ／外面：ヘラ磨き調整	炉北東側の床面上	胴部～底部破片
第61図2 図版23-5-2	鉢	厚 0.6	複合口縁／口唇部をハケ状工具で面取り／僅かに内湾しながら外傾／外面に赤彩／3と同一個体か	胎土は浅黄橙色を基調	砂粒・細礫を少量含む／白色粒子を含む	内面：胴部にヘラナデ、口縁部にハケ目調整後、ヘラ磨き調整／外面：ハケ目調整後、ヘラ磨き調整	突帯東側付近	口縁部～胴部破片
第61図3 図版23-5-3	鉢	厚 0.5	複合口縁／口唇部をハケ状工具で面取り／僅かに内湾しながら外傾／複合口縁直下に径8㎜の穿孔／焼成前に外面から内面へ穿孔／外面に赤彩／2と同一個体か	胎土は橙色を基調	砂粒・細礫を少量含む／白色粒子を含む	内面：胴部にヘラナデ、口縁部にハケ目調整後、ヘラ磨き調整／外面：ハケ目調整後、ヘラ磨き調整	炉内部	口縁部～胴部破片
第61図4 図版23-5-4	壺	厚 0.8	LR端末結節文が３段／結節文は「２」字状／無文部に赤彩／文様帯内に直径１㎝程度の円形赤彩文	胎土はにぶい黄橙色を基調	細礫を少量含む／白色粒子・黄橙色粒子を含む	内面：ヘラナデ／外面：ヘラ磨き調整	区画整理第40１地点	胴部破片
第61図5 図版23-5-5	甕	厚 0.4	口唇部外面にハケ状工具による刻みが廻る／胴部から膨台部にかけて「く」字状に屈曲	胎土は橙色を基調	砂粒・白色粒子・橙色粒子・雲母を少量含む	内面：ヘラナデ／外面：ハケ目調整後、ヘラナデ	区画整理第40１地点	口縁部～頸部破片
第61図6 図版23-5-6	甕	厚 0.5	膨らみを呈する胴部	胎土は灰褐色を基調	細礫・橙色粒子を含む	内面：ヘラナデ、ハケ目調整／外面：ハケ目調整	中央付近の覆土	胴部破片

第35表　318号住居跡出土土器一覧

590号住居跡

遺　　構（第62図）

［位　　置］２区（第184地点南端部）。

［検出状況］住居南側は調査区外に延びるものと思われる。全体に耕作により、撹乱を受けている。

［構　　造］**平面形**：隅丸方形か。**規模**：長軸不明／短軸不明／遺構確認面からの深さ５～16㎝。**壁**：80°の角度で急斜に立ち上る。**主軸方位**：N―35°―W。**壁溝**：確認できなかった。**床面**：壁際を除き硬化した面が確認できた。**炉**：確認できなかった。**貯蔵穴**：確認できなかった。**柱穴**：住居北東コーナーの１本（Ｐ１）が検出された。主柱穴の１本と思われる。平面形は円形、長軸43㎝×短軸40㎝・深さ71㎝。**赤色砂利層**：確認できなかった。**入口施設**：確認できなかった。

［覆　　土］８層に分層された。

［遺　　物］図示できるものはなかった。

［時　　期］弥生時代後期～古墳時代前期。

（３）遺構外出土遺物

ここでは表土や撹乱から出土した遺物、そして遺構内であるが、明らかに他時期の混入品である遺物を区別し、遺構外出土遺物として扱う。今回の遺構外出土遺物は縄文時代の遺物であった。

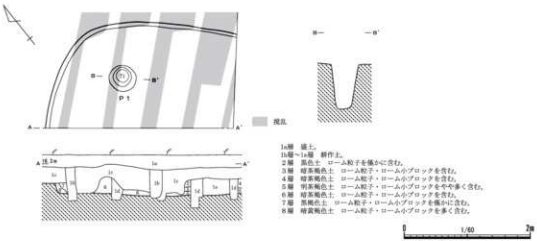
①縄文時代の遺物（第63図１、図版23－６、第36・37表）

［石　　器］（第63図１、図版23－６－１、第36表）

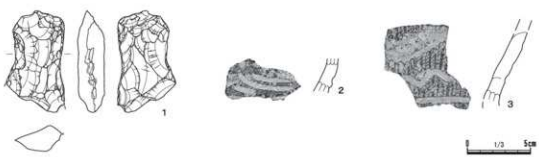
１は打製石斧である。石材はホルンフェルス。

［土　　器］（第63図２・３、図版23－６－２・３、第37表）

２・３は中期後葉の連弧文系土器である。



第62図　590号住居跡（１／60）



第63図　遺構外出土遺物（1／3）

挿図番号 図版番号	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土遺構 出土位置
第63図1 図版23-6-1	打製石斧	ホルンフェルス	80.2	47.7	21.8	89.0	分銅形／刃部を欠損／右側縁に敲打整形痕あり	590Y 覆土

（単位：mm, g）

第36表　遺構外出土石器一覧

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式	出土遺構 出土位置
第63図2 図版23-6-2	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	僅かに内湾	連弧文／部分的に沈線が途切れる	砂／砂粒中量	縄文中期後葉 連弧文系	317Y 覆土
第63図3 図版23-6-3	深鉢	胴部 破片	厚 1.1	屈曲して外傾	地文に撚糸Ｌ／屈曲部に太描沈線／波状文／連弧文	砂礫／砂粒中量、細礫少量	縄文中期後葉 連弧文系	第184地点 ２区遺構外

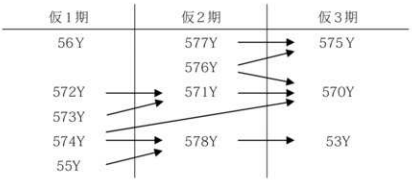
第37表　遺構外出土土器一覧

第５章　調査のまとめ

今回の調査では、弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡が第180地点から12軒、第182地点から４軒、第183地点から１軒、第184地点から２軒が検出されている。ここでは、遺構が重複して検出された第180地点の弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡及び出土土器について検討することにする。

（１）検出された住居跡の切り合いについて

西原大塚遺跡第180地点では156㎡の範囲で12軒の住居跡が重複して確認された。ここでは住居跡の切り合い関係をもとに大まかに時間軸上の変遷を考えることにする。切り合いから各住居跡の新旧関係をまとめると以下の通りになる。



（２）弥生時代後期～古墳時代前期の土器様相について

ここでは各住居跡から出土した遺物についてまとめ、住居の帰属時期を検討する。検討する際、特に住居跡床面上から出土した遺物を中心に考察していく。住居跡によっては床面から出土した遺物がないこともあり、その場合は覆土中から出土した遺物をもとに検討し、出土遺物の時期の一括性を考慮し、推察していく。

【53号住居跡】

器種構成としては器台・高坏・坩・壷・甕・勾玉である（第11図）。大半が覆土中からの出土であり、遺構の時期を示す遺物を捉えにくい。時期を推定する遺物として、器台（１）、坩（３）、高坏（４～７）といった小型品が目立つ。高坏の脚部は外反するもの（６・７）や、扁平なもの（５）があり、これらから廻間編年（赤塚　1990）のⅢ式期、古墳時代前期に位置づけられると考えられる。

【55号住居跡】

器種構成としては、壷・甕である（第13図）。甕の破片（４・６）が床面直上からの出土である以外、大半が覆土中からの出土であり、時期比定が困難である。１は内湾気味に立ち上がる口縁部に羽状に縄文が施される壷であり、弥生時代後期後葉～古墳時代初頭まで残るタイプ（比田井　1997）である。覆土上層からの出土であり、かつ口縁部片のため、時期を絞り込めない。東海系の土器が主体的に出土していないことを考え、弥生時代後期後葉～古墳時代初頭と位置付けておく。

【56号住居跡】

器種構成としては、高坏・壷・甕である（第15図）。遺物は覆土中からの出土である。１は鉢の可能性もあるが、内面ヘラ磨き調整をしていることから高坏とした。口縁部が外側に屈曲し、外面にハケ目調整が残る特徴から、本住居跡は弥生時代終末～古墳時代初頭としておく。

【570号住居跡】

器種構成としては坩・器台・高坏・鉢・壷・甕・台形土器・転用砥具であり、器種が最も豊富に出土した遺構である（第19～21図）。炉跡Ａ・Ｂが検出されており、主柱穴が２本以上の重複形を示すことから、建て替えが行われていたと考えられる。床上から出土した遺物の特徴を見ると、坩（２）は胴部が丸みを帯び、扁平化していない。高坏（８）は、脚部が外反し、裾部が扁平になる形状である。覆土中の高坏も外反脚であり（６・７・41）、同様の傾向を示す。住居下層から出土した二重口縁壷（12）は廻間編年ではⅢ式期以降に定着してくる（赤塚1990）。これらの特徴から本住居跡は廻間編年（赤塚1990）のⅢ式期、古墳時代前期に位置づけられる。

【571号住居跡】

器種構成としては高坏・坩・壷・甕である（第24図）。床面付近で出土したのは壷（２・３）、甕の口縁部（15）である。壷は最大径が中位にあり、下膨れする形態ではない。下層の遺物に、外反脚を呈する小型の高坏脚部（１）、坩の口縁部（７・８）がある。小型品を有する点で、廻間編年（赤塚1990）のⅡ式期と思われる。またタタキ成形痕をもつ甕の胴部片が出土していることは注目される。タタキ甕は、関東では東京湾沿岸から荒川流域に主に分布し、弥生時代終末から散見されるようになる（西川　1991）。時期比定の資料は少ないが、これらの諸様相から、古墳時代前期と推定しておく。

【572号住居跡】

本住居跡は大部分が調査区外であり、さらに571Ｙに切られているため、部分的な調査であった。出土遺物は壷・甕（第24図）の小破片のみであり、覆土中からの出土である。１は小型壷の口縁部と思われるが、頸部が「く」字状に屈曲する特徴を持つ。検出範囲も狭く、全容が分からないため、帰属時期は不明確である。弥生時代後期末葉～古墳時代前期としておく。

【573号住居跡】

本住居跡は570・571Ｙに切られているため、一部分の調査であった。出土遺物は甕（第25図）の小破片のみである。そのため帰属時期は不明確であり、弥生時代後期末葉～古墳時代前期としておく。

【574号住居跡】

器種構成は高坏・坩・壷・鉢・甕である（第28図）。床面直上で出土したのは壷（３・５）、鉢（４）である。３は幅狭の複合口縁で、口唇部内面上端が水平気味になっている。頸部は短いが緩やかな弧を描く。文様帯は頸部下位～肩部に位置し、２段の自縄結節文で上端を区画する。５も肩部に2段の自縄結節文で区画している。４は口唇部に無節斜縄文が施文される。これらは東京湾沿岸部の地域の特徴をもつ土器であり、弥生時代後期後葉に相当しよう。１の器台、２の坩は古墳時代前期に位置づけられるものだが、覆土中の出土である。本住居跡が570Ｙに覆土下層付近まで大きく壊されていることから、570Ｙからの流れ込みの可能性が高い。よって本住居跡は、床面直上から出土した遺物をもとに時期比定をすると、弥生時代後期後葉に位置づけられる。

【575号住居跡】

器種構成は、高坏・坩・器台・壷・甕である（第30図）。床面直上から坩（１）・器台（２）・台付甕

脚部（６）が出土している。１は口縁部に最大幅を持ち、平底である。全体的に扁平な胴部で、膨らみはなく、屈曲が目立つ。大村氏は自身の編年試案でTE２式（五領Ⅱ式・松河戸式平行）に位置づけている（大村　1994）。高坏（２）は器台部が坏形で、口縁部がわずかにＳ字状に突き出る。脚部がやや内湾し、底径が口径より大きい。高坏の脚部は、時期が新しくなるにつれ、脚部が末広がりになる傾向があり、坩（１）の時期とやや異なりそうだが、内湾脚の要素が残った可能性があり、出土状況も床面直上からであるため一概には言えない。要素の残存と捉えるべきか。４の高坏は、下層からの出土で、脚部が屈曲して開く形態である。市内では類例がなく、詳細は分からない。また、覆土中の甕の口縁（12・15・16）は「く」字口縁、目の粗い工具によるハケ目調整など古墳時代前期でも新しい特徴と言える。以上、時期の比定は難しいが、少なくとも古墳時代前期に比定できるであろう。

【576号住居跡】

器種構成としては、高坏・壷・広口壷・甕である（第32図）。本住居跡からは、土器埋納土坑から出土した広口壷（３）が注目される。３は口径に対し器高がやや長い比率となり、頸部に屈曲があり、最大幅が胴部中位で、丸みを帯びる胴部である。比田井編年によれば、弥生時代後期Ⅲ段階に位置づけられる（比田井　1997）。床面直上～中層で出土した甕（９）は緩やかな弧状の頸部、口唇部に刻み目を持つものである。少ない点数で時期比定は困難だが、おおよそ弥生時代後期後葉と位置づけられよう。

なお、覆土上層出土の土器では東海系の小型高坏（１）、器高の短い口縁部で頸部が「く」字状に屈曲する壷（２）、「く」字口縁で口縁部に横ハケ目調整が施される甕（４）、タタキ成形痕を外面に残す薄手の甕（14）などが出土しており、弥生時代終末～古墳時代初頭と考えられる土器が中心である。

【577号住居跡】

大半が調査区外であり、575Yにも切られ一部分のみの調査であった。出土遺物は高坏・壷・甕である（第34図）。１は脚部に孔を有する脚部であり、東海系の高坏であろう。貼床内からの出土であり、住居構築時に混入したと考えられる。１以外は住居覆土中からの出土であり、小破片のみのため時期比定が困難である。１が貼床内から出土していることから、古墳時代初頭以降と想定される。

【578号住居跡】

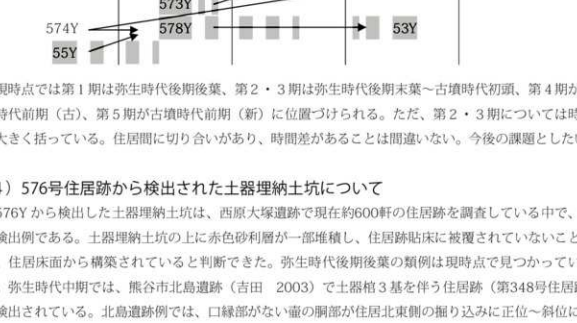
本住居跡の大半が調査区外であり、また53Yに切られており、全容は不明である。器種構成としては、壷・甕であり（第32図）、全て覆土上～下層からの出土である。時期を推定することは難しいが、肩部に文様帯を持ち、結節文で区画する東京湾沿岸系の壷の破片が出土していることから、弥生時代後期末葉～古墳時代前期としておく。

（３）弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡の変遷について

以上の検討から５期に区分できた。第１期は比田井編年Ⅲ段階（比田井　1997）に相当すると考えられる。東京湾沿岸系の要素が強い574・576Yが該当する。55Yは遺物が少なく、明確ではないが、578Yに切られるため、第１～２期に相当すると思われる。第2期には56・572・573・578Yとした。これらの住居跡からは、出土遺物が少なく、また覆土中からの出土が主体であるため、切り合い関係を含めて対応させた。よって、第２期の前後に幅を持つ可能性がある。第３期は廻間編年Ⅱ式期（赤塚　1990）に相当させた。該当住居跡は571・577Yである。577Yは遺物が少なく第３期以降としている。第４期は廻間編年Ⅲ式期（赤塚　1990）に相当すると考えられる。53・570Yが該当する。53Yは古墳時代初頭まで遡る可能性がある。第５期は今回調査範囲では最も新しく位置づけられると考えられ、

廻間編年松河戸Ⅰ式期併行とした。575Y が該当する。

これらの結果をもとに住居跡の変遷を検討すると以下の様になる。



現時点では第１期は弥生時代後期後葉、第２・３期は弥生時代後期末葉～古墳時代初頭、第４期が古墳時代前期（古）、第５期が古墳時代前期（新）に位置づけられる。ただ、第２・３期については時期を大きく括っている。住居間に切り合いがあり、時間差があることは間違いない。今後の課題としたい。

（4）576号住居跡から検出された土器埋納土坑について

576Y から検出した土器埋納土坑は、西原大塚遺跡で現在約600軒の住居跡を調査している中で、初の検出例である。土器埋納土坑の上に赤色砂利層が一部堆積し、住居跡貼床に被覆されていないことから、住居床面から構築されていると判断できた。弥生時代後期後葉の類例は現時点で見つかっていない。弥生時代中期では、熊谷市北島遺跡（吉田　2003）で土器棺３基を伴う住居跡（第348号住居跡）が検出されている。北島遺跡例では、口縁部がない壷の胴部が住居北東側の掘り込みに正位～斜位に据えられており、別個体の土器で蓋がされていた。今回調査した576Y の例は住居跡東コーナー壁際に位置し、ほぼ完形の広口壷が正位に据えられている。隣接して祭壇状遺構（小倉　1990）と考えられる赤色砂利層・貯蔵穴が存在し、住居の付帯施設が集中している。また、埋納土器内部および周辺の覆土をサンプリング、水洗選別を実施し、微細遺物の採取を試みた。その結果、僅かだが、イネ、クリの炭化果実が確認されている（本書付編：自然科学分析を参照）。土器および土坑内部に混入した可能性が指摘されているが、土器埋納土坑が利用当時、口が開いていたのか、蓋をしていたのかなど、どのような状態であったか類例の増加と共に検討していくべきである。

住居空間内の配置や土器の埋納行為など何か特別な行為があったことは間違いないだろう。弥生時代中期の北島遺跡の事例もだが、こうした弥生人の行為を、観念や風習といった側面から文脈的に捉えていく必要がある。

[引用・参考文献]

赤塚次郎　1990『廻間遺跡』（財）愛知県埋蔵文化財センター
大村　直　1994『戸張一番割遺跡の甕形』『史館』第25号　史館同人
小倉　均　1990「弥生時代から古墳時代にかけてみられる祭壇状遺構の研究」『埼玉考古』第27号　埼玉考古学会
西川　修一　1991「関東のタタキ甕」『神奈川考古』第27号　神奈川考古同人会
比田井克仁　1997「弥生時代後期における時間軸の検討―南武蔵地域の検討を通して―」『古代』第103号　早稲田大学考古学会
吉田　稔　2003『北島遺跡Ⅵ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第286集　埼玉県埋蔵文化財調査事業団

［付　編］

自然科学分析

Ⅰ　西原大塚遺跡から出土した炭化種実

佐々木由香・バンダリ スダルシャン（パレオ・ラボ）

1. はじめに

埼玉県志木市幸町に所在する西原大塚遺跡は、柳瀬川を北西に望む武蔵野台地北東端の台地の縁辺に立地する、旧石器時代から近世にかけての複合遺跡である。ここでは、第180地点の弥生時代後期後葉の竪穴住居跡と、第182地点の縄文時代中期中葉の竪穴住居跡から得られた炭化種実の同定を行い、当時利用された種実について検討した。

2. 試料と方法

試料は、堆積物の水洗済み試料2試料10袋である。考古学的な所見による遺構の時期は、第182地点の20号住居跡が縄文時代中期中葉（勝坂式期）、第180地点の576号住居跡が弥生時代後期後葉である。

堆積物試料の採取から水洗までの作業は、志木市教育委員会によって行われた。水洗前の土壌重量を第38表に示す。種実の抽出、同定および計数は、実体顕微鏡下で行った。計数の方法は、完形または一部が破損していても1個体とみなせるものは完形として数え、１個体に満たないものは破片とした。同定された試料は、志木市教育委員会に保管されている。

3. 結果

同定した結果、木本植物ではクリ炭化果実の1分類群、草本植物ではイネ炭化種子の1分類群の、計2分類群が見いだされた。状態が悪く、科以上の細分に必用な識別点が残存していない一群を、同定不能炭化種実とした。炭化種実以外には、炭化した子嚢菌がみられた（第38表）。また、未炭化の種実も得られたが、遺構の立地から当時の生の種実は遺存しないと判断されるため、検討の対象外とした。

以下に、得られた炭化種実について遺構別に記載する（同定不能炭化種実は除く）。

	地点名	第180地点	第182地点
	遺構名	576号住居跡	20号住居跡
	採取位置	堆納土器内部および周辺	炉体土器
	時期	弥生時代後期後葉	縄文時代中期中葉
分類群	水洗重量 (g)	7796.5	2102.0
クリ	炭化果実	(1)	
イネ	炭化種子	(2)	
同定不能	炭化種実	(8)	(6)
子嚢菌	炭化子嚢	1	
未炭化			
ヒエ属	有ふ果	1	

第38表　西原大塚遺跡から出土した炭化種実（括弧内は破片数）

第180地点576号住居跡：クリとイネがわずかに得られた。

第182地点20号住居跡：同定可能な炭化種実は得られなかった。

次に、炭化種実の記載を示し、図版24に写真を掲載して同定の根拠とする。

(1) クリ　Castanea crenata Sieb. et Zucc.　炭化果実　ブナ科

完形ならば側面観は広卵形。表面は平滑で、細い縦筋がみられる。底面にある殻斗着痕はざらつく。果皮内面にはいわゆる渋皮が厚く付着する。残存高2.2㎜、残存幅1.6㎜。

(2) イネ　Oryza sativa L.　炭化種子（頴果）　イネ科

完形ならば上面観は両凸レンズ形、側面観は楕円形。一端に胚が脱落した凹みがあり、両面に縦方向の2本の浅い溝がある。残存長2.2㎜、残存幅2.1㎜。

(3) 子嚢菌　Ascomycetes　炭化子嚢

球形で、表面は平滑または微細な網目状隆線がある。長さ0.5㎜、幅0.5㎜。

4. 考察

竪穴住居跡から出土した炭化種実を検討した結果、第182地点の縄文時代中期中葉の20号住居跡から出土した炉体土器内からは炭化種実が得られなかった。

第180地点の弥生時代後期後葉の576号住居跡の埋納土器内部および周辺からは、クリとイネがわずかに得られた。種実の出土位置から、いずれも住居に伴うと考えられ、食用として利用されたと考えられる。クリの産出部位は食用にならない果実であったため、不要な残滓が燃やされて、埋納土器内部に入ったか周辺に堆積した可能性がある。子嚢菌は、炭化材などに伴って住居内に持ち込まれた可能性がある。

図　　版

1. 調査前風景

2. 表土剥ぎ風景

3. 遺構確認状況

4. 表土剥ぎ(反転)風景

5. 遺構確認状況(反転後)

6. 調査風景

7. 183号住居跡

8. 696号土坑

図版2　西原大塚遺跡第180地点

1. 700号土坑

2. 53号住居跡

3. 55号住居跡

4. 55号住居跡

5. 55号住居跡Ｐ１

6. 55号住居跡Ｐ２

7. 55号住居跡炉跡

8. 55号住居跡掘り方

1. 56号住居跡

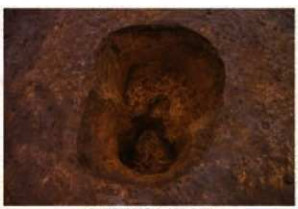
2. 56号住居跡掘り方

3. 570号住居跡

4. 570号住居跡遺物出土状態

5. 570号住居跡Ｐ１

6. 570号住居跡Ｐ２



7. 570号住居跡Ｐ３

8. 570号住居跡Ｐ４

1. 570号住居跡炉跡A

2. 570号住居跡旧床面

3. 570号住居跡炉跡B

4. 570号住居跡掘り方

5. 571号住居跡

6. 571号住居跡P 1

7. 571号住居跡P 2

8. 571号住居跡掘り方

1. 572号住居跡

2. 573号住居跡

3. 574号住居跡

4. 574号住居跡遺物出土状態

5. 574号住居跡炉跡

6. 575号住居跡

7. 575号住居跡遺物出土状態

8. 575号住居跡遺物出土状態

1. 575号住居跡Ｐ１

2. 575号住居跡貯蔵穴

3. 575号住居跡掘り方

4. 576号住居跡

5. 576号住居跡Ｐ１

6. 576号住居跡Ｐ２

7. 576号住居跡Ｐ３

8. 576号住居跡貯蔵穴

1. 576号住居跡炉跡

2. 576号住居跡赤色砂利層及び土器埋納土坑

3. 576号住居跡

4. 576号住居跡埋納土器出土状態

5. 土器埋納土坑調査風景

6. 576号住居跡埋納土器出土状態

7. 土器埋納土坑調査風景

8. 576号住居跡埋納土器出土状態

1. 土器埋納土坑調査風景

2. 576号住居跡土器埋納土坑掘り方

3. 577号住居跡

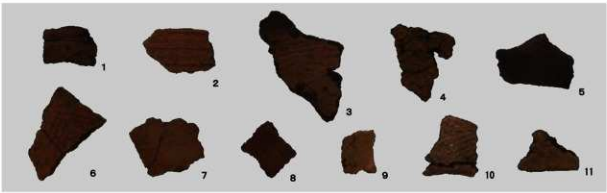
4. 577号住居跡掘り方

5. 578号住居跡

6. 578号住居跡貯蔵穴

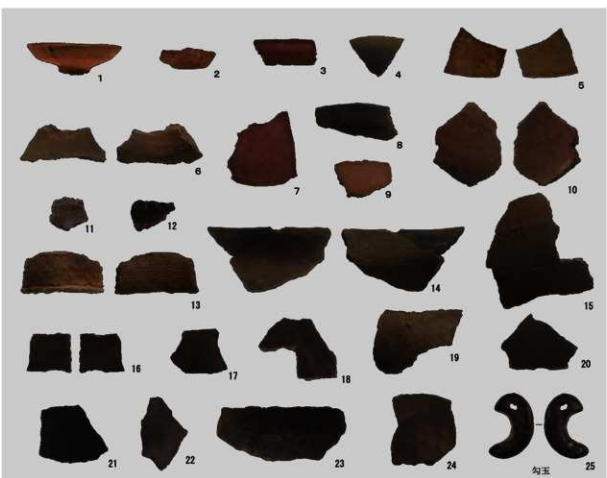
7. 578号住居跡掘り方

8. 694号土坑

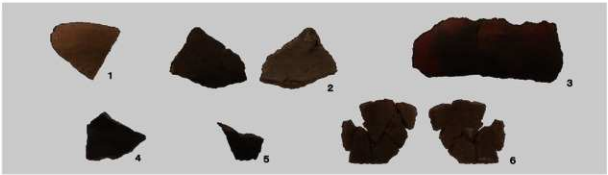


1. 183号住居跡出土遺物

2. 土坑・ピット出土遺物



3. 53号住居跡出土遺物

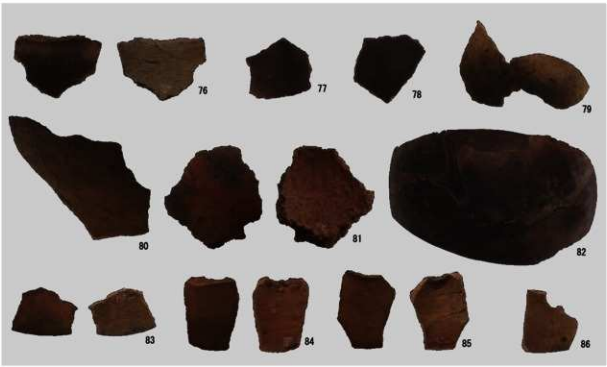


1. 55号住居跡出土遺物

2. 56号住居跡出土遺物

3. 570号住居跡出土遺物 1

570号住居跡出土遺物２



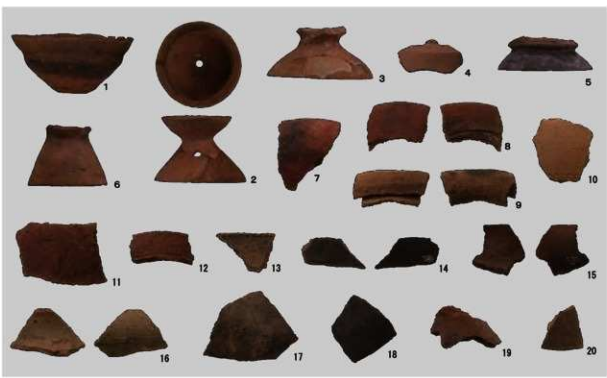
1. 570号住居跡出土遺物 3

2. 571号住居跡出土遺物

3. 572号住居跡出土遺物

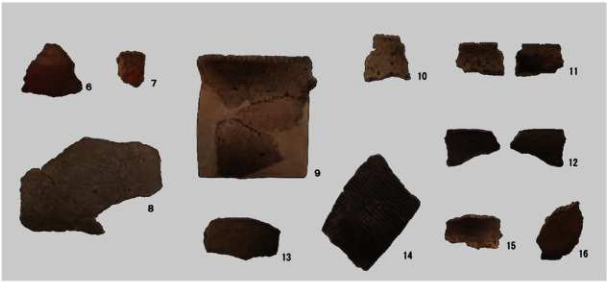
4. 573号住居跡出土遺物

1. 574号住居跡出土遺物

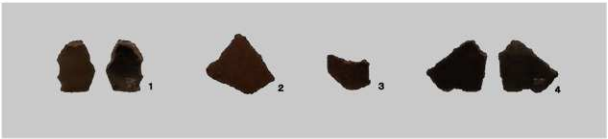


2. 575号住居跡出土遺物

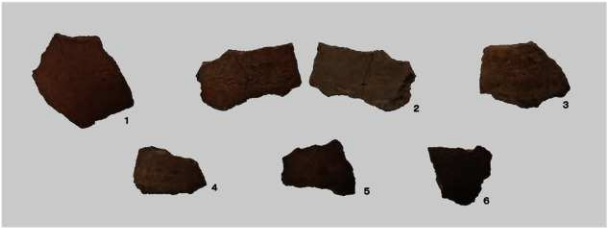
3. 576号住居跡出土遺物 1



1. 576号住居跡出土遺物 2



2. 577号住居跡出土遺物



3. 578号住居跡出土遺物

4. 694号土坑出土遺物

5. 7号ピット出土遺物

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
土器片錘

遺構外出土遺物

1. 調査前風景

2. 表土剥ぎ風景

3. 1区遺構確認状況

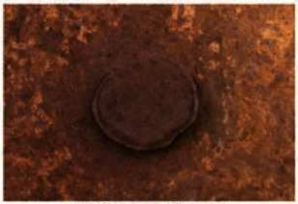
4. 2区遺構確認状況

5. 3区遺構確認状況

6. 20号住居跡

7. 20号住居跡P 6・7

8. 20号住居跡P 8



1. 20号住居跡炉体土器

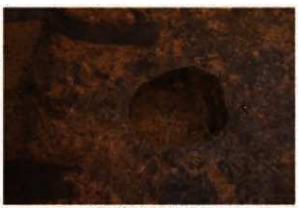
2. 20号住居跡炉体土器

3. 109号住居跡遺物出土状態

4. 109号住居跡遺物出土状態

5. 109号住居跡遺物出土状態(区画整理第17地点)

6. 109号住居跡



7. 109号住居跡P 1

8. 109号住居跡炉跡

1. 303号住居跡

2. 591号住居跡遺物出土状態

3. 591号住居跡遺物出土状態

4. 591号住居跡

5. 591号住居跡P 1

6. 591号住居跡貯蔵穴

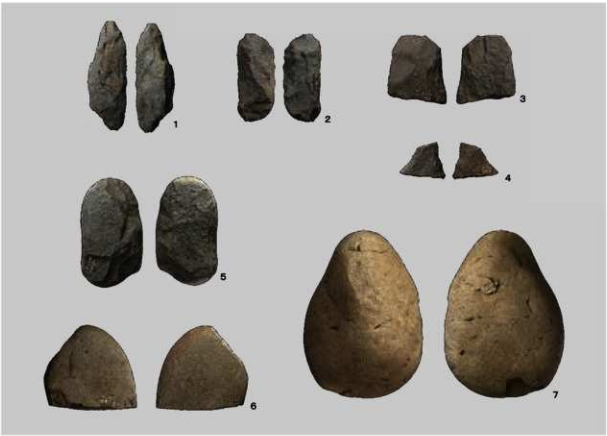
7. 591号住居跡炉跡

8. 592号住居跡

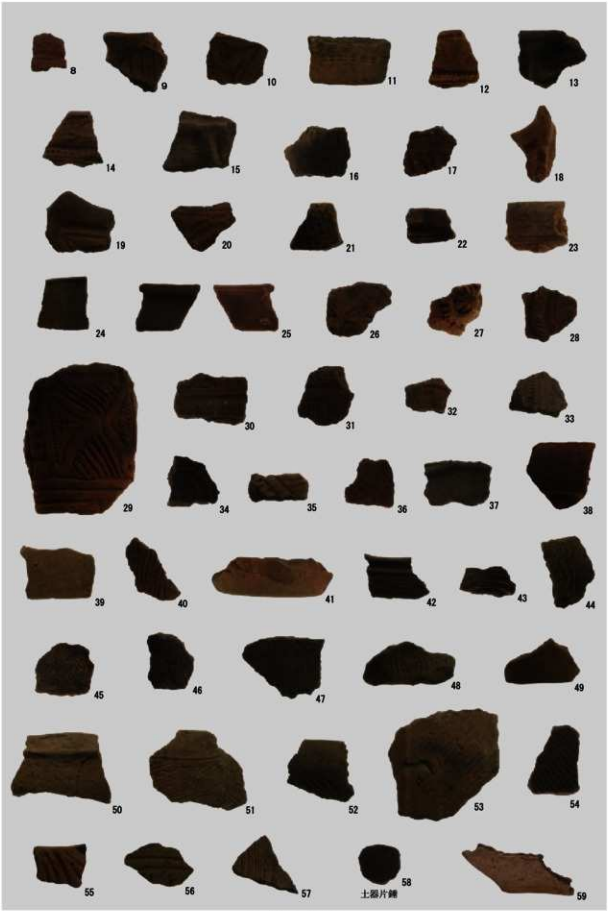
1. 20号住居跡出土遺物

2. 109号住居跡出土遺物

1. 591号住居跡出土遺物



2. 遺構外出土遺物1


8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
土器片錘
59

遺構外出土遺物２

図版22　西原大塚遺跡第183・184地点

1. 調査前風景

2. 表土剥ぎ及び調査区整備風景

3. 遺構確認状況(第183地点)

4. 遺構確認状況(第184地点1区)

5. 遺構確認状況(第184地点2区)

6. 317号住居跡

7. 317号住居跡炉跡

8. 318号住居跡

1．590号住居跡

2．590号住居跡Ｐ１

3．埋戻し作業風景

4．埋戻し後風景

5．318号住居跡出土遺物

6．遺構外出土遺物（第184地点）

スケール 1-3:1mm

1．クリ炭化果実（第180地点576号住居跡）、2．イネ炭化種子（第180地点576号住居跡）、
3．子嚢菌炭化子嚢（第180地点576号住居跡）

西原大塚遺跡第180地点から出土した炭化種実

報 告 書 抄 録

ふ り が な	しきしいせきぐん 23
書　　名	志木市遺跡群 23
シリーズ名	志木市の文化財
シリーズ番号	第70集
編 著 者	大久保 聡　尾形則敏　深井恵子
編 集 機 関	埼玉県志木市教育委員会
所 在 地	〒353-0002 埼玉県志木市中宗岡1丁目1番1号　TEL 048（473）1111
発行年月日	平成30（2018）年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 (°′″)	東経 (°′″)	調査期間	調査面積㎡ (全体面積)	調査原因
にしはらおおつかいせき 西原大塚遺跡 （第180地点）	しきし　さいわいちょう 志木市幸町 3丁目7383の一部	11228	09-003	35° 49′ 26″	139° 33′ 48″	20120604 ～ 20120801	156.00 (235.28)	個人住宅建設
にしはらおおつかいせき 西原大塚遺跡 （第182地点）	しきし　さいわいちょう 志木市幸町 3丁目7209	11228	09-003	35° 49′ 26″	139° 33′ 55″	20121003 ～ 20121030	52.76 (185.47)	個人住宅建設
にしはらおおつかいせき 西原大塚遺跡 （第183地点）	しきし　さいわいちょう 志木市幸町 3丁目7172-2、7173-1	11228	09-003	35° 49′ 25″	139° 33′ 58″	20120924 ～ 20121003	18.00 (100.02)	個人住宅建設
にしはらおおつかいせき 西原大塚遺跡 （第184地点）	しきし　さいわいちょう 志木市幸町 3丁目7173-2	11228	09-003	35° 49′ 25″	139° 33′ 58″	20120924 ～ 20121003	25.06 (100.00)	個人住宅建設

所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西原大塚遺跡 （第180地点）	集落跡・ 墓域	縄文時代前期 縄文時代 弥生時代後期～古墳時代前期	住居跡　1軒 土坑　5基 住居跡　12軒 土坑　2基	土器 土器 土器・石製品（勾玉） 土器	576Y で住居内から土器埋納土坑が検出された。
西原大塚遺跡 （第182地点）	集落跡・ 墓域	縄文時代中期 弥生時代後期～古墳時代前期	住居跡　1軒 住居跡　4軒	土器・石器 土器	109Y から籠目痕をもつ壺形土器が出土。
西原大塚遺跡 （第183地点）	集落跡・ 墓域	弥生時代後期～古墳時代前期	住居跡　1軒	土器	
西原大塚遺跡 （第184地点）	集落跡・ 墓域	弥生時代後期～古墳時代前期	住居跡　2軒	土器	

要　約

西原大塚遺跡は、市内最大規模の遺跡で、旧石器時代～近世・近代にかけての複合遺跡である。

今回の報告の主な遺構では、縄文時代の遺構として、第180地点から前期後葉の黒浜期の住居跡１軒、第182地点から中期中葉の勝坂式期の住居跡１軒が検出された。20J（勝坂期）は以前に区画整理第17・39地点で調査されており、今回の調査で5体土器が検出された。

弥生時代後期～古墳時代前期の遺構としては、住居跡が第180地点から12軒、第182地点から4軒、第183地点から1軒、第184地点から２軒検出された。第180地点では156㎡の調査区範囲から住居跡12軒が重複して検出されており、密な住居跡の分布を示す。576Y からは、赤色砂利層の下から土器埋納土坑が検出され、市内初の事例となった。また、571Y・576Y の覆土中から、タタキ成形痕がある甕形土器の破片が出土した。

志木市の文化財　第70集

志木市遺跡群23

発　行　　埼玉県志木市教育委員会
　　埼玉県志木市中宗岡１丁目１番１号
発行日　　平成30（2018）年３月31日
印　刷　　株式会社 白 峰 社